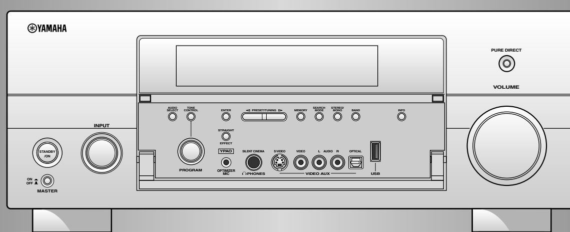
YAMAHA

J

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1900



取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。


警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。


注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

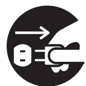

警告

電源/電源コード


必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。


プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。


禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池


禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には:

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。



スピーカーターミナルレンチは小さなお子様の手の届かないところに保管する。

小さなお子様があやまって飲むおそれがあります。

手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

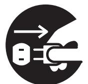
⚠ 注意

電源/電源コード



必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

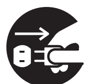

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意


必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。


禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。


注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

準備

基本操作

応用操作

その他の情報

付録

「ⒶMASTER ON ／ OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。

マニュアル設定（MANUAL SETUP）でできること

MANUAL SETUP では、リスニング環境に応じてさまざまな設定を変更できます。以下は、MANUAL SETUP で調節できる便利なメニューを記載しています。各メニューについて詳しくは「手動で本機を設定する（MANUAL SETUP)」（67 ページ）、および「セットメニューツリー」（112 ページ）をご覧ください。

スピーカーを設定する
AUTO SETUP によるスピーカー設定がリスニング環境に適していない場合、以下の項目を手動で調節できます。
SPEAKER MENU → CONFIG （68 ページ）
SPEAKER MENU → LEVEL (69 ページ)
SPEAKER MENU → DISTANCE (69 ページ)

ミュート時の音量を設定する
テレビを視聴中に電話がかかってきたときなど、完全に音を消したくない場合に、下げる音量を設定できます。
VOLUME MENU → MUTING TYPE (71 ページ)

音量の初期値を設定する
入力ソースに記録されている音量にかかわらず、電源をオンにしたときの音量を設定できます。
VOLUME MENU → INIT. VOL. (71 ページ)

ダイナミックレンジを設定する
最小音量と最大音量の幅をダイナミックレンジといいます。ダイナミックレンジが広くなるほど、ビットストリーム音声信号を正確に再生します。スピーカー再生用とヘッドホン再生用で個別に設定できます。
SOUND MENU → DYNAMIC RANGE (72 ページ)

音声と映像のずれを補正する
接続機器により、映像が音声よりも遅れて再生されることがあります。映像と音声の出力タイミング補正機能を持つ映像機器を本機と HDMI 接続している場合、出力タイミングを自動的に補正できます。
SOUND MENU → LIPSYNC (72 ページ)

入出力端子の割り当てを変更する
初期設定で各端子に割り当てられている機器とは異なる機器を接続する場合に端子の割り当てを変更できます。フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示される入力ソース名も変更できます。
INPUT MENU → (入力ソース) → I/O ASSIGNMENT (75 ページ)
INPUT MENU → (入力ソース) → INPUT RENAME (75 ページ)

入力ソース間の音量差を補正する
入力ソースを変更したときに音量が変化する場合に、ソースごとに音量を調節できます。
INPUT MENU → (入力ソース) → VOL. TRIM (75 ページ)

バックグラウンドビデオ機能を設定する
CD やラジオの音声を映像と一緒に楽しみたい場合に映像ソースを設定します。たとえば、FM 放送を聴きながら DVD 映像を楽しむには、「TUNER」を選んでから「BGV」を「DVD」に設定します。
INPUT MENU → (入力ソース) → BGV (76 ページ)

フロントパネルディスプレイの明るさを調節する
フロントパネルディスプレイの明るさを暗くしたり明るくしたりすることができます。
OPTION MENU → DISPLAY SET → DIMMER (77 ページ)

ショートメッセージ表示をオン／オフする
フロントパネルやリモコンキーで本機を操作するとモニター画面にショートメッセージを表示します。表示をオフにしたい場合は「OFF」に設定してください（初期設定：ON)。
OPTION MENU → DISPLAY SET → SHORT MESSAGE (77 ページ)

モニター画面の表示時間を設定する
iPod や USB メニューを操作したときに、モニター画面にメニューを表示する時間を設定できます。
OPTION MENU → DISPLAY SET → ON SCREEN (77 ページ)

設定値を保護する
音場パラメーターなどの設定を変更した場合に、誤操作による設定値の変更を防止できます。
OPTION MENU → MEMORY GUARD (78 ページ)

本機の特長

高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ

◆ 定格出力（6Ω、20 Hz ～ 20 kHz、歪率 0.06%）
フロント：130 W + 130 W
センター：130 W
サラウンド：130 W + 130 W
サラウンドバック：130 W + 130 W

入出力端子

◆ HDMI（入力× 4、出力× 1）、D5 ビデオ（入力× 3、出力× 1）、コンポーネントビデオ（入力× 3、出力× 1）、S ビデオ（入力× 6、出力× 3）、コンポジットビデオ（入力× 6、出力× 3）、同軸デジタル（入力× 3）、光デジタル（入力× 5、出力× 2）、アナログ（入力× 10、出力× 3）、USB × 1
◆ スピーカー端子（7 チャンネル）、プリアウト端子（7 チャンネル）、サブウーファー端子、プレゼンススピーカー端子
◆ アナログマルチチャンネル入力端子（6 ／ 8 チャンネル）

音場プログラム

◆ ヤマハ独自の音場技術
◆ CINEMA DSP 3D
◆ コンプレストミュージック・エンハンサー
◆ バーチャルシネマ DSP
◆ サイレントシネマ

多彩なデコーダー

◆ Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
◆ DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ
◆ Dolby Digital ／ Dolby Digital EX
◆ DTS ／ DTS-ES Matrix 6.1、Discrete 6.1、DTS 96/24
◆ Dolby Pro Logic ／ Dolby Pro Logic II ／ Dolby Pro Logic IIx
◆ DTS NEO:6
◆ SRS Circle Surround II
◆ AAC

高機能 FM ／ AM チューナー

◆ 40 局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局

HDMI™（High-Definition Multimedia Interface）

◆ フルハイビジョン映像をマルチチャンネルデジタル音声と一緒に楽しめる HDMI（v1.3a、Deep Color、x.v.Color™ 対応）インターフェース（1080p 映像信号の伝送にも対応）
– 映像と音声のずれ補正機能（リップシンク）
– ディープカラー映像信号（30 ／ 36bit）対応
– x.v.Color™ 映像信号対応
– ハイビジョン映像対応
– 高品質デジタル音声フォーマット対応
◆ HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）準拠
◆ アナログ映像入力信号を HDMI デジタル映像信号へ変換してモニター出力できるビデオコンバージョン機能（コンポジットビデオ⇔ S ビデオ⇔コンポーネントビデオ→ HDMI）
◆ アナログ映像信号の解像度変換機能（480i または 480p → 720p または 1080i、1080p）

DOCK 端子

◆ ヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を接続できる DOCK 端子を装備

USB 端子

◆ USB デバイスを接続できる USB 端子を装備

スピーカー自動設定機能

◆ 視聴空間自動最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）
◆ 複数のリスニングポジションに対応できるマルチ測定機能
◆ パラメトリックイコライザー選択機能

その他

◆ 192kHz、24bit の D ／ A コンバーター
◆ 視聴環境に合わせて各種設定をモニターを見ながら変更できるメニュー画面表示機能
◆ アナログ映像の I/P 変換機能（480i → 480p）
◆ すべてのソースを高音質で再生できるピュアダイレクトモード
◆ 音量とダイナミックレンジの連動機能（ADAPTIVE DRC）
◆ 音量と DSP 効果レベルの連動機能（ADAPTIVE DSP LEVEL）
◆ コード設定機能付リモコン
◆ 設定状態を保存したり呼び出したりできるシステムメモリー
◆ スリープタイマー

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

❏ リモコン
❏ 単 4 乾電池（4 本）
❏ オプティマイザーマイク
❏ AM ループアンテナ
❏ FM 簡易アンテナ
❏ 電源コード
❏ スピーカーターミナルレンチ

本書の記載について

本書について

- ・は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- ・フロントパネルキーとリモコンキーのどちらでも操作できる場合があります。フロントパネルキーとリモコンキーの名称が違う場合は、（　）内にリモコンキーの名称を記載しています。
- ・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- ・「ⒶMASTER ON/OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。



AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。



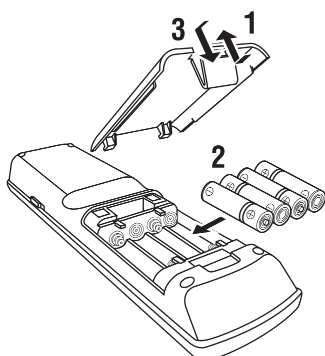
「サイレントシネマ TM　SILENT CINEMATM」はヤマハ株式会社の登録商標です。



Circle Surround Ⅱ、FOCUS、TruBass、SRS と 記号は SRS Labs, Inc. の商標です。Circle Surround Ⅱ、FOCUS と TruBass 技術は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる



1 リモコンの電池カバーを取りはずす。

2 付属の単４乾電池（４本）を極性（＋、プラス／－、マイナス）表示にしたがってリモコンの電池ケースに入れる。

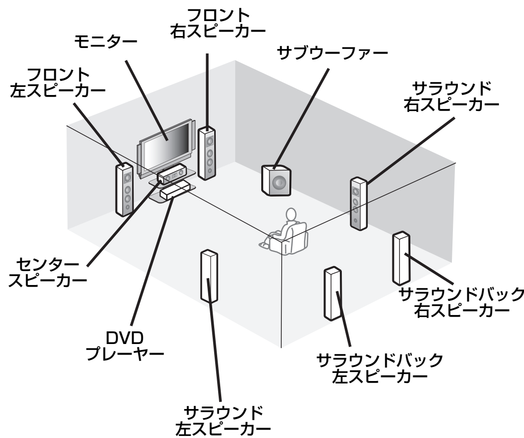
3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

- 以下の場合はすべての乾電池を新しいものに交換してください。
  - リモコンの操作範囲がせまくなった
  - トランスミットインジケーターが光らない、または光が弱くなった
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れたりすることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものありますのでご注意ください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

接続から再生までの手順

DVD を最も簡単に再生する方法を説明します。



ステップ1：
スピーカーを設置・接続する

☞ 11 ページ

ステップ2：
DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する

☞ 12 ページ

ステップ3：
電源をオンにし、再生を始める

☞ 13 ページ

再生スタート！

接続に必要なものを確認する

ここでは、以下の付属品を使います。

- ❏ **電源コード**

以下は本機に付属されていません。

- ❏ **スピーカー**
  - ❏ **フロントスピーカー** .... x 2
  - ❏ **センタースピーカー** .... x 1
  - ❏ **サラウンドスピーカー** .... x 4

  スピーカーは防磁型をお使いください。また、少なくとも2本（フロント用）以上のスピーカーをご用意ください。フロント用以外のスピーカーは、以下の順番で優先的にご用意ください。

  1. サラウンドスピーカー（2本）
  2. センタースピーカー（1本）
  3. サラウンドバックスピーカー（1本または2本）

- ❏ **アンプ内蔵サブウーファー** .... x 1
  ピン端子を装備したアンプ内蔵サブウーファーをご用意ください。

- ❏ **スピーカーケーブル** .... x 7
- ❏ **サブウーファー用ピンケーブル** .... x 1
  ピンケーブルをご用意ください。

- ❏ **DVD プレーヤー** .... x 1
  光デジタル出力端子および D1 ～ D5 ビデオ出力端子を装備した DVD プレーヤーをご用意ください。

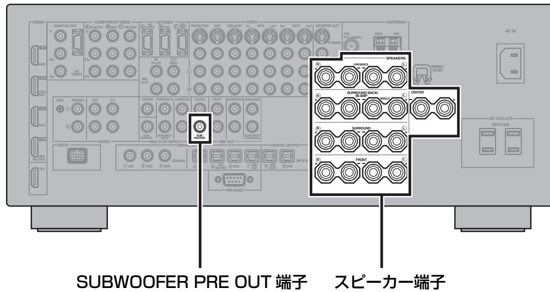
- ❏ **モニター**.. x 1
  D1 ～ D5 ビデオ端子を装備したテレビまたはプロジェクターをご用意ください。

- ❏ **D 端子ケーブル**.. x 2
  D 端子ケーブルをご用意ください。

- ❏ **光ファイバーケーブル** .... x 1

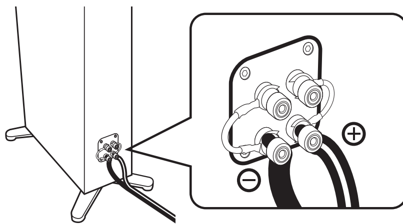
ステップ 1： スピーカーを設置・接続する

スピーカーをお部屋に設置し、本機に接続します。

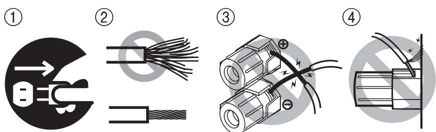


1 **スピーカーとサブウーファーをお部屋に設置する。**

2 **スピーカーケーブルをスピーカーに接続する。**



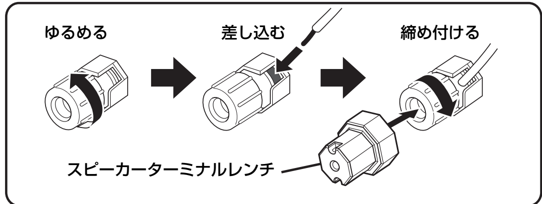
3 **スピーカーケーブルを本機のスピーカー端子に接続する。**

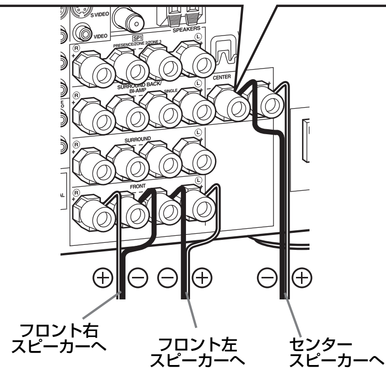


① スピーカーを接続する前に、本機とサブウーファーの電源コードがコンセントに接続されていないことを確認する。
② ショートしないように芯線をしっかりとよじる。
③ スピーカーケーブルの芯線どうしが接触しないようにする。
④ スピーカーケーブルの芯線が本機の金属部に触れないようにする。

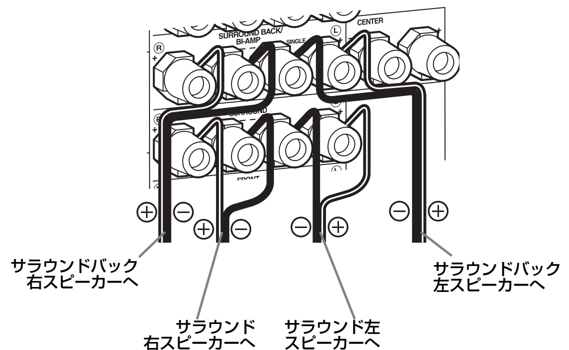
左チャンネル（L)、右チャンネル（R)、「＋」（プラス、赤)、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。

フロント／センタースピーカーの接続

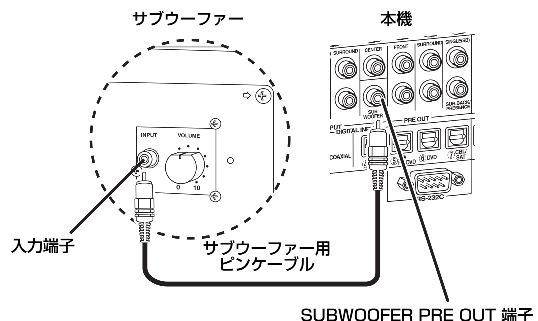




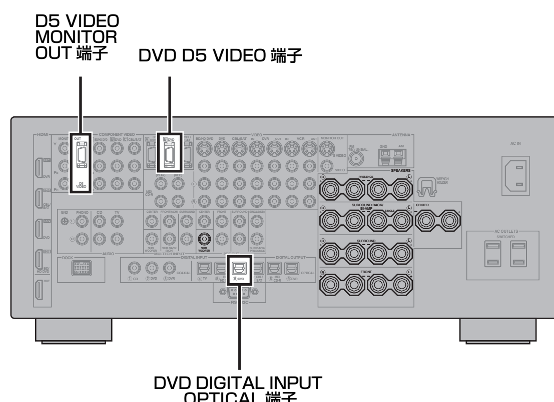
サラウンド／サラウンドバックスピーカーの接続

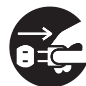


4 **サブウーファー用ピンケーブルを本機の SUBWOOFER PRE OUT 端子、およびサブウーファーの入力端子に接続する。**



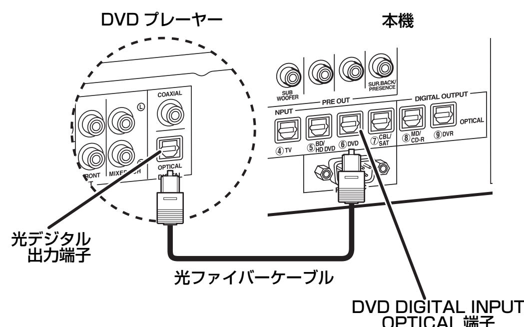
ステップ2：DVD プレーヤーや他の外部機器を接続する



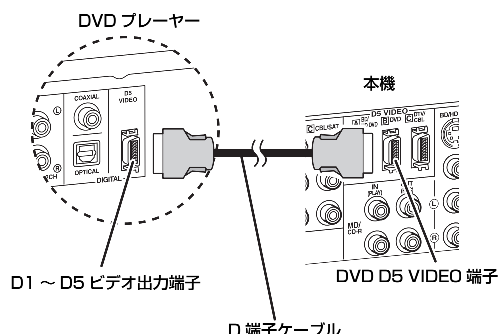


本機および DVD プレーヤーがコンセントに接続されていないことをご確認ください。

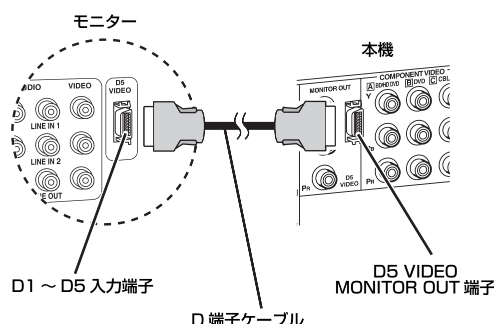
1 DVD プレーヤーの光デジタル出力端子と本機の DVD DIGITAL INPUT OPTICAL 端子を光ファイバーケーブルで接続する。



2 DVDプレーヤーのD1～D5ビデオ出力端子と本機の DVD D5 VIDEO 端子を D 端子ケーブルで接続する。



3 モニターの D1 ～ D5 ビデオ入力端子と本機の D5 VIDEO MONITOR OUT 端子を D 端子ケーブルで接続する。



4 電源コードを本機に接続し、本機や他の外部機器の電源プラグをコンセントに接続する。



電源コードの接続について詳しくは、29 ページをご覧ください。

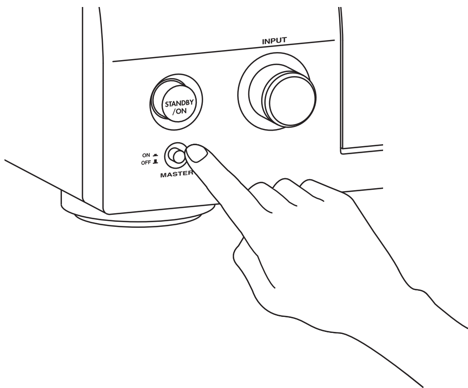
■ その他の接続について

- 他のスピーカーシステム ☞ 17 ページ
- 端子や接続ケーブル ☞ 20 ページ
- HDMI ☞ 21 ページ
- テレビやプロジェクター ☞ 23 ページ
- その他の機器 ☞ 24 ページ
- 外部アンプ ☞ 26 ページ
- マルチチャンネル出力端子がある機器 ☞ 27 ページ
- ヤマハ製 iPod 用ドッグや Bluetooth レシーバー ☞ 27 ページ
- FM ／ AM アンテナ ☞ 28 ページ
- USB デバイス ☞ 56 ページ

ステップ３：電源をオンにし、再生を始める

1 本機に接続したモニターの電源をオンにし、入力を本機の映像に切り替える。

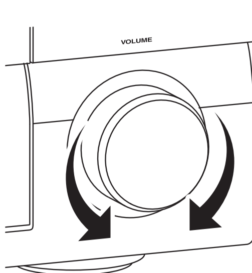
2 フロントパネルの Ⓐ **MASTER ON/OFF** スイッチを押して、ON の位置にする。



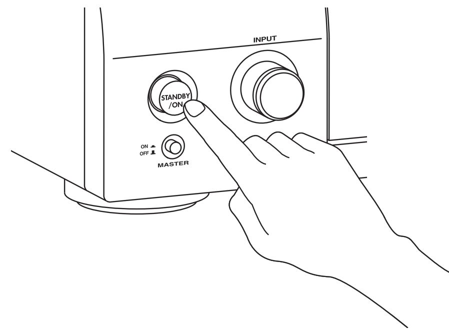
3 Ⓒ **INPUT** セレクターを回して、入力を「DVD」に切り替える。

4 DVD プレーヤーで DVD を再生する。

5 Ⓟ **VOLUME** コントロールを回して、音量を調節する。



6 本機の電源をスタンバイにするには、フロントパネルの Ⓑ **STANDBY/ON** キーを押す。



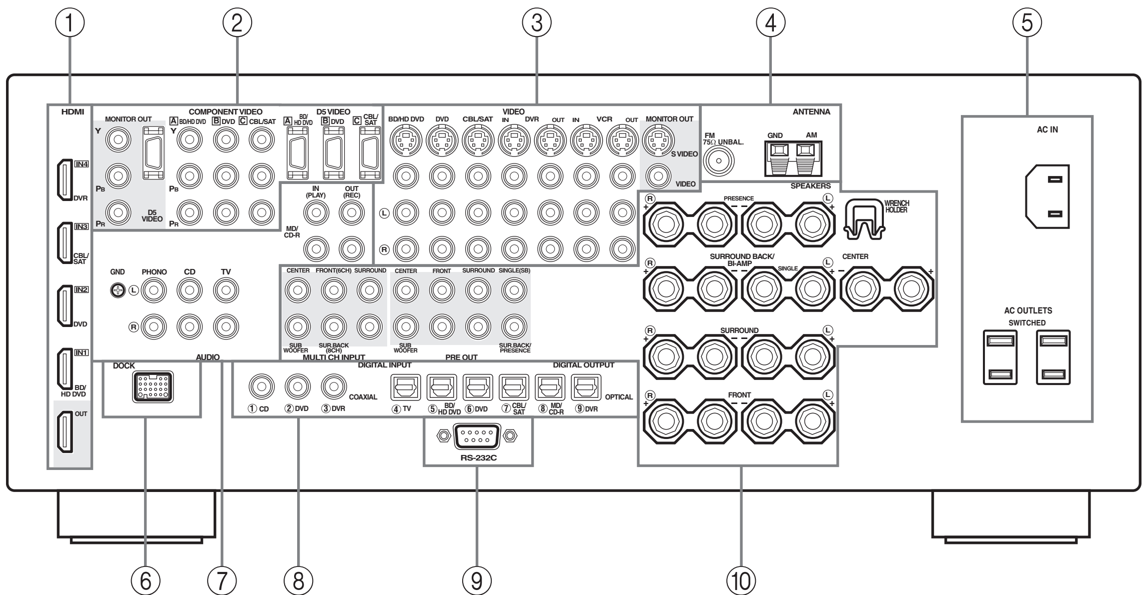


電源のオン／オフやスタンバイについて詳しくは、29 ページをご覧ください。

■ その他の操作について

- スピーカーの自動設定 ☞ 33 ページ
- 基本的な再生操作 ☞ 38 ページ
- 音場プログラム ☞ 42 ページ
- ピュアダイレクトモード ☞ 49 ページ
- FM ／ AM 放送の受信 ☞ 50 ページ
- iPod の再生 ☞ 53 ページ
- Bluetooth 機器の再生 ☞ 55 ページ
- USB デバイスの再生 ☞ 56 ページ

リアパネル（背面）



	名称	参照ページ
①	HDMI 端子	21
②	COMPONENT VIDEO ／ D5 VIDEO 端子	20
③	映像機器用端子	20
④	ANTENNA 端子	28
⑤	AC IN	29
	AC OUTLETS	29
⑥	DOCK 端子	27
⑦	音声機器用端子	20

	名称	参照ページ
⑧	DIGITAL INPUT ／ OUTPUT 端子	20
⑨	RS-232C 端子	–
⑩	MULTI CH INPUT 端子	27
	PRE OUT 端子	26
	SPEAKERS 端子	17
	WRENCH HOLDER	19

ご注意

RS-232C 端子はサービス用の端子です。通常は使用しません。

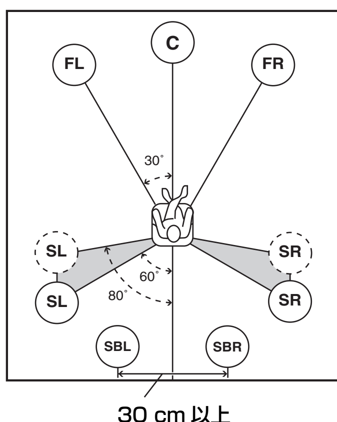
スピーカーを設置する

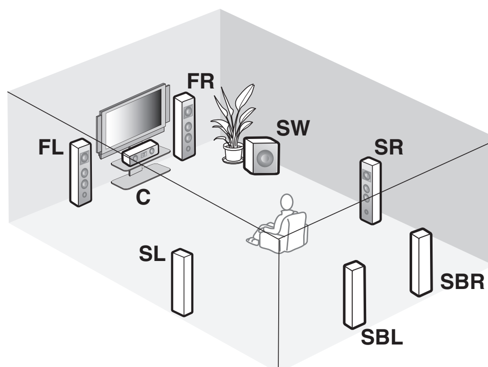
下図はおすすめのスピーカー配置を表しています。



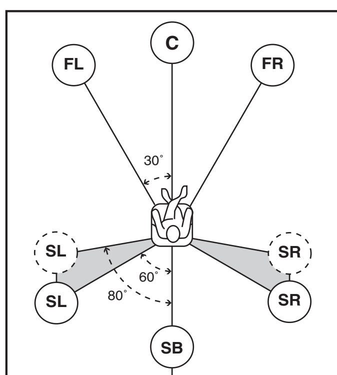
- 7.1 チャンネルシステムでは、次世代オーディオフォーマット（Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio など）や音場プログラムの効果を最大に発揮できます。
- CINEMA DSP 音場プログラムの効果をさらに楽しむには、プレゼンススピーカーも使用することをおすすめします。

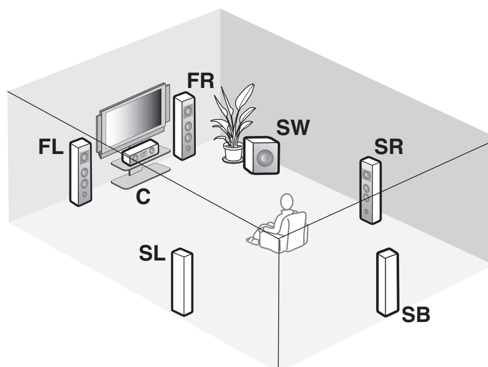
7.1 チャンネル構成の場合



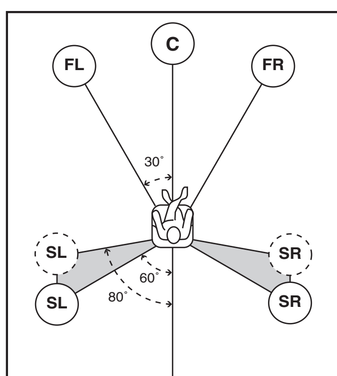


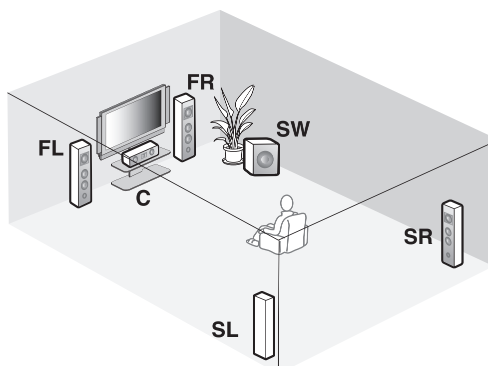
6.1 チャンネル構成の場合





5.1 チャンネル構成の場合





準備

■ スピーカーについて

フロント左／右スピーカー（FL ／ FR）
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適当です。

センタースピーカー（C）
会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント左／右スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

サラウンド左／右スピーカー（SL ／ SR）
サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。

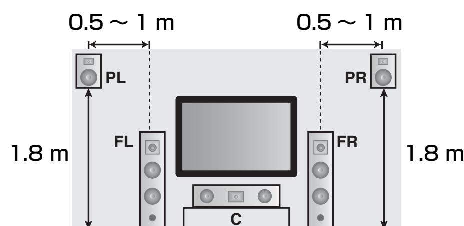
サラウンドバック左／右スピーカー（SBL ／ SBR）
後方の効果音を出力します。リスニングルーム後方に、リスニングポジションに向けて設置します。左右のスピーカーは 30cm 以上間隔を開けて設置してください。フロント左／右スピーカーと同じ間隔が理想的です。

サブウーファー（SW）
ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や、低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント左／右スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

その他のスピーカー構成
7.1 ／ 6.1 ／ 5.1 チャンネル以外のスピーカー構成でも、マルチチャンネルソースを音場プログラムと一緒に楽しめます。
「AUTO SETUP」（33 ページ）、または「SPEAKER MENU」（68 ページ）で、スピーカーのサラウンド音声出力を設定できます。

■ プレゼンス左／右スピーカー（PL ／ PR）について

プレゼンススピーカーを使えば、音場プログラム（42 ページ）を選んでいるときに前方の効果音を出力することによって、より豊かなプレゼンス音場を実現できます。CINEMA DSP 音場プログラムを楽しむときはプレゼンススピーカーを使うことをおすすめします。
スピーカーを PRESECE 端子に接続し、「PRESECE SP」を「YES」（69 ページ）に設定してください。



スピーカーを接続する

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、「+」（プラス、赤）、「−」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると、音声が正しく再生されないことがあります。

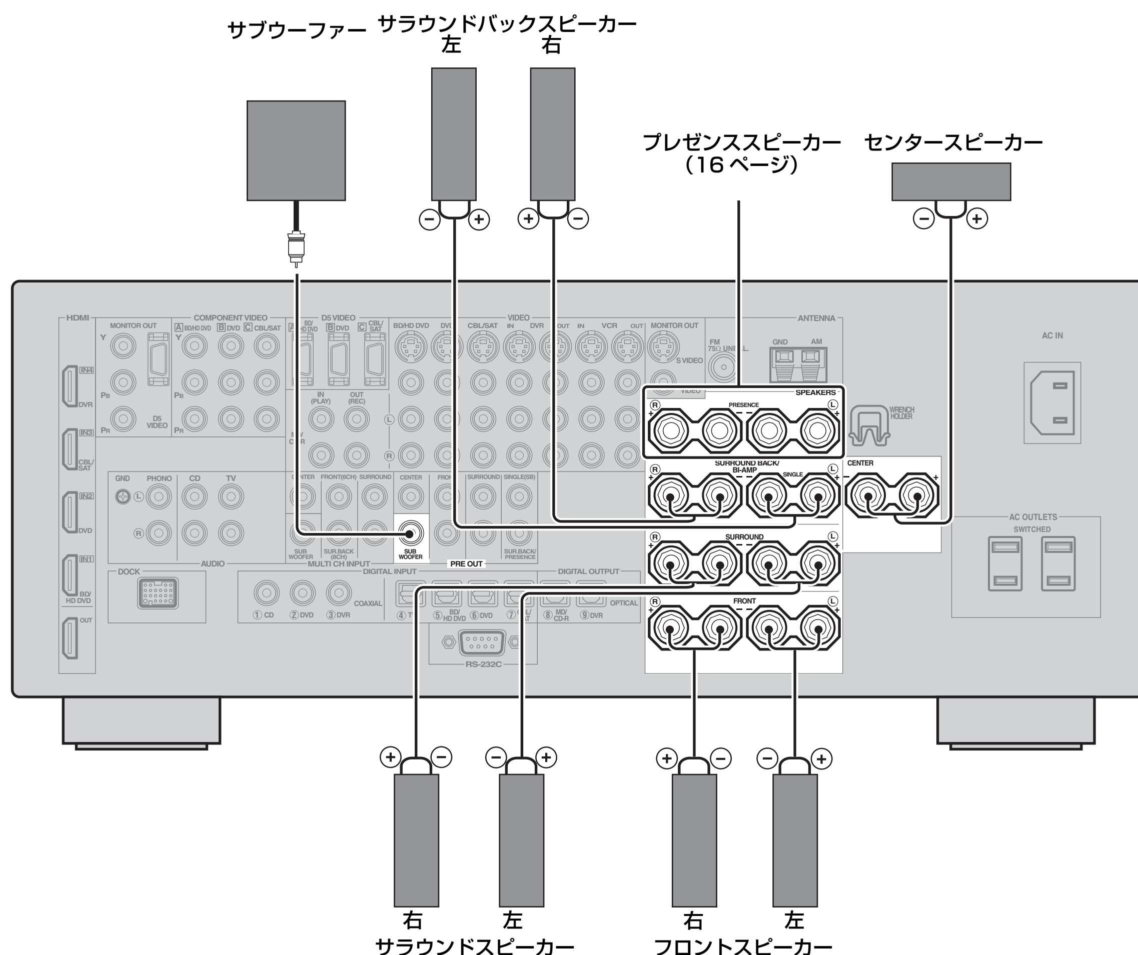
警告

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグがコンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示されます。
- スピーカーは防磁型をお使いください。防磁型スピーカーをお使いでもモニターの画面が乱れる場合は、モニターとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーは、インピーダンスが 6 Ω 以上のものをお使いください。

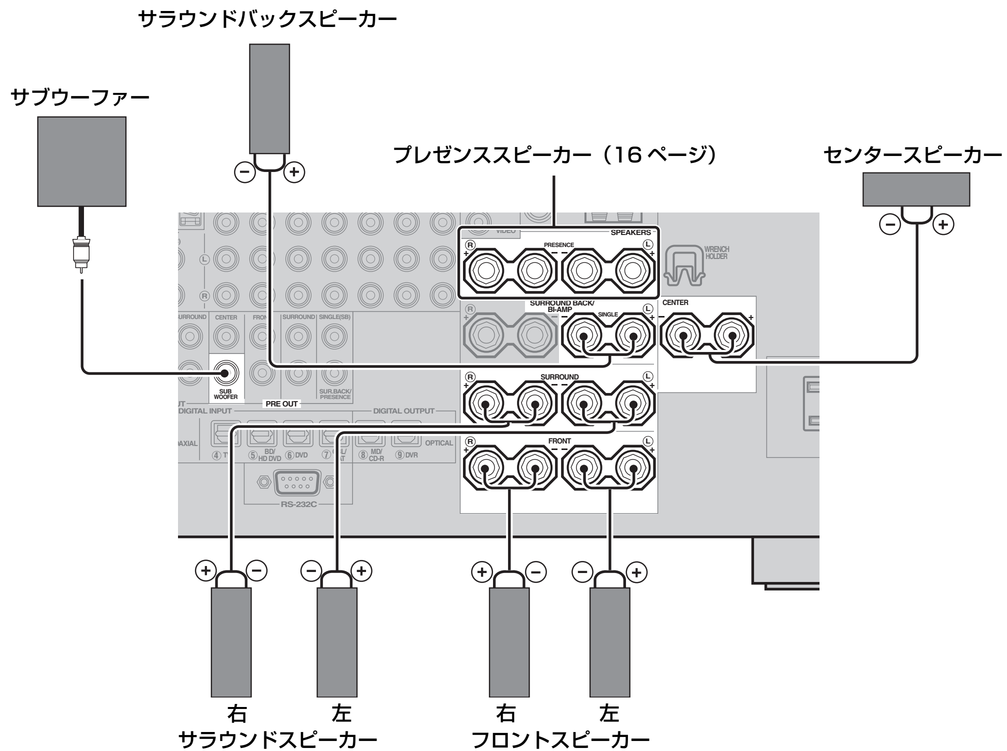
ご注意

一般的にスピーカーケーブルは、平行した 2 本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの 1 本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。
本機はサラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続できますが、同時に音声を出力することはできません。選んでいる入力ソースや音場プログラムに応じて、出力するスピーカーを自動的に決定します。

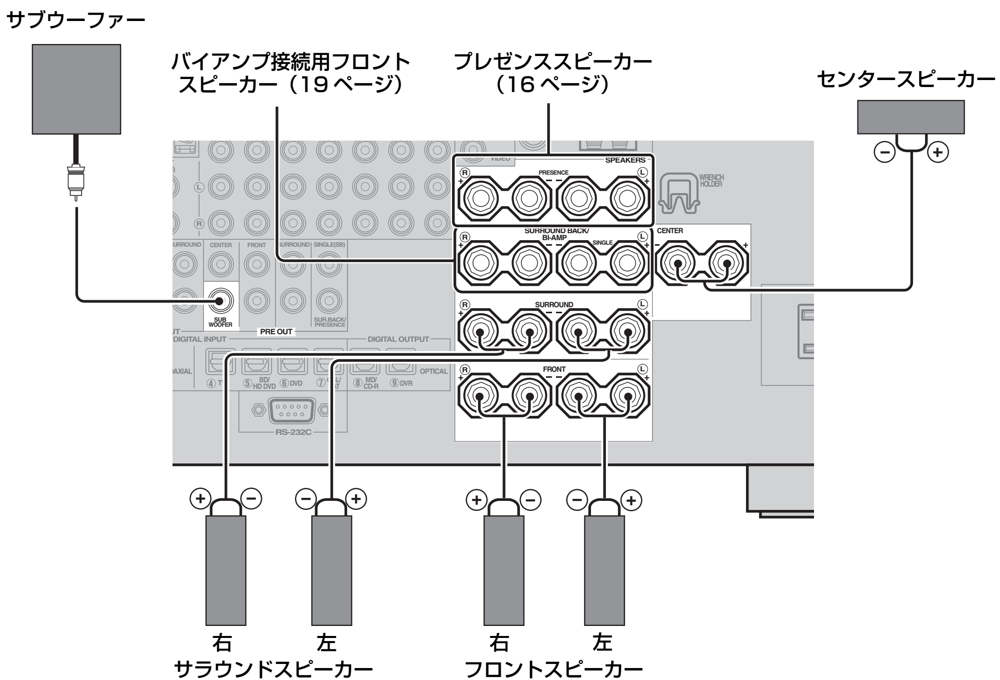
■ 7.1 チャンネル時のスピーカー接続



■ 6.1 チャンネル時のスピーカー接続

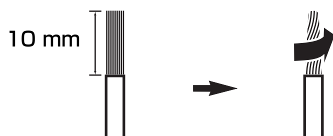


■ 5.1 チャンネル時のスピーカー接続

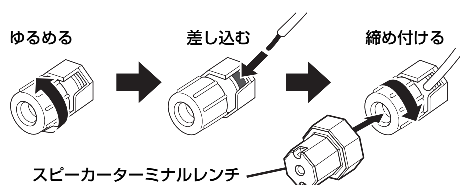


■ スピーカーケーブルを接続する

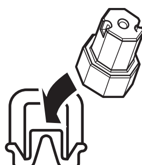
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10 mm ぐらいはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。



2 付属のスピーカーターミナルレンチを使ってスピーカー端子をゆるめ、端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込んでから、端子を締め付ける。

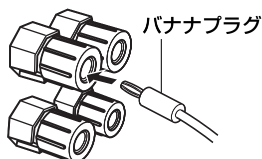


3 スピーカーターミナルレンチは、使い終わったら本機リアパネルのレンチホルダーにかける。



■ バナナプラグを使って接続する

付属のスピーカーターミナルレンチを使ってスピーカー端子を締め付け、端子の先端にバナナプラグを差し込む。

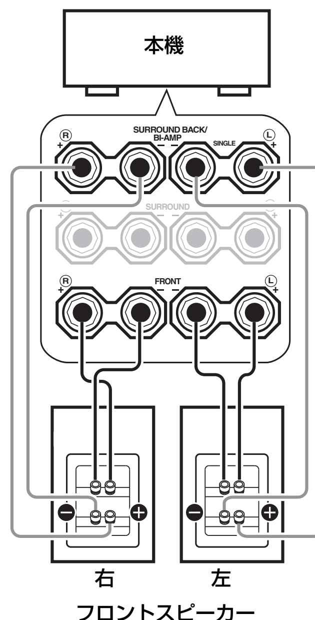


■ バイアンプ接続する

警告

バイアンプ接続をする場合は、本機とスピーカーを接続する前に必ずスピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつないでいる金具またはケーブルを取り外してください。

本機はバイアンプ接続対応のスピーカーを下図のように接続できます。「BI-AMP」で、バイアンプ機能をオンにしてください（92 ページ）。



ご注意

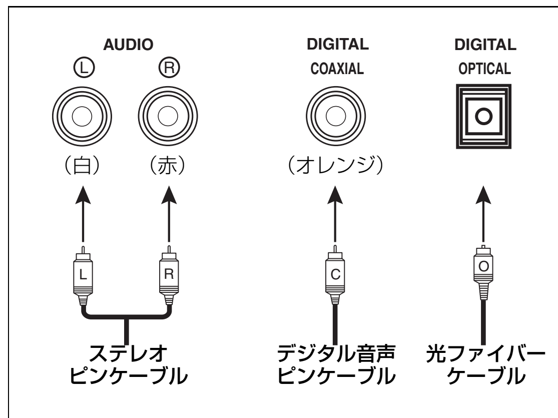
バイアンプ接続をしない場合は、スピーカーのウーファー端子とツィーター端子をつなぐ金具またはケーブルがスピーカーに正しく取り付けられていることをご確認ください。詳しくは、スピーカーに付属している取扱説明書をご覧ください。

準備

端子とケーブル

本機は３種類の音声端子と４種類の映像端子、HDMI 端子を装備しています。接続する機器に合わせて、使用する端子を決定してください。

■ 音声端子



AUDIO 端子

標準的なアナログ左右音声信号をステレオピンケーブルを使って伝送します。
赤いケーブルの先端部を赤い端子へ、白いケーブルの先端部を白い端子へ接続してください。

COAXIAL 端子

同軸デジタル音声信号をデジタル音声ピンケーブルを使って伝送します。

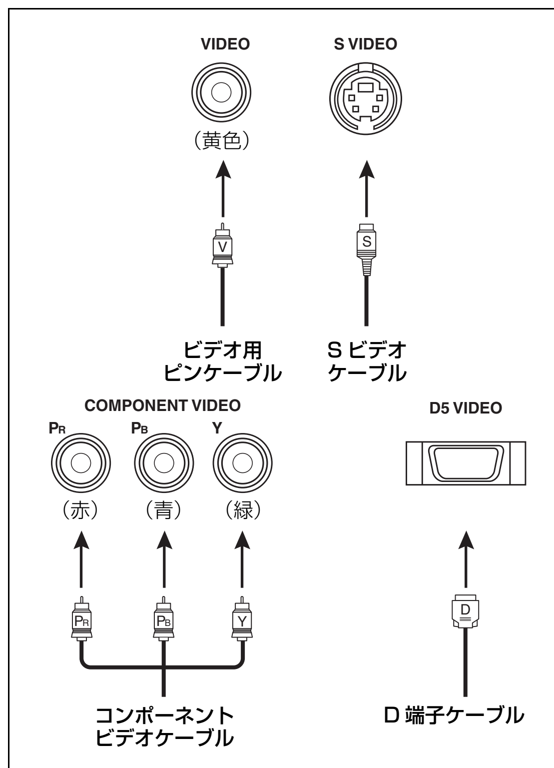
OPTICAL 端子

光デジタル音声信号を光ファイバーケーブルを使って伝送します。

ご注意

デジタル音声端子は、PCM 信号、およびドルビーデジタル、DTS、AAC のビットストリーム信号を入力できます。１つの機器を COAXIAL 端子と OPTICAL 端子の両方を使って接続した場合は、COAXIAL 端子に入力された信号を優先的に再生します。本機の OPTICAL 入力端子は、サンプリング周波数 96kHz までのデジタル信号に対応しています。

■ 映像端子



VIDEO 端子

標準的なコンポジットビデオ信号をビデオ用ピンケーブルを使って伝送します。

S VIDEO 端子

輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した S ビデオ信号を S ビデオケーブルを使って伝送します。

COMPONENT VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（P_B）、赤色差信号（P_R）に分離したコンポーネントビデオ信号をコンポーネントビデオケーブルを使って伝送します。

D5 VIDEO 端子

輝度信号（Y）と青色差信号（P_B）、赤色差信号（P_R）に分離したコンポーネントビデオ信号と、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を D 端子ケーブルを使って伝送します。

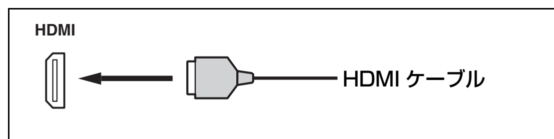


本機はビデオコンバージョン機能を搭載しています。（22 ページ）

HDMIについて

本機はデジタル音声／映像信号を伝送できるHDMI入力端子を４つ、出力端子を１つ装備しています。

■ HDMI端子とHDMIケーブルについて



・接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。
・本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子⇔DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。
・HDMI接続に関するエラー情報を確認できます（40ページ）。
・本機はビデオコンバージョン機能を搭載しています（22ページ）。

ご注意

・HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI／DVI機器の電源をオン／オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。
・HDMI OUT端子からは、HDMI IN端子から入力した音声信号のみ出力します。
・DVI端子を使って本機のHDMI OUT端子と接続しているモニターの電源をオフにすると、信号を認識できない場合があります。

■ HDMI信号について

音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2チャンネルリニアPCM	2ch、32-192kHz、16／20／24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニアPCM	8ch、32-192 kHz、16／20／24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2／5.1ch、2.8224MHz、1bit	SA-CD
ビットストリーム	ドルビーデジタル、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HDオーディオ）	ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HDマスターオーディオ、DTS-HDハイレゾリューションオーディオ	ブルーレイディスク、HD DVD



・再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、以下の方法で音声接続すれば、音声解説を楽しめます。
－アナログマルチチャンネル接続（27ページ）
－デジタル接続
・再生機器の取扱説明書をご覧になり、機器を正しく設定してください。

ご注意

・お使いのDVDプレーヤーによっては、コピープロテクトがかかったDVDオーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
・本機はHDCP非対応のHDMIまたはDVI端子を装備した機器には対応していません。
・ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
・ブルーレイディスクやHD DVDの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

映像信号について

－ 480i／60Hz
－ 480p／60Hz
－ 720p／60Hz、50Hz
－ 1080i／60Hz、50Hz
－ 1080p／60Hz、50Hz、24Hz

ディープカラー、x.v.Color映像信号について

本機はディープカラー（３０／３６ビット）、およびx.v.Color映像信号に対応しています。本機のHDMI OUT端子からこれらの信号をそのまま出力するには、「HDMI RES.」を「THRGH」に設定してください（74ページ）。

ご注意

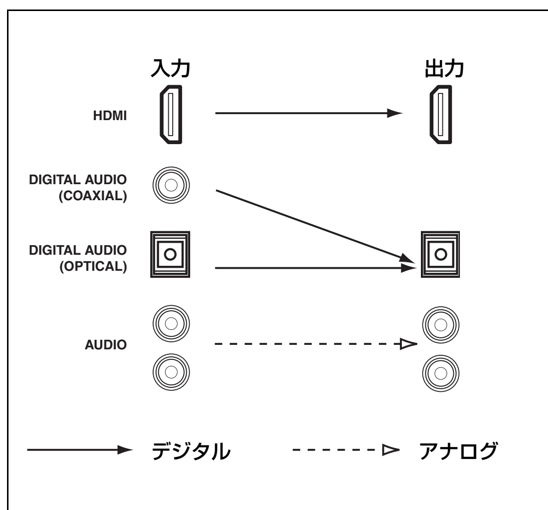
モニターがこれらの信号に対応していない場合、映像が正しく表示されないことがあります。

■ HDMI入力端子の割り当てについて

HDMI入力端子	機器
IN1	BD/HD DVD
IN2	DVD
IN3	CBL/SAT
IN4	DVR

音声信号と映像信号の流れ

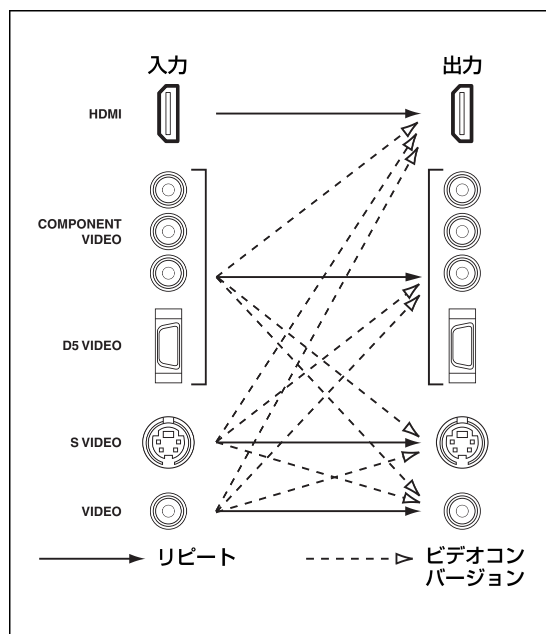
■ 音声信号の流れ



ご注意

DSD、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ信号は HDMI 端子からのみ入力できます。

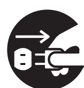
■ 映像信号の流れ





- ビデオコンバージョンの設定や他の映像に関する設定については、「VIDEO MENU」をご覧ください（74 ページ）。
- 異なる種類のアナログ映像信号が同時に入力されている場合は、以下の優先順位で信号が出力されます。
  （1）COMPONENT VIDEO ／ D5 VIDEO、
  （2）S VIDEO、（3）VIDEO

テレビやプロジェクターを接続する



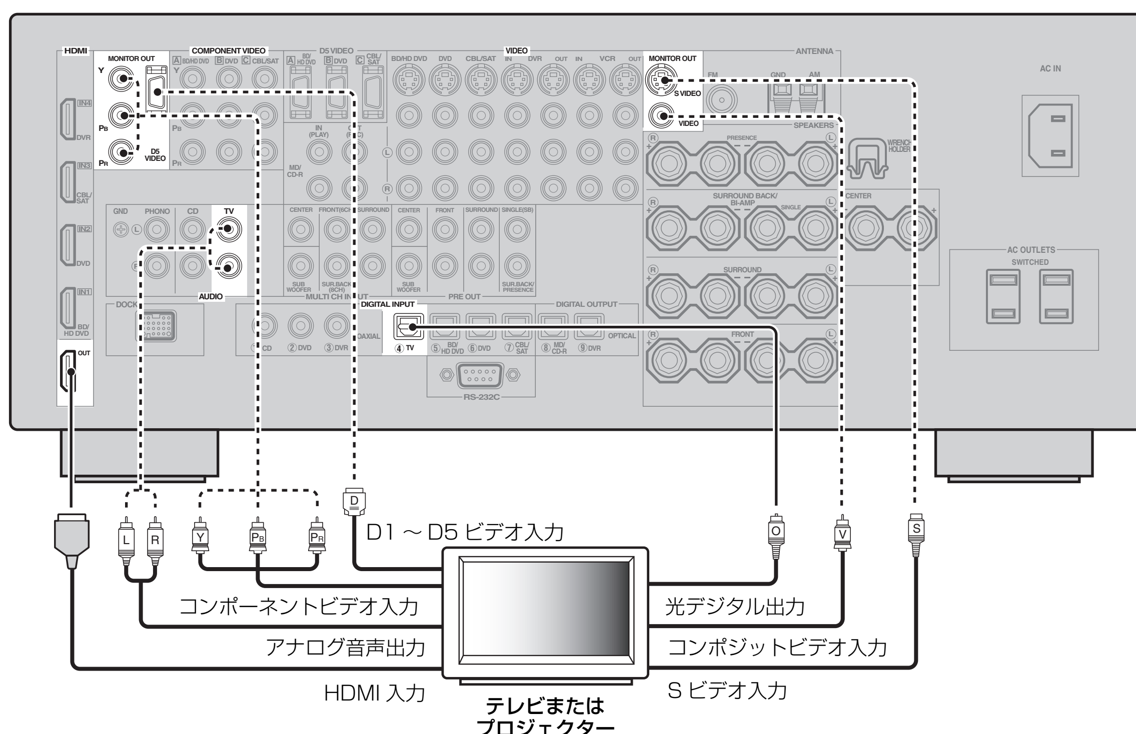
本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。



「HDMI AUDIO」で、HDMI OUT 端子から出力する音声信号を設定できます（73 ページ）。

ご注意

DVI 端子を使って本機の HDMI OUT 端子と接続しているモニターの電源をオフにすると、信号を認識できない場合があります。このような場合、HDMI インジケーターが点滅します。



———— おすすめの接続方法　　- - - - - - - - - - 代わりの接続方法

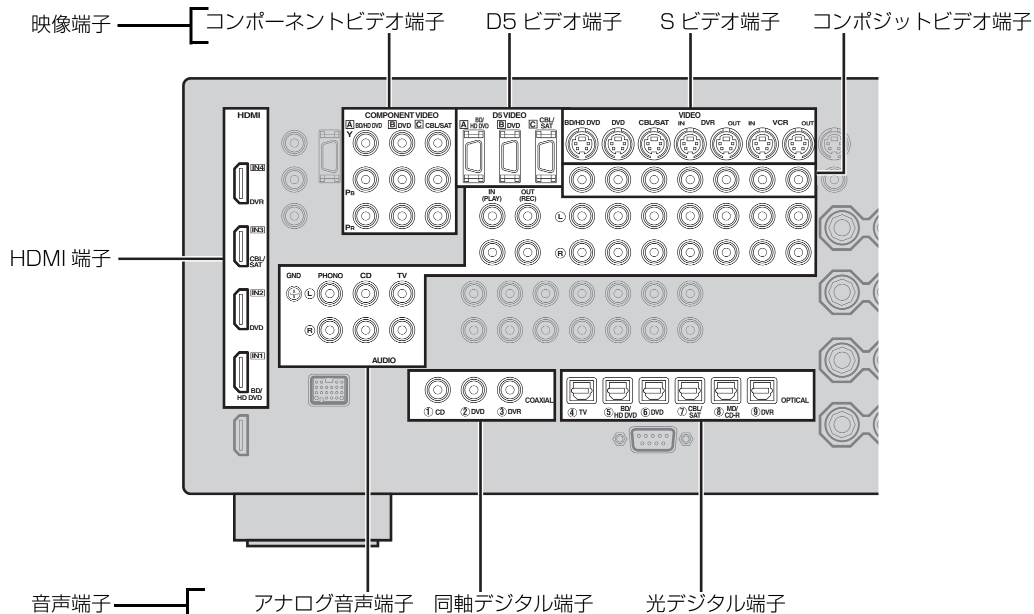
他の外部機器を接続する

■ 音声／映像機器を接続する

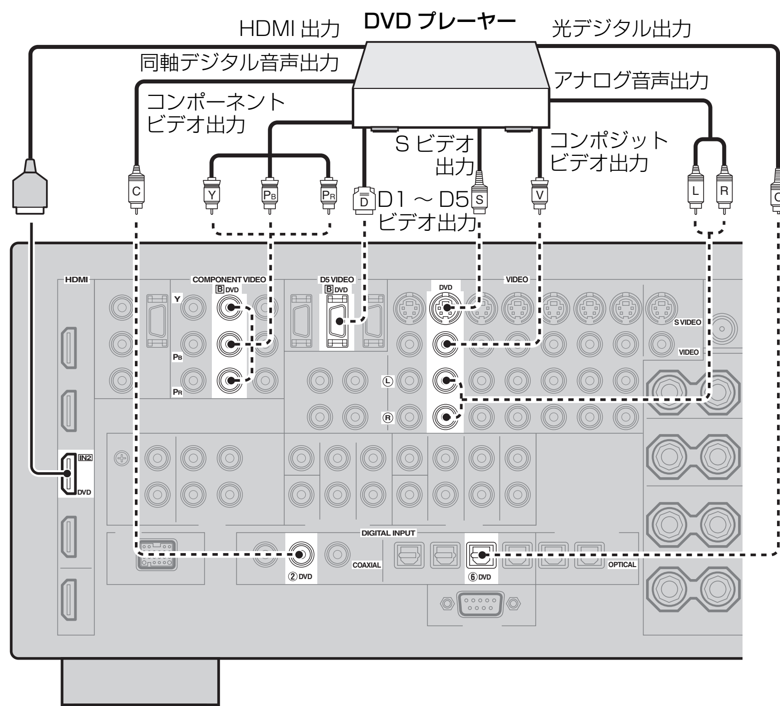
本機は３種類の音声端子と４種類の映像端子、HDMI 端子を装備しています。接続する機器に合わせて、使用する端子を決定してください。



HDMI 端子は、１本の HDMI ケーブルでデジタル音声／映像信号をデジタルのまま伝送できます。



接続例（DVD プレーヤーとの接続）



音声／映像接続で使う端子

おすすめの接続方法は太字で示されています。録音／録画機器を接続する場合は、追加接続が必要です（本機から録音／録画機器へ信号を伝送します）。



本機および外部機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。



フロントパネルの V-AUX 端子に外部機器を接続することもできます。

接続する機器	信号種類	接続する端子	
		接続機器側	本機側
ブルーレイディスク／HD DVD プレーヤー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN1 (BD/HD DVD)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (BD/HD DVD)
		アナログ出力	AUDIO (BD/HD DVD)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (BD/HD DVD)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (BD/HD DVD)
		S ビデオ出力	S VIDEO (BD/HD DVD)
		コンポジット出力	VIDEO (BD/HD DVD)
DVD プレーヤー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN2 (DVD)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (DVD)
		同軸デジタル出力	COAXIAL (DVD)
		アナログ出力	AUDIO (DVD)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (DVD)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (DVD)
		S ビデオ出力	S VIDEO (DVD)
		コンポジット出力	VIDEO (DVD)
衛星放送／ケーブルテレビチューナー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN3 (CBL/SAT)**
	音声	光デジタル出力	OPTICAL (CBL/SAT)
		アナログ出力	AUDIO (CBL/SAT)
	映像	D5 ビデオ出力	D5 VIDEO (CBL/SAT)
		コンポーネント出力	COMPONENT VIDEO (CBL/SAT)
		S ビデオ出力	S VIDEO (CBL/SAT)
		コンポジット出力	VIDEO (CBL/SAT)
DVD レコーダー	音声／映像	**HDMI 出力**	**HDMI IN4 (DVR)**
	音声	同軸デジタル出力	COAXIAL (DVR)
		アナログ出力	AUDIO (DVR IN)
	映像	S ビデオ出力	S VIDEO (DVR IN)
		コンポジット出力	VIDEO (DVR IN)
	録音	**光デジタル入力**	**OPTICAL (DVR)**
		アナログ入力	AUDIO (DVR OUT)

接続する機器	信号種類	接続する端子	
		接続機器側	本機側
DVD レコーダー	録画	S ビデオ入力	S VIDEO (DVR OUT)
		コンポジット入力	VIDEO (DVR OUT)
ビデオデッキ	音声	アナログ出力	AUDIO (VCR IN)
	映像	S ビデオ出力	S VIDEO (VCR IN)
		コンポジット出力	VIDEO (VCR IN)
	録音	アナログ入力	AUDIO (VCR OUT)
	録画	S ビデオ入力	S VIDEO (VCR OUT)
		コンポジット入力	VIDEO (VCR OUT)
CD プレーヤー	音声	同軸デジタル出力	COAXIAL (CD)
		アナログ出力	AUDIO (CD)
MD ／ CD レコーダー	音声	アナログ出力	AUDIO (MD/CD-R IN)
	録音	光デジタル入力	OPTICAL (MD/CD-R)
		アナログ入力	AUDIO (MD/CD-R OUT)
レコードプレーヤー	音声	アナログ出力	AUDIO (PHONO)

ご注意

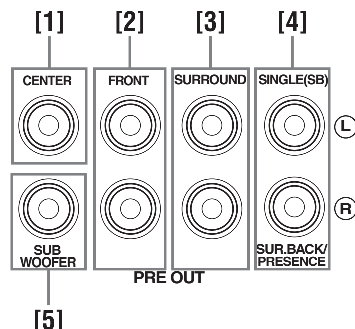
- ビデオコンバージョン機能をオフに設定している場合は、モニターとの接続と同じ種類の端子を使って映像機器を映像接続してください。例えば、モニターを本機の VIDEO MONITOR OUT 端子に接続している場合、映像機器も VIDEO 端子を使って接続してください。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。
- DVD プレーヤーを OPTICAL と COAXIAL の両方の端子に接続する場合、COAXIAL 端子に入力した信号を優先的に出力します。
- モニター表示信号は DVR OUT 端子や VCR OUT 端子から出力されないため、映像と一緒に録画されることはありません。
- デジタル入出力端子に初期設定で割り当てられている機器とは異なる機器を接続する場合は、「I/O ASSIGNMENT」で設定を変更してください（75 ページ）。
- レコードプレーヤーを本機の GND 端子へ接続すれば、ノイズレベルを低減できます。レコードプレーヤーによっては、GND 端子へ接続しないほうがよい場合もあります。
- MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのまま PHONO AUDIO 端子に接続します。低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して PHONO AUDIO 端子に接続します。
- GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

■ 外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合は、PRE OUT 端子と接続します。各 PRE OUT 端子は、対応するスピーカー端子と同じチャンネル信号を出力します。

ご注意

- PRE OUT 端子を使って接続する場合は、本機のスピーカー端子にスピーカーを接続しないでください。
- サブウーファーの音量は、お使いのサブウーファー本体で調節してください。



[1]CENTER PRE OUT 端子
センターチャンネルの信号を出力します。

[2]FRONT PRE OUT 端子
フロント左／右チャンネルの信号を出力します。

[3]SURROUND PRE OUT 端子
サラウンド左／右チャンネルの信号を出力します。

[4]SUR.BACK ／ PRESENCE PRE OUT 端子

サラウンドバック、またはプレゼンス左／右チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。



- サラウンドバックチャンネル信号を出力するには、「PRESENCE SP」を「NONE」に、また、「SUR.B L/R SP」を「NONE」以外に設定してください（69 ページ）。
- プレゼンスチャンネル信号を出力するには、「PRESENCE SP」を「YES」に、また、「SUR.B L/R SP」を「NONE」に設定してください（69 ページ）。

[5]SUBWOOFER PRE OUT 端子

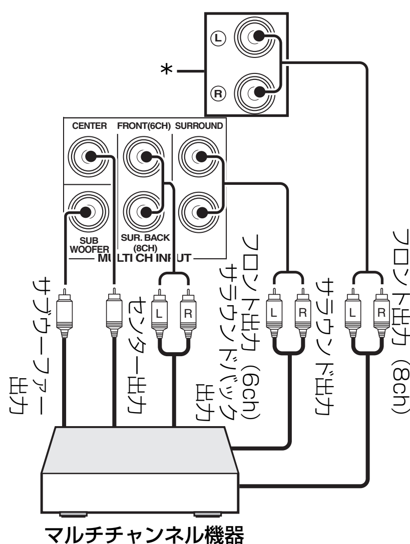
ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを接続します。

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機は 6 つのアナログマルチチャンネル入力端子（FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER）を装備しています。「INPUT CH」を「8ch」に設定すれば（76 ページ）、「FRONT」で設定したアナログ音声出力端子をフロントチャンネル用の入力端子として使えます。

ご注意

- MULTI CH を入力選択すると、音場プログラムは選べなくなります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。マルチチャンネル機器の音声を聴く場合は、5.1 チャンネル以上のスピーカー構成で楽しむことをおすすめします。

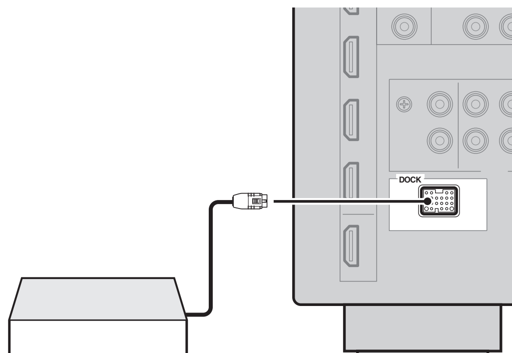


マルチチャンネル機器

* 「MULTI CH」の「FRONT」で設定したアナログ音声入力端子（76 ページ）

■ ヤマハ製 iPod 用ドック／ Bluetooth® ワイヤレスオーディオレシーバーを接続する

本機は、ヤマハ製 iPod 用ドックや Bluetooth レシーバーを接続するための DOCK 端子を装備しています。iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth レシーバー（別売 YBA-10 など）を接続すれば、iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。接続用のケーブルは専用のものをお使いください。



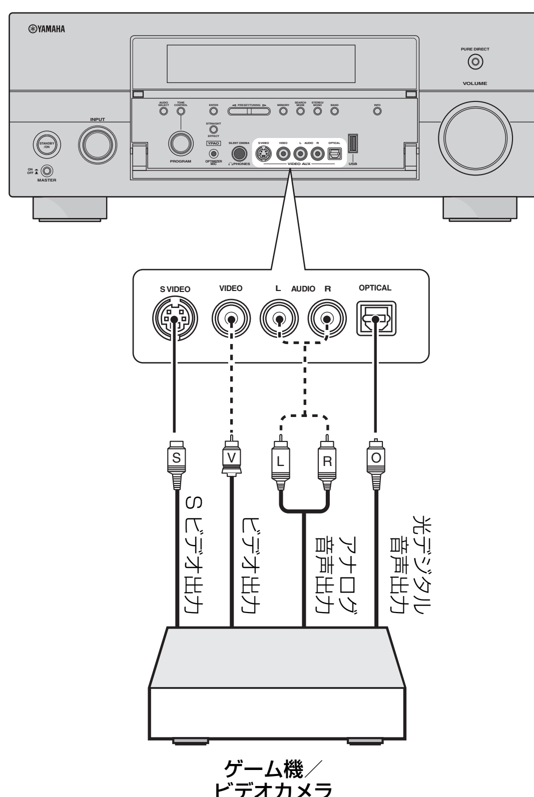
ヤマハ製 iPod 用ドック／
Bluetooth レシーバー

VIDEO AUX 端子を使う

ゲーム機やビデオカメラをフロントパネルのVIDEO AUX 端子に接続します。
V-AUX 端子に接続した機器を再生するには、入力ソースに「V-AUX」を選んでください。

警告

本機と接続機器の音量を十分に下げてから接続してください。

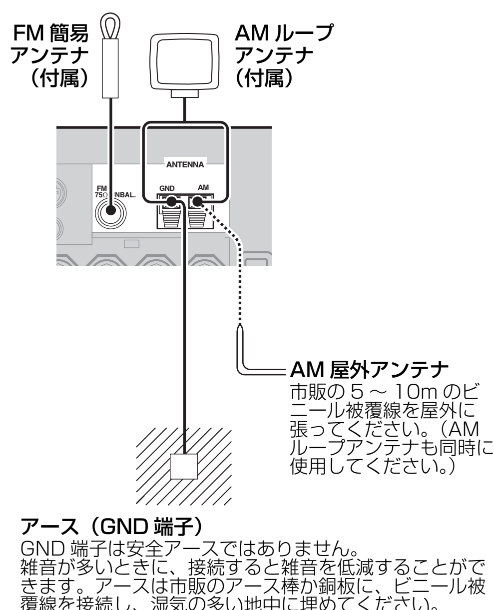


FM ／ AM アンテナを接続する

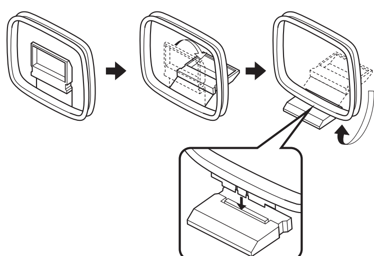
本機には、FM 簡易アンテナおよび AM ループアンテナが付属しています。通常はこれらのアンテナで十分な受信感度を得られます。

ご注意

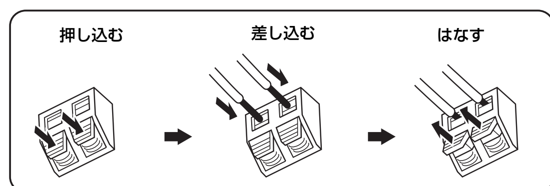
- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。



AM ループアンテナの組立方法



AM ループアンテナの接続方法



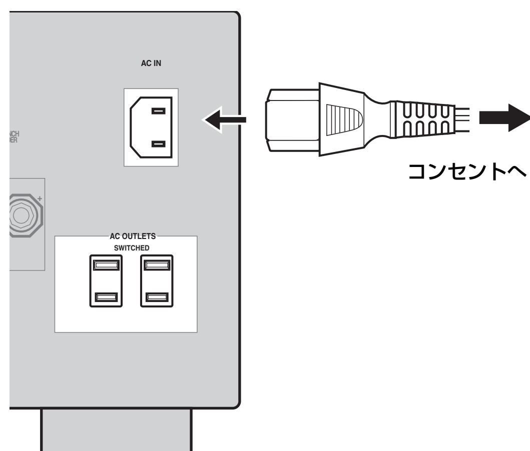


コードに極性はありません。また、AM と GND それぞれの端子にどちらのケーブルを接続してもかまいません。

電源コードを接続する

■ 電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、付属の電源コードを本機の AC IN 端子にしっかりと差し込み、家庭用 AC100V、50 ／ 60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



■ AC OUTLETS

外部機器に電源を供給します。外部機器の電源プラグをここへ接続してください。本機の電源がオンのときは電源を供給し、オフのときは遮断します。合計で消費電力 100W までの機器を接続し、電源を供給できます。

ご注意

本機の AC アウトレットに消費電力 100W を超える機器（サブウーファーなど）を接続しないでください。本機が故障するおそれがあります。

メモリーバックアップ機能

メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイのときに、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源プラグがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されたりすると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定をやり直してください。

本機の電源をオン／オフする

■ 電源をオンにする

フロントパネルの ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して、ON の位置にする。

■ 電源をオフにする

ⒶMASTER ON/OFF スイッチをもう一度押して、OFF の位置にする。

■ 電源をスタンバイにする

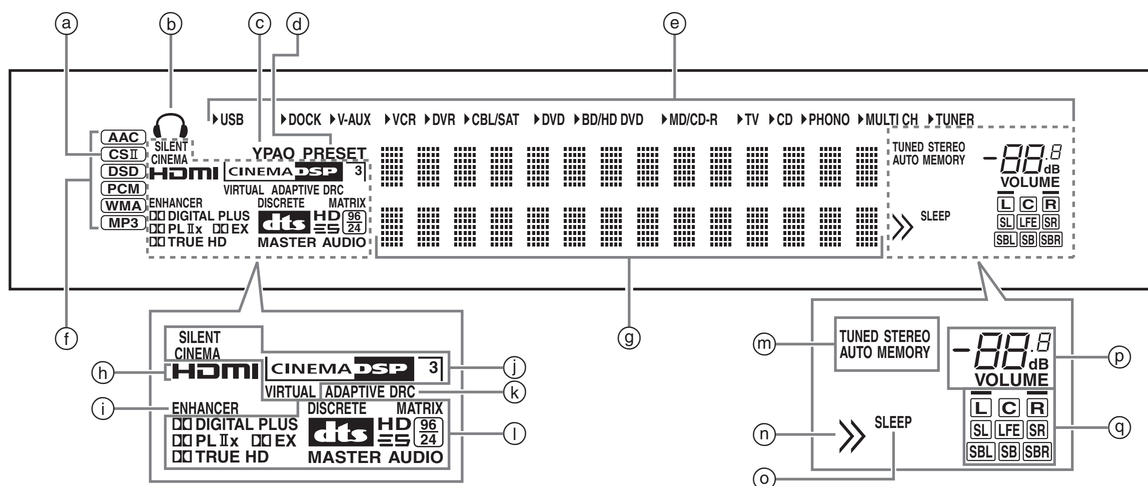
ⒷSTANDBY/ON キー（または ⑬STANDBY キー）を押す。

■ 電源をスタンバイモードからオンに切り替える

ⒷSTANDBY/ON キー（または ⑭POWER キー）を押す。

準備

フロントパネルディスプレイ



ⓐ **CS II インジケーター**
SRS Circle Surround II デコーダーが作動しているときに点灯します。(59 ページ)

ⓑ **ヘッドホンインジケーター**
ヘッドホンを接続しているときに点灯します（39 ページ）。

ⓒ **YPAO インジケーター**
AUTO SETUP の実行中、および AUTO SETUP での設定値が有効になっているときに点灯します（33 ページ）。

ⓓ **PRESET（プリセット）インジケーター**
プリセットチューニングモードのときに点灯します。

ⓔ **入力ソースインジケーター**
現在選んでいる入力ソース名の左側に矢印が点灯します。

ⓕ **入力信号インジケーター**
現在入力している信号を表示します。

ⓖ **マルチインフォメーションディスプレイ**
現在選んでいる音場プログラムの名前や、設定を変更するときのさまざまな情報を表示します。

ⓗ **HDMI インジケーター**
HDMI 入力端子に接続した機器を入力選択しているときに点灯します（21 ページ）。

ⓘ **ENHANCER（エンハンサー）インジケーター**
コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（47 ページ）。

ⓙ **DSP インジケーター**
選んでいる音場プログラムに応じて点灯します。

SILENT（サイレント） CINEMA（シネマ） インジケーター
ヘッドホンを接続し、音場プログラムを選んでいるときに点灯します（47 ページ）。

CINEMA（シネマ） DSP インジケーター
CINEMA DSP モードで再生しているときに点灯します（42 ページ）。

3D インジケーター
CINEMA DSP 3D モードで再生しているときに点灯します（48 ページ）。

VIRTUAL（バーチャル） インジケーター
バーチャルシネマ DSP モードで再生しているときに点灯します（47 ページ）。

ⓚ **ADAPTIVE（アダプティブ） DRC インジケーター**
「ADAPTIVE DRC」を「AUTO」に設定しているときに点灯します（70 ページ）。

ⓛ **デコーダーインジケーター**
本機のデコーダーが動作しているときにデコーダーの種類に応じて点灯します。

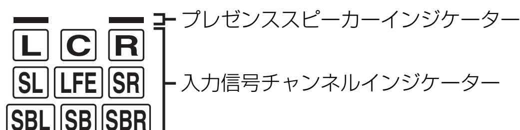
ⓜ **チューナーインジケーター**
FM ／ AM 放送を聴くときや、放送局をプリセットするときに点灯します（50 ページ）。

ⓝ メニューブラウズインジケーター
iPod や USB メニューを表示しているときに、現在選んでいるメニューの下にも項目がある場合に点灯します。

ⓞ SLEEP（スリープ）インジケーター
スリープタイマーをオンに設定しているときに点灯します（41 ページ）。

ⓟ VOLUME（ボリューム）インジケーター
- 現在の音量を表示します。
- 本機をミュート（消音）しているときに点滅します（40 ページ）。

ⓠ 入力信号チャンネル／スピーカーインジケーター

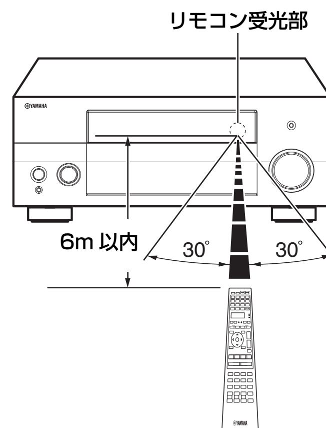


入力信号チャンネルインジケーター
- 入力しているデジタル信号に含まれているチャンネルに応じて点灯します。
- AUTO SETUP を実行しているときにスピーカーの設定に応じて点灯／点滅します。（33 ページ）

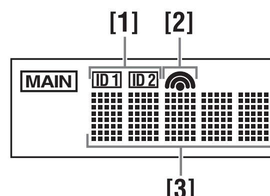
プレゼンススピーカーインジケーター
AUTO SETUP を実施しているときや「LEVEL」（69 ページ）で各スピーカーの音量を調節しているときに、「CONFIG」の「PRESENCE SP」（69 ページ）の設定に応じて点灯します。

リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



リモコンディスプレイ（④）



[1]ID1/ID2 インジケーター
現在使われているリモコン ID を表示します（91 ページ）。

[2]トランスミッションインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに表示します。

[3]インフォメーションディスプレイ
操作できる入力ソースの名前などを表示します。

赤外線送信部（①）
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。リモコンを操作するときは、送信部を操作したい機器に向けてください。

準備

操作機器選択スイッチ（⑮）

いくつかのキーの機能は、操作機器選択スイッチの位置に応じて切り替わります。

アンプ
AMP

本機のアンプ機能を操作するときに選びます。

ソース
SOURCE

入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。（83 ページ）

テレビ
TV

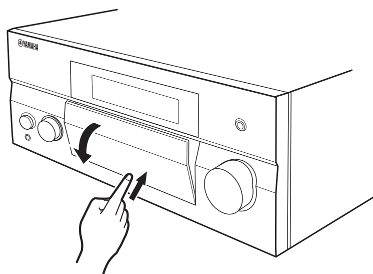
テレビを操作するときに選びます。（82 ページ）

ご注意

- 水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
  - －風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  - －暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  - －極端に寒いところ
  - －ほこりの多いところ
- 外部機器のリモコンコードを設定するには、84 ページをご覧ください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押すと、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。パネルの開閉時には指などを挟まないようご注意ください。



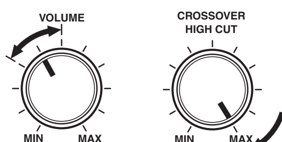
最適な視聴空間を自動的に設定する（YPAO）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーからテストトーンを出力し、付属のオプティマイザーマイクで測定します。また、マルチ測定機能により、８箇所までのリスニングポジション（視聴位置）に最適な視聴空間を設定できます。

AUTO SETUP を始める前に

1 AUTO SETUPを始める前に以下の事項をご確認ください。

❏ すべてのスピーカー、およびサブウーファーが正しく接続されている
❏ ヘッドホンが取り外されている
❏ モニターが正しく接続されている
❏ 本機とモニターの電源がオンになっている
❏ モニターの映像入力が本機の映像に切り替わっている
❏ サブウーファーの電源がオンで、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されている
❏ サブウーファーのハイカット／クロスオーバー周波数が最大に設定されている



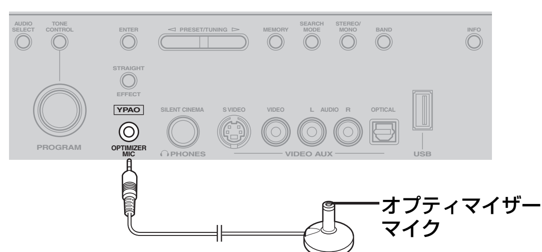
サブウーファーの調節ツマミ（例）

❏ リスニングルームや周囲の環境ができるだけ静かに保たれている
❏ 操作する前に、操作機器選択スイッチ（⑮）が AMP になっていることをご確認ください。

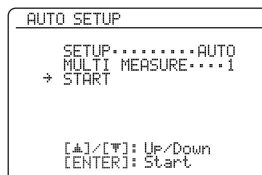
ご注意

- 測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様がリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- 最適な測定を行うため、測定中はお部屋の環境をできるだけ静かに保つようにしてください。物音などが聞こえると、正確な測定結果が得られない場合があります。

2 フロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。



フロントパネルディスプレイに「MIC ON View OSD MENU」と表示されます。また、モニター画面に AUTO SETUP 画面が表示されます。





AUTO SETUP は、モニターに表示されるメニューと、フロントパネルディスプレイに表示されるメニューのどちらでも操作できます。本書では、モニターに表示されるメニューを使って説明します。

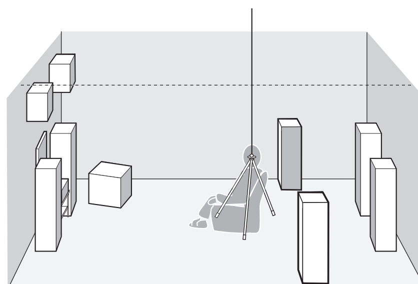
3 AUTO SETUP を始める

１つのリスニングポジションで視聴空間を設定する場合は「通常自動測定」（33 ページ）を、複数のリスニングポジションで視聴空間を設定する場合は「詳細自動測定」（36 ページ）をご覧ください。

通常自動測定

すべての準備が整ったら、以下の手順に従って本機を設定します。ここでは、１つのリスニングポジションでの測定方法を説明します。

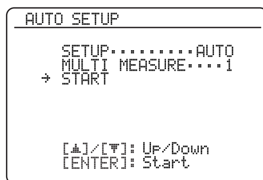
1 オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く。





耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属しているネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

2 「START」が選ばれていることを確認し、⑧**ENTER** キーを押す。



次の手順に進む前に

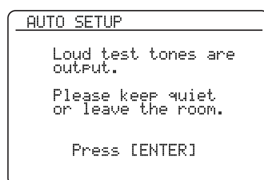
次の手順を操作すると、１０秒後に測定を開始します。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音を立てないようにするか、お部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約３分かかります。

3 ⑧**ENTER** キーを押して測定を開始する。

測定中は大きな音量でテストトーンが出力されます。測定が終わると、モニターに「Measurement Complete」と表示されます。

ご注意

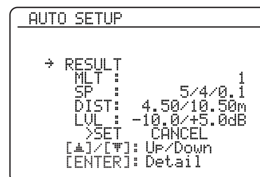
- 測定中は本機を操作しないでください。
- エラーが発生すると測定は中止されます（35 ページ）。







4 ⑧**ENTER** キーを押して結果画面を表示する。



測定箇所の数 MLT

測定したリスニングポジションの数を表示します。

スピーカーの数 SP

本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センター、プレゼンスの合計／
サラウンド、サラウンドバックの合計／
サブウーファー

スピーカーの距離 DIST

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離／
最も遠いスピーカーまでの距離

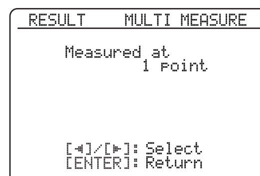
スピーカーの音量 LVL

スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

ご注意

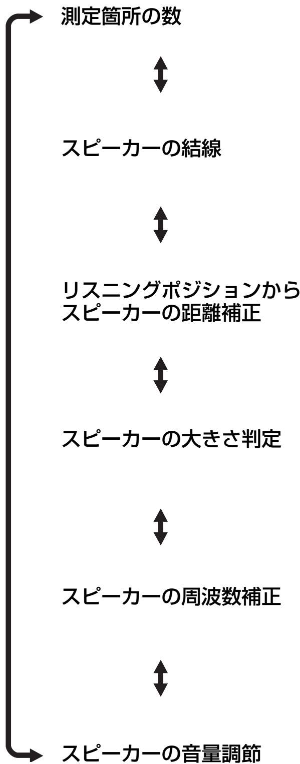
測定中に問題が発生した場合は、「RESULT」の上に「WARNING」と、警告の数が表示されます（36 ページ）。

5 ⑧**ENTER** キーを押して結果の詳細を確認する。



6 **⑧◁ / ▷キーを繰り返し押して結果の表示内容を切り替える。**

項目を切り替えるには ⑧△ / ▽ キーを押してください。



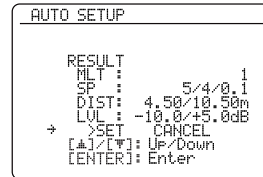


- 手動で視聴環境を設定したい場合や AUTO SETUP での設定値を変更したい場合は、MANUAL SETUP を実施してください（67 ページ）。
- 「PEQ SELECT」でパラメトリックイコライザーの種類を選べます（72 ページ）。

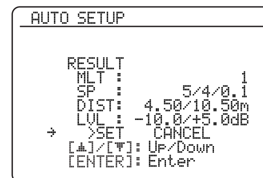
ご注意

- 「DISTANCE」の測定結果は、お使いのサブウーファーや外部アンプの特性により、実際よりも長い距離が表示される場合があります。
- 「EQ」の測定結果は、最適な補正をした結果、同じ周波数に異なった設定値が表示されることがあります。

7 **⑧ENTER キーを押して結果表示の初期画面に戻る。**



8 **⑧◁ / ▷ キーを押して「SET」、または「CANCEL」を選び、⑧ENTER キーを押す。**



選択項目：**SET**、CANCEL

- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用する場合は「SET」を選んでください。
- AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用しない場合は「CANCEL」を選んでください。

9 **オプティマイザーマイクを取りはずす、または⑱MENU キーを押して設定を終了する。**

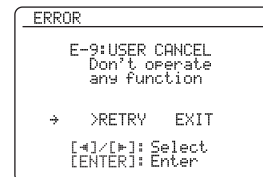
ご注意

スピーカーやスピーカーの位置、スピーカーの数を変更した場合は AUTO SETUP を再度実施してください。

■ エラーメッセージが表示される場合

⑧ ◁ / ▷ キーを押して「RETRY」または「EXIT」を選び、⑧ENTER キーを押す。

下記は「E-9:USER CANCEL」の表示例です。



選択項目：**RETRY**、EXIT

- AUTO SETUP をもう一度実施するには、「RETRY」を選んでください。
- AUTO SETUP を終了する場合は、「EXIT」を選んでください。

準備



- 「E-5:NOISY」が表示された場合は「PROCEED」も表示され、エラーを無視して測定を続行できますが、問題を解決してから測定し直すことをおすすめします。
- 「E-10:INTERNAL ERROR」が表示された場合は「EXIT」のみ選べます。
- エラーメッセージについて詳しくは「AUTO SETUP」をご覧ください（100 ページ）。

■ 警告メッセージが表示される場合

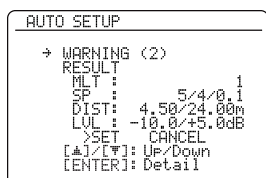
測定中に問題が発生した場合は、「WARNING」が結果表示画面に表示されます。警告内容を確認し、問題を解決してください。



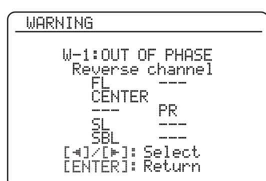
警告メッセージが表示された場合、設定はされますが最適なものではありません。

1 「WARNING」の左側に「→」が表示されていることを確認し、⑧ENTER キーを押して警告内容の詳細を確認する。

「WARNING」の右側に表示されている数字は警告内容の数を表します。



2 ⑧◁ / ▷キーを繰り返し押して警告画面を切り替える。





- 警告メッセージについて詳しくは「AUTO SETUP」をご覧ください（100 ページ）。
- 「－－－」は警告対象外のスピーカーを表しています。
- 「W-3: LEVEL ERROR」画面に「SWFR: TOO HIGH」、または「SWFR: TOO LOW」が表示される場合は、サブウーファーの音量を調節してください。

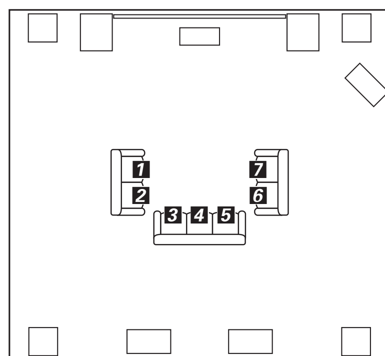
3 ⑧ENTER キーを押して結果表示初期画面に戻る。

詳細自動測定

すべての準備が整ったら、以下の手順に従って本機を設定します。ここでは、複数のリスニングポジションでの測定方法を説明します。

1 最初に測定するリスニングポジションにオプティマイザーマイクを設置する。

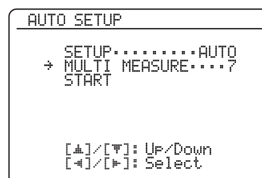
下図は、7箇所のリスニングポジションで測定する場合の設置方法を例示しています。



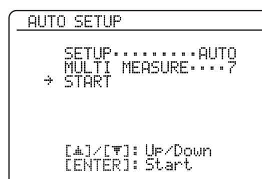
1／2／3／4／5／6／7: リスニングポジション

2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「MULTI MEASURE」を選び、⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して、測定したいリスニングポジションの数を選ぶ。

選択項目：
1（初期設定）、2、3、4、5、6、7、8



3 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「START」を選び、⑧ENTER キーを押す。

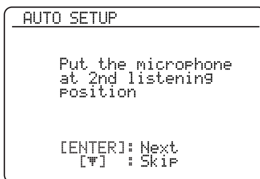


次の手順に進む前に

次の手順を操作すると、１０秒後に測定を開始します。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音を立てないようにするか、お部屋の外で待機することをおすすめします。測定には約３分かかります。

4 ⑧ENTER キーを押して測定を開始する。

測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。最初のリスニングポジションでの測定が終わると、以下の画面が表示されます。



ご注意

- 測定中は本機を操作しないでください。
- エラーが発生すると測定は中止されます（35 ページ）。

5 ２番目に測定するリスニングポジションにオプティマイザーマイクを移動し、⑧ENTER キーを押す。



残りのリスニングポジションでの測定をスキップする場合は ⑧∇ キーを押してください。

6 すべてのリスニングポジションでの測定が終わるまで手順５を繰り返す。

すべてのリスニングポジションでの測定が終わるか、残りのリスニングポジションでの測定をスキップした場合、以下の画面が表示されます。



7 「通常自動測定」（33 ページ）の手順４～９を操作して測定結果を確認し、設定を終了する。

設定値を以前の状態に戻す

MANUAL SETUP のスピーカー設定や音の調節値を、前回実施した AUTO SETUP の値に戻せます。

ご注意

AUTO SETUP の設定値に戻すと、MANUAL SETUP の設定値は破棄されます。AUTO SETUP の値に戻す前に設定を保存するには、「SYSTEM MEMORY」をご覧ください（79 ページ）。

1 操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑱MENU キーを押す。

モニターに SET MENU 画面が表示されます。

2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「AUTO SETUP」を選び、⑧ENTER キーを押す。

3 「SETUP」が選ばれていることを確認し、⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して「RELOAD」を選ぶ。

4 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「START」を選び、⑧ENTER キーを押す。



AUTO SETUP の測定結果、および詳細の確認方法については、「通常自動測定」をご覧ください（33 ページ）。

5 ⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して「SET」を選び、⑧ENTER キーを押す。

AUTO SETUP の設定値に戻ります。



以前の設定値に戻さない場合は ⑧◁/▷ キーを繰り返し押して「CANCEL」を選び、⑧ENTER キーを押してください。

再生する

警告

DTS-CD を再生するときは、特に注意が必要です。DTS-CD を DTS 非対応の CD プレーヤーで再生するとノイズだけが再生され、スピーカーが故障する原因になります。お使いの CD プレーヤーが DTS-CD の再生に対応していることをご確認ください。また、DTS-CD を再生する前に音量が十分に下げられていることをご確認ください。



デジタル接続をして DTS-CD を楽しむときは、再生する前に「INPUT MENU」の「DECODER MODE」を「DTS」に設定してください（75 ページ）。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

基本的な操作

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

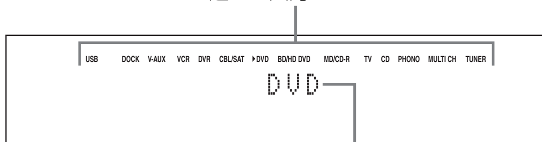


「VIDEO MENU」（74 ページ）、および「DISPLAY SET」（77 ページ）で、フロントパネルディスプレイ表示の設定を変更できます。

2 ©INPUT セレクターを回す（または入力選択キー（③）を押す）。

現在選んでいる入力ソース名が数秒間表示されます。

選べる入力ソース



現在選んでいる入力ソース

3 入力機器を再生する、または FM ／ AM 放送局を選ぶ。

- 外部機器の操作については外部機器に付属している取扱説明書をご覧ください。
- FM ／ AM 放送の選局（50 ページ）
- iPod の再生（53 ページ）
- Bluetooth 機器の再生（55 ページ）
- USB デバイスの再生（56 ページ）

4 ⓅVOLUME コントロールを回して（または ⑲VOLUME ＋ / －キーを押して）音量を調節する。

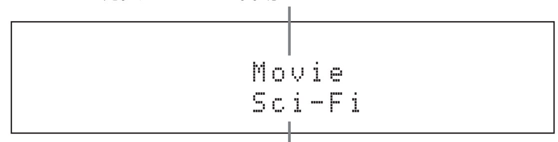


各スピーカーの音量を調節するには 69 ページをご覧ください。

5 ⓃPROGRAM セレクターを回して（または音場プログラムキー（㉖）を押して）、音場プログラムを選ぶ。

音場プログラムについて詳しくは、42 ページをご覧ください。

現在選んでいる音場プログラムカテゴリー



現在選んでいる音場プログラム



ⓁINFO キー（または操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑫INFO キー）を繰り返し押して、フロントパネルディスプレイに表示される情報（現在選んでいる入力ソースや音場プログラムなど）を切り替えてください。

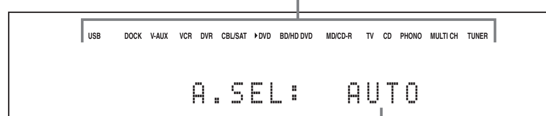
音声を入力する端子を選ぶ（入力モード切り替え）

１つの再生機器を 2 種類以上の音声端子を使って接続している場合に、音声を入力する端子を選びます。

1 ©INPUT セレクターを回して（または入力選択キー（③）を押して）、入力ソースを選ぶ。

2 ⒹAUDIO SELECT キー（または操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、㉔AUDIO SEL キー）を繰り返し押して、音声を入力する端子を切り替える。

選べる入力ソース



現在の入力モード設定

AUTO	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）HDMI （2）デジタル （3）アナログ
HDMI	HDMI 端子を選びます。HDMI 信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
COAX/OPT	以下の優先順位で入力端子を選びます。 （1）同軸デジタル （2）光デジタル 同軸／光デジタル信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
ANALOG	アナログ端子を選びます。アナログ信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

「AUDIO SELECT」で、電源オン時の入力モード初期値を設定できます（78 ページ）。

ご注意

「I/O ASSIGNMENT」（75 ページ）で、選んでいる入力ソースにデジタル入力端子が割り当てられていない場合、その端子は選べません。また、HDMI 入力端子が割り当てられているときのみ「HDMI」を選べます。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機の MULTI CH INPUT 端子（27 ページ）に接続した機器の音声を再生します。

©INPUT セレクターを回して（または ③MULTI キーを押して）「MULTI CH」入力を選ぶ。



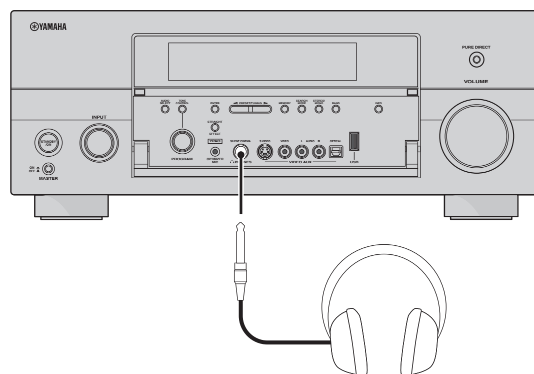
「MULTI CH」で、マルチチャンネル入力の設定を変更できます（75 ページ）。

ご注意

MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、音場プログラムは選べません。

ヘッドホンで再生を楽しむ

フロントパネルの PHONES 端子とヘッドホンを、ヘッドホン用ケーブルを使って接続する。





音場プログラムを選ぶと、自動的にサイレントシネマ TM モードに切り替わります（47 ページ）。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはスピーカーから音声は出力されません。
- すべてのマルチチャンネル音声信号はヘッドホンの左右チャンネルに振り分けられます。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している場合、MULTI CH INPUT FRONT 端子から入力した音声信号のみ出力します。

一時的に音量を下げる

リモコンの ㉑MUTE キーを押す。もとの音量に戻すには、㉑MUTE キーをもう一度押す。

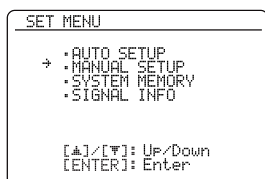


- 音量を一時的に下げているときはフロントパネルディスプレイの VOLUME インジケーターが点滅します。
- 「MUTING TYPE」で、下げる音量を選べます（71 ページ）。

入力信号情報を表示する

音声および映像入力信号の情報をモニターに表示します。

1 操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、リモコンの ⑱MENU キーを押す。
SET MENU 画面が表示されます。



2 ⑧▽ キーを繰り返し押して「SIGNAL INFO」を選び、⑧ENTER キーを押す。
入力信号の音声情報が表示されます。

3 ⑧◁ / ▷キーを押して音声情報と映像情報を切り替える。

4 ⑱MENU キーを押して終了する。

■ 音声情報

FORMAT	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
SAMPLING	アナログ信号をデジタル信号化するときの、1 秒あたりのサンプル数を表します。
CHANNEL	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／LFE）。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
BITRATE	入力信号の 1 秒あたりのデータ量を表します。
DIALOG	ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベルを表します。
FLAG	ビットストリーム信号、PCM に含まれている識別信号を表します。

ご注意

- 本機が情報を正しく表示できない場合は、「－－－」と表示されます。
- AAC 信号のビットレートは再生中に変化する場合があります。
- 次世代オーディオフォーマットでは、独立したサラウンドバック左／右チャンネル信号を含まずに、192kHz のビットレートでエンコードされている場合があります。
- ビットストリーム信号をそのまま出力するように設定していても、再生機器によってはドルビー TrueHD やドルビーデジタルプラス信号がドルビーデジタル信号に変換されたり、DTS － HD マスターオーディオや DTS － HD ハイレゾリューションオーディオ信号が DTS 信号に変換されたりすることがあります。

■ 映像情報

HDMI SIGNAL	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力している映像信号を表します。
HDMI RES.	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度を表します。
ANALOG RES.	映像入力信号と、本機の COMPONENT MONITOR OUT 端子から出力されるアナログ映像信号の解像度を表します。
HDMI ERROR (HDMI MESSAGE)	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。

HDMI エラー情報

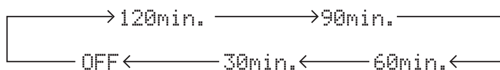
Device over	制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
HDCP Error	HDCP の認証に失敗しました。
Out of Res.	モニターが映像入力信号の解像度に対応していません。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の AC アウトレット（29 ページ）に接続した機器の電源もオフになります。

⑫SLEEP キーを繰り返し押して時間を設定する。
下記のように設定が切り替わります。



スリープタイマーを設定すると、フロントパネルディスプレイの SLEEP インジケーターが点灯し、音場プログラム表示に戻ります。

スリープタイマーを解除する
フロントパネルディスプレイに「SLEEP OFF」と表示されるまでリモコンの **⑫SLEEP** キーを繰り返し押す。

音場プログラムを楽しむ

本機は 2 チャンネルソースやマルチチャンネルソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しめる、多彩なデコーダーを装備しています。また、音の楽しさを広げる、音場プログラムが記憶されたヤマハ・デジタルサウンドフィールドプロセッシング（DSP）チップを搭載しています。



ヤマハ CINEMA DSP 音場プログラムは、すべてのドルビーデジタル、DTS、ドルビーサラウンド、ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオソースに有効です。

音場プログラムを選ぶ

ⓃPROGRAM セレクターを回す（または操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、音場プログラムキー ㉖ を繰り返し押す）。

選んだ音場プログラムの名前がフロントパネルディスプレイ、およびモニター画面に表示されます。



- モニター画面を見ながら、音場プログラムを選んだり音場パラメーターを調節したりすることができます（60 ページ）。
- 調節できる音場パラメーターや音場効果は、入力ソースや本機の設定により変化します。

ご注意

- 入力ソースを選ぶと、本機は前回その入力ソース選択時に選んでいた音場プログラムを自動的に呼び出します。
- MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているとき（27 ページ）や、ピュアダイレクトモードで再生しているとき（49 ページ）は、音場プログラムを選べません。
- DTS 96/24 ソースに音場プログラムをかけて再生する場合、本機は DTS 96/24 デコードせずに音場プログラムを適用します。
- 入力ソースが 48kHz を超えるサンプリング周波数の場合、48kHz 以下にダウンサンプリングしてから音場プログラムを適用します。

音場プログラムの傾向について

各音場プログラムの初期設定時の特長を以下の指標によって表現します。

ご注意

これらの特長は、リスニングルームの設定や音場パラメーターの設定などによっては異なって感じられる場合があります。

音場空間の大きさ（大きさ）

小 ├──○──┤ 大

生成する音場の大小を表します。小さいと小規模な空間の響きになり、大きいと広大な空間の響きになります。

高さと広さのバランス（高さ／広さ）

高さ ├──○──┤ 広さ

生成する音場の垂直方向（高さ）と水平方向（広さ）のバランスを表します。
この項目が横（水平方向）寄りだと壁面からの反射が強い空間の響きになり、たて（垂直方向）寄りだと天井からの反射が強い空間の響きになります。

前後のバランス（前／後）

前 ├──○──┤ 後

CINEMA DSP プログラムを選んでいるときに適用される指標です。前方と後方のどちらの効果がより大きいかを表します。
前方の効果が大きい場合は画面方向の開放感や奥行き感が、後方の効果が大きい場合は周囲の包囲感や移動感が感じられやすくなります。
前方／後方のバランスがとれているプログラムは比較的にどのようなソースにも合いやすく、どちらかに振られているプログラムはソースに合わせて選ぶとより効果的です。

音場の雰囲気（雰囲気）

生成する音場の雰囲気が、以下のどちらに近い傾向かを表します。選んでいる音場プログラムの種類により、評価の基準が異なります。

すっきり ├──○──┤ 複雑

すっきり：　響きの消え方が素直で、軽やかで穏やかな印象です。華やかさや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

複雑：　響きが複雑に変化しながら減衰し、豊かで華やかな印象です。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

穏やか ├──○──┤ パワフル

穏やか：　全般的に穏やかで控えめな効果です。派手さや迫力は少なめですが、比較的どのようなソースにも合いやすいプログラムです。

パワフル：　広大な空間表現や熱狂感などがあり、SF 映画やスペクタクル感のある映画などによく合うプログラムです。ソースによって相性がありますが、相性が良いソースに対しては非常に効果的なプログラムです。

■ 音楽用音場プログラム



音楽用には、ピュアダイレクトモード（49 ページ）、およびストレートデコードモード（48 ページ）もおすすめします。

CLASSICAL 1 CLASSICAL（クラシカル）

Hall in Munich（ホール イン ミュンヘン）	
ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は 1 階の中央左寄りです。	**大きさ** 小 ├────○──┤ 大 **高さ／広さ** 高 ├───○───┤ 広 **雰囲気** すっきり ├○──────┤ 複雑

Hall in Vienna（ホール イン ウィーン）	
1700 席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。	**大きさ** 小 ├───○───┤ 大 **高さ／広さ** 高 ├──○────┤ 広 **雰囲気** すっきり ├─────○─┤ 複雑

ホール イン アムステルダム
Hall in Amsterdam

アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は2200 程です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

チャーチ イン フライブルグ
Church in Freiburg

ドイツ南部の 120m 近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みはあまりありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

チェンバー
Chamber

宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

LIVE/CLUB 2
ライブ クラブ
LIVE/CLUB

ビレッジ バンガード
Village Vanguard

ニューヨークの 7 番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ウェアハウス ロフト
Warehouse Loft

ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

セラー クラブ
Cellar Club

天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ロキシー シアター
The Roxy Theatre

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約 460 程です。客席中央左寄りの音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

ザ ボトム ライン
The Bottom Line

かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長の音場です。

大きさ	小	大
高さ／広さ	高	広
雰囲気	すっきり	複雑

■ すべてのソース用音場プログラム

ENTERTAIN 3 エンターテイン
ENTERTAIN

スポーツ Sports			
ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。	大きさ	小	大
	高さ／広さ	高	広
	前／後	前	後
	雰囲気	穏やか	パワフル

■ ゲーム用音場プログラム

ENTERTAIN 3 エンターテイン
ENTERTAIN

アクション ゲーム Action Game			
カーレースや FPS などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。	大きさ	小	大
	高さ／広さ	高	広
	前／後	前	後
	雰囲気	穏やか	パワフル

ロールプレイング ゲーム Roleplaying Game			
RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。	大きさ	小	大
	高さ／広さ	高	広
	前／後	前	後
	雰囲気	穏やか	パワフル

■ 音楽系映像ソース用

ENTERTAIN 3 エンターテイン
ENTERTAIN

ミュージック ビデオ Music Video			
ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。	大きさ	小	大
	高さ／広さ	高	広
	前／後	前	後
	雰囲気	穏やか	パワフル

リサイタル オペラ Recital/Opera			
響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。	大きさ	小	大
	高さ／広さ	高	広
	前／後	前	後
	雰囲気	穏やか	パワフル

■ 映像用音場プログラム



下記の音場プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを選べます（59 ページ）。

MOVIE 4 MOVIE（ムービー）

Standard（スタンダード）	
ドルビーデジタル、DTS および AAC などの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

Spectacle（スペクタクル）	
壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

Sci-Fi（サイファイ）	
最新 SFX 映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

Adventure（アドベンチャー）	
アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

Drama（ドラマ）	
シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

Mono Movie（モノ ムービー）	
往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。	大きさ　小 — 大 高さ／広さ　高 — 広 前／後　前 — 後 雰囲気　穏やか — パワフル

■ ステレオ再生用音場プログラム

STEREO 5 STEREO（ステレオ）

2ch Stereo（2チャンネル ステレオ）
前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な再生モードです。

7ch Stereo（7チャンネル ステレオ）
後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の再生モードです。ホームパーティーの BGM に最適です。セットメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

■ 圧縮音源用（コンプレストミュージック・エンハンサーモード）

ENHANCER 6 ENHANCER（エンハンサー）

Straight Enhancer（ストレート エンハンサー）
2 チャンネル／マルチチャンネル圧縮オーディオフォーマットを、音源のチャンネル数はそのままにダイナミックに再生します。

7ch Enhancer（7チャンネル エンハンサー）
7 チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

■ サラウンドデコードモード

SUR. DECODE 7 SUR. DECODE（サラウンド デコード）

サラウンドデコーダー
デコーダーを選んで 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生するときに選びます（59 ページ）。

■ サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマ DSP モードにより、臨場感あふれる音場再生を楽しめます。

バーチャルシネマ DSP モードでは、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場を再現します。「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すれば（68 ページ）、音場プログラム（42 ページ）を選んでいるときは自動的にバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

ご注意

以下の場合、バーチャルシネマ DSP モードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生選択している（27 ページ）。
－ヘッドホンを PHONES 端子に接続している。
－7ch Stereo で再生している（47 ページ）。

■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ ™）

サイレントシネマ ™ では、ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネルソースをヘッドホンで楽しめます。音場プログラム（42 ページ）を選んでいるときにヘッドホンを PHONES 端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマ ™ モードに切り替わります。サイレントシネマ ™ モードで再生しているあいだはフロントパネルディスプレイの SILENT CINEMA インジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合、サイレントシネマ ™ モードは無効になります。
－MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している（27 ページ）。
－2ch Stereo（47 ページ）、ピュアダイレクトモード（49 ページ）、ストレートデコードモード（48 ページ）で再生している。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

より立体的な音場を楽しむ（CINEMA DSP 3D モード）

CINEMA DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な 3D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。

㉕3D DSP キーを繰り返し押して、CINEMA DSP 3D モードのオン／オフを切り替える。
CINEMA DSP 3D モードがオンのときは 3D インジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合、CINEMA DSP 3D モードは無効になります（「3D:--」が表示されます）。
–「PRESENCE SP」を「NONE」に設定している（69 ページ）。
–CINEMA DSP（7ch Stereo 以外）を選んでいない。
–ヘッドホンを PHONES 端子に接続している。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードでは、2 チャンネルソースをフロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

◎STRAIGHT キー（または ㉘STRAIGHT キー）を押して「STRAIGHT」を選ぶ。

ストレートデコードモードを解除する
◎STRAIGHT キー（または ㉘STRAIGHT キー）をもう一度押す、または他の音場プログラムを選ぶ（42 ページ）。

その他の音声機能

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード）

入力ソースを原音に忠実な高品質音声で再生します。ピュアダイレクトモードをオンにすると、音声入力信号を最小限の回路構成で再生します。

ⓂPURE DIRECT キー（または ㉓PURE DIRECT キー）を押してピュアダイレクトモードのオン／オフを切り替える。
ピュアダイレクトモードで再生しているあいだはフロントパネルの ⓂPURE DIRECT キーが点灯し、フロントパネルディスプレイ、およびモニター画面が非表示になります。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生しているときは、以下の機能が無効になります。
  －音場プログラムの切り替え
  －セットメニューの表示
- 本機の電源をスタンバイにするとピュアダイレクトモードは自動的に解除されます。



ピュアダイレクトモードで再生中に本機から映像信号を出力するには、「PURE DIRECT」の設定を変更してください（73 ページ）。

音色を調節する（トーンコントロール）

フロント左／右、センタースピーカー、サブウーファーの低音域と高音域のバランスを調節します。

1 フロントパネルの ⒺTONE CONTROL キーを繰り返し押して低音域（BASS）または高音域（TREBLE）を選ぶ。

2 ⓃPROGRAM セレクターを回して音色を調節する。
調節範囲：－6.0dB ～＋6.0dB

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、サラウンドスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモードで再生しているときや MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときは音色を調節できません。

以下の操作をする前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮AMP を選んでください。

スピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら各スピーカーの音量を調節します。MULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生しているときも調節できます。

ご注意

「AUTO SETUP」（33 ページ）や「LEVEL」（69 ページ）で各スピーカーの音量を調節している場合は設定が上書きされます。

1 リモコンの ⑫LEVEL キーを押してから ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して、調節するスピーカーを選ぶ。

表示	調節するスピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
CENTER	センタースピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー
SB R	サラウンドバック右スピーカー
SB L	サラウンドバック左スピーカー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンス左スピーカー
PRNS R	プレゼンス右スピーカー



各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。

2 ⑧◁ / ▷ キーを押して音量を調節する。
調節範囲：－10.0dB ～＋10.0dB

基本操作

FM ／ AM 放送を聴く

選局方法を選ぶ

FM ／ AM 放送は大別して 2 種類の方法で受信できます。

ノーマルチューニングモード
周波数をサーチしたり直接指定したりして FM ／ AM 放送を自動、または手動で受信します（下記「FM ／ AM 放送を選局する」）。

プリセットチューニングモード
FM ／ AM 放送局をプリセット（登録）しておき、プリセットグループとプリセットナンバーを指定することによって簡単に呼び出します（「プリセットチューニングモードで選局する」（52 ページ））。

ご注意

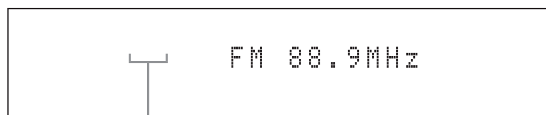
受信感度が最良になるように、本機に接続した FM ／ AM アンテナの向きや位置を調節してください。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮SOURCE を選び、③TUNER キーを押してください。

FM ／ AM 放送を選局する

1 ⓀBAND キー（または ⑦BAND キー）を押してバンドを選ぶ。

2 フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯している場合は、ⓘSEARCH MODE キー（または ⑱SRCH MODE キー）を押して消灯する。



PRESET 消灯

3 自動で選局するには、ⒼPRESET/TUNING◁ / ▷ キーを約２秒間長押しする（または ⑧PRESET/CH△ / ▽ キーを押す）。手動で選局するには、ⒼPRESET/TUNING◁ / ▷ キーを繰り返し押す。

- 高い周波数に向かって選局するには、Ⓖ▷ キー（または ⑧△ キー）を押します。
- 低い周波数に向かって選局するには、Ⓖ◁ キー（または ⑧▽ キー）を押します。

ご注意

受信したい放送局の電波が弱い場合は手動で選局するか、周波数を直接入力して受信してください（50 ページ）。



- 放送局を受信すると TUNED インジケーターが点灯します。
- フロントパネルディスプレイに表示される情報（現在選んでいる入力ソース、音場プログラムなど）を切り替えるには、ⓁINFO キー（または操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑫INFO キー）を繰り返し押してください。
- FM 放送のステレオ／モノラル受信を切り替えるには (Ⓙ)STEREO/MONO キー（または (㉔)AUDIO キー) を押します。

■ 周波数ダイレクト選局

周波数を直接入力して放送局を受信します。

1 「FM ／ AM 放送を選局する」(50 ページ) の手順１～２を操作してバンドを選ぶ。

2 数字キー（⑪）を押して、受信する放送局の周波数を入力する。
例：77.1MHz の放送局を受信する場合





受信範囲外の周波数が入力された場合、フロントパネルディスプレイに「WRONG STATION!」と表示されます。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮SOURCE を選び、③TUNER キーを押してください。

FM ／ AM 放送局を登録する

AM ／ FM 放送局を 40 局（8局× 5 グループ、A1 〜 E8）まで登録（プリセット）できます。オートプリセット、またはマニュアルプリセットで、放送局を登録してください。

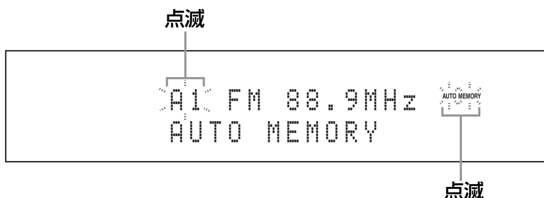
■ オートプリセットで登録する

電波の強い FM 放送局を、自動的に 40 局まで登録（プリセット）できます。
AM 放送局は自動で登録できません。手動で登録してください（右記参照）。

1 ⓀBAND キー（または ⑦BAND キー）を押して「FM」を選ぶ。
フロントパネルディスプレイに「FM」と表示されます。

2 ⓀBAND キー（または ⑦BAND）を３秒以上押し続ける。
フロントパネルディスプレイに AUTO、および MEMORY インジケーターが点滅し、「AUTO MEMORY」と表示されます。約 5 秒後に、現在の周波数から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。

点滅



点滅

オートプリセットが完了すると MEMORY インジケーターが消灯します。



- オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。手順 2 を操作したあとに、ⒼPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑧A-E◁ / ▷ キー、PRESET/CH△ ／ ▽ キー）を繰り返し押して、最初のプリセット放送局を登録するプリセット番号を選んでください。
- 登録を中止するには ⓀBAND キー（または ⑦BAND キー）を押してください。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- プリセットする放送局の数が４０（A1 〜 E8）に満たない場合は全周波数帯域を一巡して停止します。

- オートプリセットでは、電波の強い FM 放送局だけが登録されます。AM 放送局や電波の弱い FM 放送局を登録したいときは、ノーマルチューニングモードで放送局を受信したあと、手動で登録してください（「マニュアルプリセットで登録する」下記参照）。

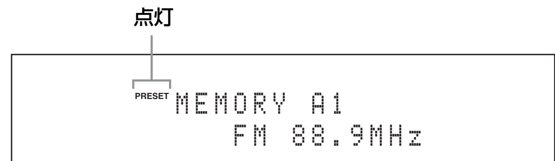
■ マニュアルプリセットで登録する

AM 放送局や、電波の弱い FM 放送を手動で登録します。

1 放送局を受信する。
受信方法については 50 ページ をご覧ください。

2 ⒽMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押す。
フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯します。

点灯

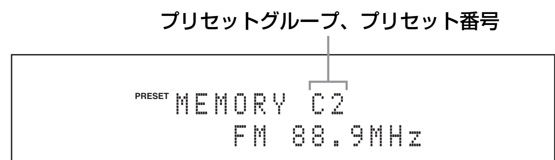




- 登録されていないプリセット番号に、受信した放送局を自動的に登録するには、手順2の代わりに ⒽMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を2秒以上押してください。その場合、以下の操作は必要ありません。
- 登録を中止するには、MEMORY インジケーターが点滅しているあいだに ⒽMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）をもう一度押してください。

3 ⒼPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑧A-E ◁ / ▷ キー、PRESET/CH △ / ▽ キー）を繰り返し押してプリセット放送局（A1 〜 E8）を選ぶ。
- 高いプリセットグループ／プリセット番号に向かって選局するには、Ⓖ▷ キー（または ⑧△ キー）を押します。
- 低いプリセットグループ／プリセット番号に向かって選局するには、Ⓖ◁ キー（または ⑧▽ キー）を押します。

プリセットグループ、プリセット番号



基本操作



- 数字キー（⑪）を押してプリセット番号（1～8）を指定することもできます。
- 登録済みのプリセット番号（番号の横に「＊」を表示）を選ぶと、現在の放送局が上書きされます。

4 ⒻENTER キー（または ⑧ENTER キー）を押す。

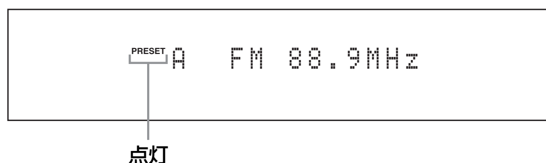
放送局が登録され、PRESET インジケーターが消灯します。

ご注意

放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

■ プリセットチューニングモードで選局する

1 フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯していない場合は、ⒾSEARCH MODE キー（または ⑱SRCH MODE キー）を押して点灯させる。

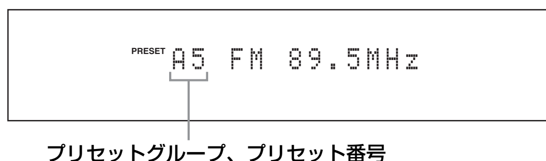


点灯

ご注意

あらかじめ放送局が登録されていない場合は、プリセットチューニングモードで選局できません。

2 ⒼPRESET/TUNING◁ / ▷ キー（または ⑧PRESET/CH△ / ▽ キー）を押してプリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶ。



プリセットグループ、プリセット番号



- 登録されていないプリセット番号はスキップします。
- ⑧A-E ◁ / ▷ キー、および数字キー（⑪）を押して、プリセット放送局（A1 ～ E8）を選ぶこともできます。

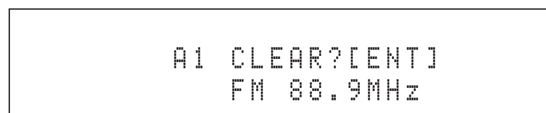
■ プリセット放送局の登録を解除する

プリセット放送局の登録を解除します。

1 登録を解除したい放送局を選局する。

詳しくは、「プリセットチューニングモードで選局する」をご覧ください（52 ページ）。

2 フロントパネルディスプレイに「CLEAR?」と表示されるまで ⒾSEARCH MODE キー（または ⑱SRCH MODE キー）を押し続ける。



3 ⒻENTER キー（または ⑧ENTER キー）を押して登録を解除する。



登録の解除を中止するには ⒾSEARCH MODE キー（または ⑱SRCH MODE キー）をもう一度押してください。

iPod を再生する

リアパネルの DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）に iPod をセットすれば（27 ページ）、iPod を本機のリモコンで操作したりモニター画面に表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をダイナミックな音声で再生できます（47 ページ）。

ご注意

- iPod touch、iPod（iPod classic を含むクリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod 用ドックの種類により一部の機能が使えない場合があります。ここでは YDS-11 を使って説明します。

- 本機と iPod との通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示されます。
- フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについては「iPod」をご覧ください（99 ページ）。
- 「STANDBY CHARGE」で、本機の電源がスタンバイのときの iPod の充電モードを設定できます（76 ページ）。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮SOURCE を選び、③DOCK キーを押してください。

iPod を操作する

DOCK を入力選択すれば、iPod を操作できます。iPod は、モニター画面に表示されるメニューを見ながら行う「メニュー表示モード」と、iPod の画面を見ながら行う「ノーマルモード」の 2 種類の方法で操作できます。

■ リモコン操作

	キー	機能
⑧	ENTER	選んだメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	1 つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑩	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	▷▷I	次の曲の先頭にスキップします。
	I◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▯▯	一時停止します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
	▷	再生します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
⑳	DISPLAY	メニュー表示モードに入る、または終了します。

■ ノーマルモードで操作する

ノーマルモードでは、モニター画面にメニューを表示させずに、リモコンを使って基本的な操作（再生、停止、スキップなど）ができます。

iPod 本体でも操作できます。

■ メニュー表示モードで操作する

モニター画面に表示されるメニューを見ながらリモコンを使ってさまざまな操作ができます。
モニター画面で音楽ファイルや映像ファイルをブラウズしたり、お好みに合わせて設定を変更したりすることもできます。

「DISPLAY SET」で、表示方法を設定できます（77 ページ）。

ご注意

- iPod 本体では操作できません。
- 本機が表示できない文字は「__」（アンダーバー）で表示されます。

1 ⑳DISPLAY キーを押す。
メニュー画面がモニターに表示されます。



基本操作

2 ⑧△ / ▽ キーを押して「Music」、または「Videos」、「Settings」を選び、⑧▷ キーを押す。

- 音楽ファイルをブラウズするには「Music」を選びます。
- 映像ファイルをブラウズするには「Videos」を選びます。
- 設定を変更するには「Settings」を選びます。

ご注意

iPod、およびヤマハ製 iPod 用ドックが映像ファイルのブラウズ機能に対応していない場合、「Videos」は表示されません。

3 ⑧△ / ▽ / ◁ / ▷ キーを押してメニュー項目を選び、⑧ENTER キーを押して再生する。

「Music」の選択項目
Playlists（プレイリスト）、
Artists（アーティスト）、
Albums（アルバム）、
Songs（曲名）、
Genres （ジャンル）、
Composers（作曲者）

- Playlists > Songs
- Artists > Albums > Songs
- Albums > Songs
- Songs
- Genres > Artists > Albums > Songs
- Composers > Albums > Songs

「Videos」の選択項目
iPod に保存されているファイルによります。

「Settings」の選択項目
Shuffle、Repeat

シャッフル Shuffle
曲やアルバムをランダムに再生します。
選択項目：Off、Songs、Albums

- ランダム再生しない場合は「Off」を選んでください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は「Songs」を選んでください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は「Albums」を選んでください。

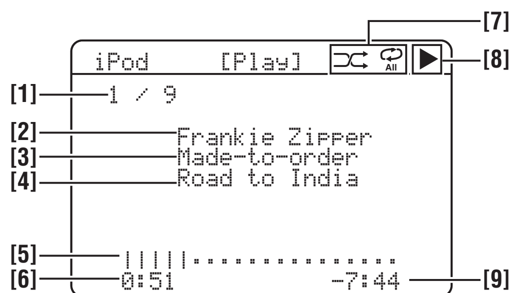
リピート Repeat
曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。
選択項目：Off、One、All

- リピート再生しない場合は「Off」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は「One」を選んでください。
- すべての曲をリピート再生する場合は「All」を選んでください。



- 設定項目を切り替えるには ⑧ENTER キーを繰り返し押してください。
- シャッフル機能がオンのときは、モニター画面に「 」が表示されます。
- 「Repeat」で「One」または「All」を選んでいるときはモニター画面に「 」、または「 」が表示されます。

■ 再生情報画面の表示



[1]トラック番号／トラック数

[2]アーティスト名

[3]アルバム名

[4]曲名

[5]進捗表示

[6]経過時間

[7]シャッフル／リピート表示

[8]▶（再生）、▮▮（一時停止）、▸▸（早送り）、◂◂（巻き戻し）

[9]残り時間

Bluetooth® 機器を再生する

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。再生する前に Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器を「ペアリング」してください。

ご注意

本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。

Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする

Bluetooth 機器を Bluetooth レシーバーを使って本機で再生する前に「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータが消去された場合は、必ず行ってください。「ペアリング」とは、Bluetooth で通信するために Bluetooth 機器を登録することです。



- ペアリングは Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーをはじめて使うときのみ必要です。
- Bluetooth で通信できるようにするには、本機および Bluetooth 機器の両方でペアリングしてください。必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

本機では、MANUAL SETUP の「START PAIRING」と、クイックペアリングの 2 種類の方法でペアリングできます。

■ MANUAL SETUP でペアリングする

モニターに表示されるメニューを見ながらペアリングします。詳しくは、「START PAIRING」をご覧ください（76 ページ）。

■ クイックペアリングでペアリングする

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⓒINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選び、③DOCK キーを押して）「DOCK」を入力選択する。

2 ペアリングしたいBluetooth機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリングモードにする。

Bluetooth 機器の操作方法について詳しくは Bluetooth 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 フロントパネルディスプレイに「Searching」と表示されるまで ⒻENTER キー（または ⑧ENTER キー）を押す。

Bluetooth レシーバーがペアリングモードのとき、フロントパネルディスプレイに DOCK インジケーターが点滅します。



ペアリングを中止するにはもう一度 ⒻENTER キー（または ⑧ENTER キー）を押します。

4 Bluetooth機器がBluetoothレシーバーを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth レシーバーを認識している場合は Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

5 Bluetooth デバイスリストから Bluetooth レシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合はフロントパネルディスプレイに「BT Connected」と表示されます。

ご注意

ヤマハ製 Bluetooth レシーバーは 8 台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器が正しくペアリングされ、ペアリングデータが登録された場合、もっとも長い間使われていない機器のデータは消去されます。

Bluetooth® 機器の再生を楽しむ

1 ⓒINPUT セレクターを回して（または操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選び、③DOCK キーを押して）「DOCK」を入力選択する。

2 Bluetooth 機器の再生を開始する。

接続した Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を認識すると、フロントパネルディスプレイに「BT Connected」と表示されます。



- ⑧ENTER キーを押すと、接続した Bluetooth レシーバーは最後に接続していた Bluetooth 機器を検索し、接続します。Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合はフロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器の接続を解除するには ⑧ENTER キーを押してください。

USB デバイスを再生する

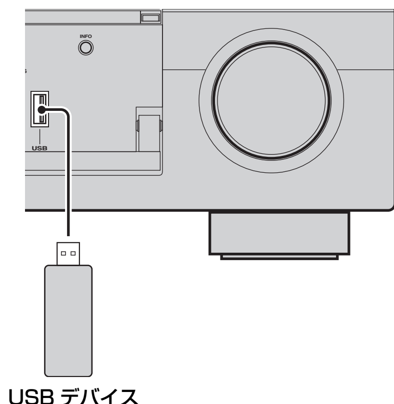
以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮SOURCE を選び、③USB キーを押してください。

本機フロントパネルの USB 端子に接続している USB デバイスに保存した WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA ファイルを再生します。

ご注意

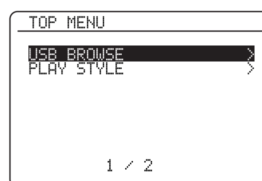
- 「Please wait」と表示される場合は、表示が消えるまでしばらくお待ちください。
- データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されている USB マスストレージクラス対応の USB デバイス、または MTP 対応の USB デバイス（USB ハードディスク以外）に対応しています。
- 先頭にあるパーティションのみブラウズできます。他のパーティションに保存されているファイルは再生できません。
- 最大８階層までのディレクトリにある、１つのディレクトリにつき最大５００までのディレクトリ／ファイルをブラウズ、再生できます。
- USB デバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- WAV、MP3、WMA ファイルでも再生できない場合やノイズを出力する場合があります。

1　フロントパネルの USB 端子に USB デバイスを接続する。



USB デバイス

2　⑳DISPLAY キーを押す。
モニター画面に以下のように表示されます。



3　⑧△ / ▽ キーを押して「USB BROWSE」を選び、⑧ ▷ キーを押す。

4　⑧△ / ▽/◁/▷ キーを繰り返し押してから ⑧ENTER キーを押して再生する。

- メニュー項目を選ぶには ⑧△ / ▽ キーを押します。
- 選んだメニュー項目を決定するには ⑧▷ キーを押します。
- 前のメニュー項目に戻るには ⑧◁ キーを押します。

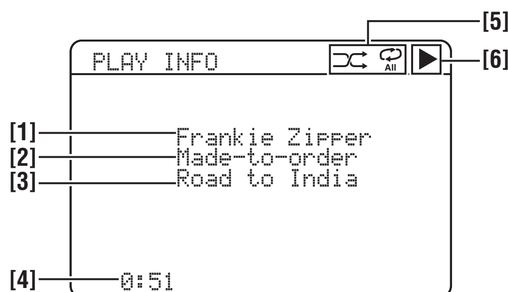


- メニュー項目の右側に表示されている「>」は、次の階層にサブメニューがあることを表しています。
- 「DISPLAY SET」で表示方法を設定できます（77 ページ）。

ご注意

本機が表示できない文字は「_」（アンダーバー）で表示されます。

■　再生情報画面の表示



[1]アーティスト名

[2]アルバム名

[3]曲名

[4]経過時間

[5]シャッフル／リピート表示

[6]▶（再生）

■ 再生スタイルを設定する

曲をランダムに再生したり、繰り返し（リピート）再生したりします。

1 ⑳DISPLAY キーを押す。



再生しているときは再生情報画面が表示されます。USB 初期メニューを表示するには、⑧◁ キーを繰り返し押してください。

2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「PLAY STYLE」を選び、⑧ENTER キーを押す。

3 ⑧△ / ▽ キーを押してメニュー項目を選び、⑧ENTER キーを繰り返し押して設定を変更する。

シャッフル　SHUFFLE

ディレクトリに保存されている曲をランダムに再生します。

- ランダムに再生しない場合は「OFF」を選んでください。
- ディレクトリ内のすべての曲をランダムに再生する場合は「ON」を選んでください。

リピート　REPEAT

選んだ曲やディレクトリ内のすべての曲を繰り返し（リピート）再生します。

- リピート再生しない場合は「OFF」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は「ONE」を選んでください。
- ディレクトリ内のすべての曲をリピート再生する場合は「ALL」を選んでください。



- シャッフル機能がオンのときはモニター画面に「⤮」が表示されます。
- 「Repeat」で「ALL」または「ONE」を選んでいるときはモニター画面の右上に「🔂」、または「🔁」が表示されます。

■ リモコン操作

	キー	機能
⑧	ENTER	選んだメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	１つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑨	MEMORY	ショートカットを登録します。
⑩	▷▷I	次の曲の先頭にスキップします。
	I◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▷	再生します。
⑪	1-8	数字（１～８）を入力します。＊1
⑳	DISPLAY	USB メニューを表示します。

＊1　ショートカットを登録／呼び出すときに押します（57 ページ）。

以下の操作を行う前に、リモコンの操作機器選択スイッチで ⑮SOURCE を選び、③USB キーを押してください。

ショートカットを登録する

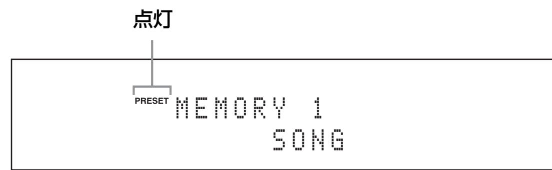
お気に入りの曲（WAV ／ MP3 ／ WMA ファイル）を登録して、聴きたいときに簡単に呼び出して再生します。８曲まで登録できます。

■ 数字キー（１～８）にショートカットを登録する

1 登録したい曲を再生する。

2 ⑨MEMORY キーを押す。

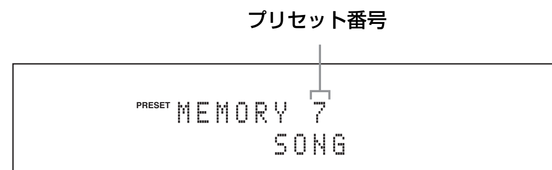
フロントパネルディスプレイに PRESET インジケーターが点灯し、空いているプリセット番号が表示されます。





- 登録されていないプリセット番号に、選んだ曲を自動的に登録するには、手順２の代わりに ⒽMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を２秒以上押してください。その場合、以下の操作は必要ありません。
- 登録を中止するには、もう一度 ⒽMEMORY キー（または ⑨MEMORY キー）を押してください。
- 各手順を３０秒以内に操作しなかった場合、登録を自動的に中止します。この場合は手順２から操作し直してください。

3 ショートカットを登録する数字キー（１～８）を押す。





すでに登録されているプリセット番号（番号の横に「＊」を表示）に新しい曲を登録すると、前に登録されていた曲は消去され、新しい曲に入れ替わります。

4 ⒻENTER キー（または ⑧ENTER キー）を押す。

曲が登録され、PRESET インジケーターが消灯します。

基本操作

■ 登録したショートカットを選んで再生する

USB メニューを表示しているときに、ショートカットを登録した数字キー（1～8）(⑪）を押す。
選んだ数字キーに登録されている曲を再生します。

ご注意

- ショートカットが登録されていない数字キーを押すと「EMPTY」と表示されます。
- 以下の場合は数字キーを押しても登録した曲が再生されません。
  - 曲を登録したときとは異なる USB デバイスを接続している。
  - ディレクトリ内でファイルの位置を移動した。



本機は登録した曲のディレクトリ内における相対的な位置を記憶しています。したがって、ディテクトリ内で音楽ファイルを追加／削除すると、登録した曲が呼び出されないことがあります。そのような場合はショートカットを登録し直してください。以下はショートカット機能を上手に利用するためのおすすめの方法です。まず、USB デバイス内にディレクトリを8つ作成し、その中に音楽ファイルを保存します。次に、それぞれのディレクトリ内の先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、ディレクトリは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを新しい音楽ファイルと入れ替えます。

デコーダーを選ぶ

■ 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコードモード）

2 チャンネルソースをマルチチャンネル化して楽しむためのデコーダーを選びます。

操作機器選択スイッチ （⑮） で AMP を選び、㉗SUR. DECODE キーを繰り返し押して、 デコーダーを選ぶ。

再生しているソースやお好みに応じてデコーダーを選べます。



モニター画面を見ながらデコーダーのパラメーターを調節できます。詳しくは「音場パラメーターを変更する」をご覧ください（60 ページ）。

■ デコーダー一覧

デコーダー名（デコーダーのタイプ）

PLIIx Music PLII Music
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（69 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

説明

PRO LOGIC
ドルビープロロジックデコーダーです。すべてのソースに適しています。

PLIIx Movie **PLII Movie**
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（69 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

PLIIx Music **PLII Music**
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（69 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

PLIIx Game **PLII Game**
ドルビープロロジック IIx（またはドルビープロロジック II）デコーダーです。ゲームに適しています。「SUR. B L/R SP」を「NONE」に設定している場合（69 ページ）やヘッドホンを接続している場合、ドルビープロロジック IIx デコーダーは選べません。

Neo:6 Cinema
DTS デコーダーです。映画鑑賞に適しています。

Neo:6 Music
DTS デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

CSII Cinema
SRS サークルサラウンド II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。

CSII Music
SRS サークルサラウンド II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。



マルチチャンネルデジタル音声信号を再生しているときにサラウンドデコードモードを選択すると、本機は自動的に入力信号に適したデコーダーを選んで再生します。

■ MOVIE プログラムと組み合わせるデコーダーを選ぶ

MOVIE プログラム（Mono Movie 以外）と組み合わせるデコーダーを下記から選べます。MOVIE プログラムについて詳しくは、「映像用音場プログラム」（46 ページ）をご覧ください。また、デコーダータイプの選択方法については、「音場パラメーターを変更する」（60 ページ）をご覧ください。
選択項目：PLIIx Movie（PLII Movie）、Neo:6 Cinema

応用操作

■ マルチチャンネルソース用デコーダーを選ぶ

サラウンドバックスピーカーを接続している場合に、ドルビープロロジック IIx、ドルビーデジタル EX、DTS-ES デコーダーを使って、マルチチャンネルソースを６．１または７．１チャンネルで再生します。

操作機器選択スイッチ （⑮） で AMP を選び、㉒EXTD SUR. キーを繰り返し押して５．１／６．１／７．１チャンネル再生を切り替える。

選択項目	説明
AUTO	本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
デコーダー (PLIIx Movie PLIIx Music EX/ES)	デコーダーを手動で選びます。
OFF	6.1 または 7.1 チャンネルで再生しません。



入力ソースに記録されているフラグを本機が正しく認識できない場合に、手動でデコーダーを切り替えてください。

ご注意

- スピーカーの設定や入力ソースにより、選べるデコーダーは変化します。
- 以下の場合は６．１／７．１チャンネルで再生できません。
  - ー「SUR. L/R SP」（68 ページ）、または「SUR.B L/R SP」（69 ページ）を「NONE」に設定している。
  - ーMULTI CH INPUT 端子に接続した機器を再生している。
  - ー再生しているソースにサラウンド左／右チャンネル信号が含まれていない。
  - ーDolby Digital KARAOKE ソースを再生している。
  - ーステレオ再生、または 7ch Enhancer（47 ページ）、ピュアダイレクトモード（49 ページ）で再生している。
  - ー「BI-AMP」を「ON」に設定している（92 ページ）。
- 「EXTD SUR.」で、本機の電源をオンにしたときに適用するデコーダーを選べます（78 ページ）。

音場パラメーターを変更する

音場プログラムは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場プログラムを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果をアレンジできます。

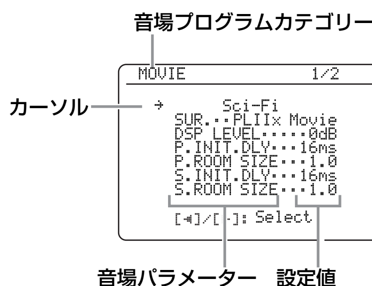
ご注意

「OPTION MENU」の「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているときは音場パラメーターを変更できません（78 ページ）。

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2 操作機器選択スイッチ （⑮） で AMP を選び、⑳PARAMETER キーを押す。

以下の画面がモニターに表示されます。



3 ⑧◁ / ▷ キーを押して、パラメーターを変更したい音場プログラムを選ぶ。

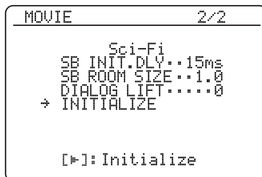
4 ⑧△ / ▽ キーを押して、変更したい音場パラメーターを選び、⑧◁ / ▷ キーを押して、設定値を変更する。

音場プログラムパラメーターについて詳しくは、61 ページをご覧ください。

- 数値を大きくするには、⑧▷ キーを押します。
- 数値を小さくするには、⑧◁ キーを押します。



- 他の音場パラメーターの設定を変更する場合は手順 3 ～手順 4 を繰り返してください。
- 音場プログラムの中には、音場パラメーターの表示がモニター上で 1 ページを超えるものがあります。このような場合は ⑧∆ / ∇ キーを押してページを切り替えてください。
- 初期設定値を変更すると、モニターに表示されている音場パラメーター名の左側にアスタリスク（＊）が表示されます。
- ⑧ ◁ / ▷ キーを長押しして設定値を調節すると、表示されている設定値が初期設定値で瞬間的に止まります。
- 選んだ音場プログラムのパラメーターを初期設定に戻すには、⑧∆ / ∇ キーを繰り返し押して「INITIALIZE」を選び、⑧▷ キーを押します。確認画面がモニター画面に表示されたら、⑧▷ キーを押して確定するか、⑧◁ キーを押して中止してください。



5 ⑳PARAMETER キーを押して音場パラメーターの設定を終了する。

■ 基本的な音場パラメーター

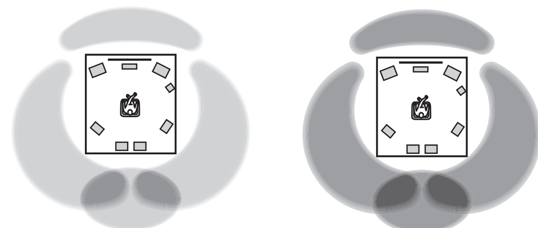
それぞれの音場プログラムはプログラムの性格を特徴付けているパラメーターを持っています。音場プログラムを変更するときは、はじめに「DSP LEVEL」および「DIALOG LIFT」を調節し、音場効果を一度確認したあとでその他のパラメーターを変更することをおすすめします。



音場パラメーターの変更のしかたについて詳しくは、60 ページをご覧ください。

エフェクト量の調節（DSP LEVEL）

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。



エフェクト量：小　　エフェクト量：大

「DSP LEVEL」は以下のように調節してください。

- 効果音が小さく感じられる
- 各音場プログラム間の違いが感じ取れない



効果レベルを大きくする

- 音がぼんやりと聴こえる
- 音場効果のかかり具合が過剰に感じられる

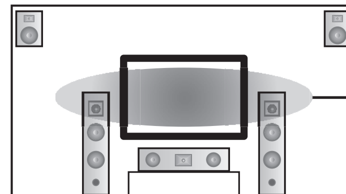


効果レベルを小さくする

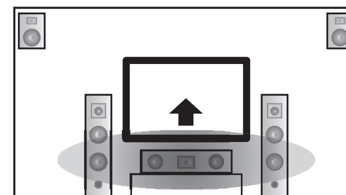
可変範囲：－6dB ～＋3dB

セリフの上下位置調節（DIALOG LIFT）

プレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。



セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合、セリフの上下位置を上へ移動してください。



理想的な定位位置に移動

選択項目：**0**、1、2、3、4、5
「0」（初期設定値）が最も低く、「5」が最も高い位置です。

ご注意

- 「DIALOG LIFT」は「PRESENCE SP」を「YES」に設定しているときのみ調節できます（69 ページ）。
- セリフの上下位置を初期設定よりも下にすることはできません。

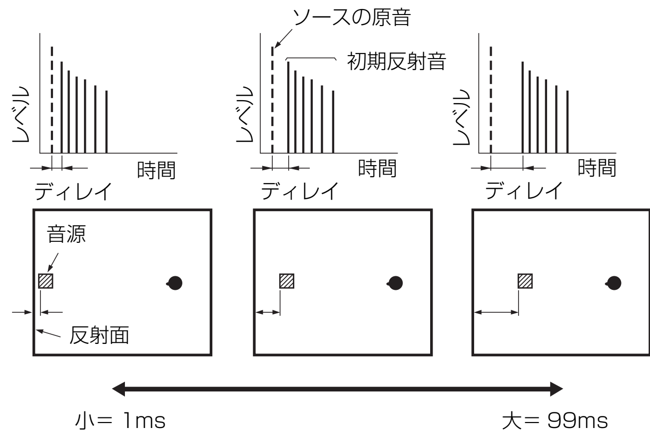
応用操作

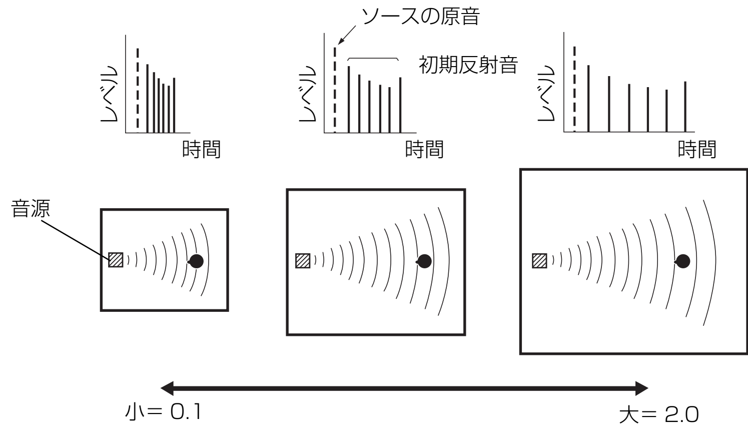
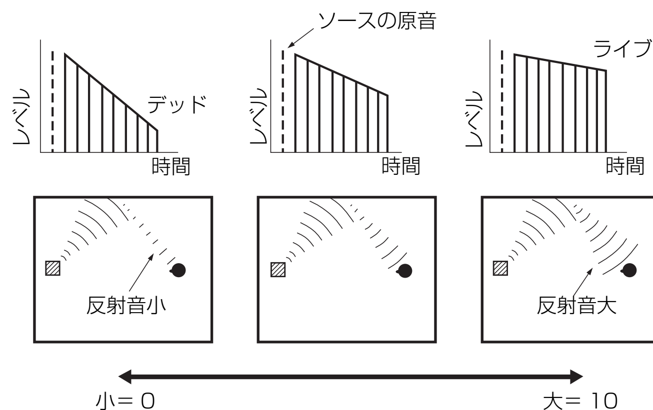
■ その他の音場パラメーター

音場プログラムをカスタマイズするには、以下の音場パラメーターで設定を変更してください。



音場パラメーターの変更のしかたについて詳しくは 60 ページをご覧ください。

音場パラメーター	特長
INIT.DLY P.INIT.DLY S.INIT.DLY SB INIT.DLY	直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。このパラメーターを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。 遅延時間を調節するときは、対応する音場の空間の大きさも調節することをおすすめします。
	可変範囲：1 ～ 99ms（INIT.DLY、P.INIT.DLY） 1 ～ 49ms（S.INIT.DLY、SB INI.DLY）
	

音場パラメーター	特長
ROOM SIZE P.ROOM SIZE S.ROOM SIZE SB ROOM SIZE	空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0 で実測値そのまま、2.0 にすると、1 辺の長さが倍の空間になります。  空間の大きさを調節するときは、対応する音場の遅延時間も調節することをおすすめします。
	可変範囲：0.1 ～ 2.0
	
LIVENESS S.LIVENESS SB LIVENESS	初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。
	可変範囲：0 ～ 10
	

音場パラメーター	特長
REV.TIME	後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIME を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節したりすることができます。
	可変範囲：1.0 ～ 5.0s
	後部残響音 ソースの原音 初期反射音 60dB 時間 REV.TIME 音源 残響音短 残響音長 小＝ 1.0s 大＝ 5.0s
REV.DELAY	残響音が発生しはじめるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ REV.TIME でも、REV.DELAY を長くしていくと大きな空間の残響感になります。
	可変範囲：0 ～ 250ms
	レベル (dB) ソースの原音 60 dB 残響音 時間 REV.DELAY REV.TIME
REV.LEVEL	後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。
	可変範囲：0 ～ 100%
	ソースの原音 レベル (dB) REV. LEVEL 時間

音場パラメーター	特長
DIRECT (2ch Stereo のみ)	2 チャンネルアナログソースを再生しているときにデコーダーや DSP 回路をバイパスして、より高音質で再生します。
	選択項目：**AUTO**、OFF
	• デコーダーや DSP 回路をバイパスするには、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「BYPASS」に設定されているときに、「AUTO」を選んでください。 • デコーダーや DSP 回路をバイパスしないときは、トーンコントロールの「BASS」、および「TREBLE」が「BYPASS」に設定されているときに、「OFF」を選んでください。 • マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロント左／右スピーカーから出力されます。 • 以下の場合、フロント左／右スピーカーの低音域成分はサブウーファーから出力されます。 –「LFE/BASS OUT」が「BOTH」に設定されている（68 ページ）。 –「FRONT SP」が「SMALL」に設定されていて（68 ページ）、「LFE/BASS OUT」が「SWFR」に設定されている（68 ページ）。
CT LEVEL SL LEVEL SR LEVEL SB LEVEL PL LEVEL PR LEVEL (7ch Stereo のみ)	7ch Stereo プログラムでの、各チャンネルの音量を調節します。各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるパラメーターは変化します。
	可変範囲：0 ～ 100%
EFFECT LEVEL (Straight Enhancer、7ch Enhancer のみ)	コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果レベルを調節するパラメーターです。高音域が過剰に強調されているときは、「LOW」に設定してください。
	選択項目：**HIGH**、LOW
	• 効果レベルを弱くするには「LOW」に設定してください。 • 効果レベルを強くするには「HIGH」に設定してください。
SUR. (MOVIE プログラム（Mono Movie 以外）、およびサラウンドデコードモードのみ)	音場プログラムと組み合わせるデコーダーを選びます。選んでいるデコーダーにより、調節できるパラメーターは変化します。詳しくは、59 ページをご覧ください。

■　デコーダーパラメーター

以下のデコーダーパラメーターを使って、デコーダーをカスタマイズできます。

デコーダーパラメーター	特長
PANORAMA （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。
	選択項目：OFF、ON
CENTER WIDTH （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。
	可変範囲：0 ～ 7 （0 にするとセンターのみ、7 にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：3
DIMENSION （PLIIx Music、PLII Music のみ）	PRO LOGIC II Music および PRO LOGIC IIx Music プログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。
	可変範囲：－ 3 ～＋ 3
	初期設定：STD（スタンダード）
C.IMAGE （Neo:6 Music のみ）	DTS Neo:6 Music プログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。
	可変範囲：0.0 ～ 1.0 （0.0 にするとフロント左／右のみ、1.0 にするとセンターのみからセンター音声が出力されます。）
	初期設定：0.3
FOCUS （CSII Cinema、CSII Music のみ）	低い位置に設置したスピーカーから出力される音声の位置を感覚的に持ち上げることで、音声の明瞭さを調節します。値を大きくするほど音声の位置が高くなります。
	可変範囲：0 ～ 8
TruBass （CSII Cinema、CSII Music のみ）	SRS CS プログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。
	可変範囲：0 ～ 8

手動で本機を設定する（MANUAL SETUP）

「MANUAL SETUP」では、リモコンを使ってスピーカーやシステムの設定を変更できます。メニュー構造について詳しくは、「セットメニューツリー」（112 ページ）をご覧ください。



各項目の初期設定は、太字で記載しています。

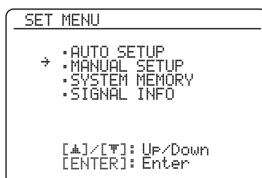
セットメニューの操作手順

ここではモニター画面を見ながら設定する方法を説明します。

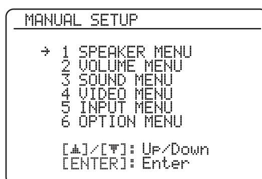


１つ前の操作に戻りたい場合は ⑨RETURN キーを押します。

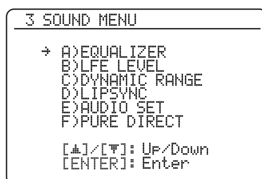
1 **操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑱MENU キーを押す。**
モニターに SET MENU 画面が表示されます。



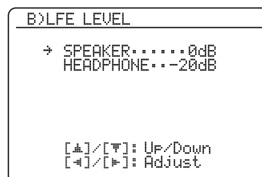
2 **⑧△ / ▽ キーを押して「MANUAL SETUP」を選び、⑧ ENTER キーを押す。**
モニターに MANUAL SETUP 画面が表示されます。



3 **⑧△ / ▽ キーを繰り返し押してから ⑧ENTER キーを押して、設定を変更したいメニューを選ぶ。**
下記は、「SOUND MENU」を選んだ場合の表示例です。



4 **⑧△ / ▽ キーを繰り返し押してから ⑧ENTER キーを押して、設定を変更したいサブメニューを選ぶ。**
下記は、「LFE LEVEL」を選んだ場合の表示例です。



5 **⑧△ / ▽ キーを押して設定項目を選び、⑧◁ / ▷ キーを押して設定を変更する。**
- 数値を大きくするには、⑧▷ キーを押します。
- 数値を小さくするには、⑧◁ キーを押します。

6 **⑱MENU キーを押してセットメニューを終了する。**

1 SPEAKER MENU （スピーカー設定）

スピーカーに関する基本的な設定を手動で変更します。SPEAKER MENU の項目には、AUTO SETUP ですでに設定されているものもあります。



- 「TEST TONE」を「ON」に設定すれば（70 ページ）、「CONFIG」、「LEVEL」、「DISTANCE」の各項目をテストトーンを聞きながら調節できます。
- お使いのサブウーファーが音量やハイカット／クロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、ハイカット／クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

■ スピーカーの設定　A)CONFIG

LFE ／低音域成分の出力　LFE/BASS OUT

LFE（低域効果音）や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。

LFE 信号の出力先

選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
BOTH	出力する	出力しない	出力しない
SWFR	出力する	出力しない	出力しない
FRONT	出力しない	出力する	出力しない

低音域信号の出力先

選択項目	サブウーファー／スピーカー		
	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
BOTH	*1	*2	*3
SWFR	*4	*3	*3
FRONT	出力しない	*1	*3

*1 フロントチャンネルと、「SMALL」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
*2 フロントチャンネルの低音域成分を出力します。
*3 「LARGE」に設定している場合に低音域成分を出力します。
*4 「SMALL」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。

スピーカーサイズを選ぶときの目安
ウーファーの口径が
– 16cm 以上：大
– 16cm 未満：小

フロントスピーカー　FRONT SP

選択項目	説明
LARGE	フロントスピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	フロントスピーカーが小さい場合に選びます。

ご注意

「LFE/BASS OUT」を「FRONT」に設定しているときは「LARGE」のみ選べます。「SMALL」に設定されている場合は自動的に「LARGE」に変更されます。

センタースピーカー　CENTER SP

選択項目	説明
LARGE	センタースピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	センタースピーカーが小さい場合に選びます。
NONE	センタースピーカーを接続していない場合に選びます。センターチャンネル信号はフロント左／右スピーカーに振り分けられます。

サラウンド左／右スピーカー　SUR. L/R SP

選択項目	説明
LARGE	サラウンドスピーカーが大きい場合に選びます。
SMALL	サラウンドスピーカーが小さい場合に選びます。
NONE	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選びます。自動的にバーチャルシネマ DSP モードが選択され（47 ページ）、「SUR.B L/R SP」は「NONE」に設定されます。

サラウンドバック左／右スピーカー
SUR.B L/R SP

選択項目	説明
LRGx1	大きいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。
LRGx2	大きいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。
SMLx1	小さいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。
SMLx2	小さいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。
NONE	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選びます。サラウンドバックチャンネル信号はサラウンド左／右スピーカーに振り分けられます。

プレゼンススピーカー　PRESENCE SP

選択項目	説明
YES	プレゼンススピーカーを使う場合に選びます。
NONE	プレゼンススピーカーを使わない場合に選びます。

低音域成分クロスオーバー　CROSS OVER
「CONFIG」（68 ページ）で「SML」（または「SMALL」）に設定した各スピーカーから出力する低音域成分の下限周波数を設定します。設定よりも低い周波数信号は、「LFE/BASS OUT」の設定に応じてサブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
選択項目：40Hz、60Hz、**80Hz**、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz


お使いのサブウーファーが音量やハイカット／クロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、ハイカット／クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

サブウーファーの位相　SUBWOOFER PHASE
低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

選択項目	説明
NORMAL	サブウーファーの位相を逆転しません。
REVERSE	サブウーファーの位相を逆転します。

■　スピーカーの音量　B)LEVEL
リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
可変範囲：－10.0dB ～ ＋10.0dB
可変ステップ：0.5dB
初期設定：
FR.L ／ FR.R ／ SWFR ／ PR.L ／ PR.R：0.0dB
CENT. ／ SUR.L ／ SUR.R ／ SB L ／ SB R：
－1.0dB

選択項目	スピーカー
FR.L	フロント左スピーカー
FR.R	フロント右スピーカー
CENT.	センタースピーカー
SUR.L	サラウンド左スピーカー
SUR.R	サラウンド右スピーカー
SB L	サラウンドバック左スピーカー
SB R	サラウンドバック右スピーカー
SWFR	サブウーファー
PR.L	プレゼンス左スピーカー
PR.R	プレゼンス右スピーカー

ご注意
- 各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。
- 「SUR.B L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定している場合、「SB L」および「SB R」の代わりに「SB」と表示されます。

■　スピーカーの距離　C)DISTANCE
各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。

距離の単位設定　UNIT

選択項目	説明
meters（m）	スピーカーの距離をメートルで表示します。
feet (ft)	スピーカーの距離をフィートで表示します。

スピーカーの距離
可変範囲：0.30 ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
可変ステップ：0.10m（0.5ft）
初期設定：
FRONT L ／ FRONT R ／ SWFR ／ PRNS L ／ PRNS R：
3.00m（10.0ft）
CENTER：2.60m（8.5ft）
SUR. L ／ SUR. R ／ SB L ／ SB R：
2.40m（8.0ft）

選択項目	スピーカー
FRONT L	フロント左スピーカー
FRONT R	フロント右スピーカー
CENTER	センタースピーカー
SUR. L	サラウンド左スピーカー
SUR. R	サラウンド右スピーカー
SB L	サラウンドバック左スピーカー
SB R	サラウンドバック右スピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンス左スピーカー
PRNS R	プレゼンス右スピーカー

ご注意

- 各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるスピーカーは変化します。
- 「SUR.B L/R SP」を「LRGx1」または「SMLx1」に設定している場合（69 ページ）、「SB L」および「SB R」の代わりに「SUR.B」と表示されます。

■ テストトーン D)TEST TONE

「CONFIG」、「LEVEL」、「DISTANCE」の各項目を調節するときにテストトーンを出力します。

選択項目	説明
OFF	テストトーンを出力しません。
ON	テストトーンを出力します。



音圧計をお持ちの場合は、音圧計を C 特性／スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで 75dB SPL になるように調節してください。

ご注意

「SPEAKER MENU」の設定を終了すると、自動的に「OFF」に切り替わります。

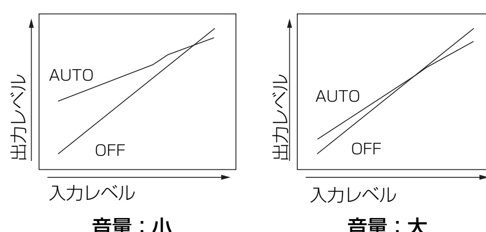
2 VOLUME MENU（音量設定）

音量に関するさまざまな設定を手動で変更します。

アダプティブダイナミックレンジコントロール
ADAPTIVE DRC

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生したり、夜間に再生したりするときに効果的です。「AUTO」に設定すると、ダイナミックレンジは以下のように変化します。

– 音量を小さく設定したとき：狭くなります。
– 音量を大きく設定したとき：広くなります。



選択項目	説明
AUTO	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
OFF	ダイナミックレンジを自動的に調節しません。



- 「SOUND MENU」の「DYNAMIC RANGE」で、ビットストリーム信号のダイナミックレンジを設定することもできます。（72 ページ）。
- ヘッドホンを使って再生しているときにも有効です。

ご注意

ピュアダイレクトモード（49 ページ）で再生しているときは「ADAPTIVE DRC」は無効になります。

アダプティブ DSP レベル
ADAPTIVE DSP LEVEL

本機の音量と DSP のエフェクト量（61 ページ）を連動して調節します。

選択項目	説明
AUTO	DSP のエフェクト量を自動的に調節します。
OFF	DSP のエフェクト量を自動的に調節しません。

ご注意

「AUTO」に設定しても、DSP のエフェクト量の設定値は変わりません（61 ページ）。

ミュート時の音量　MUTING TYPE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します（40 ページ）。

選択項目	説明
FULL	完全に消音し、無音にします。
－20dB	いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

音量の上限　MAX VOL.

音量が間違って上がりすぎないように音量の最大値を設定します。例えば、「－5dB」に設定していると き、音量の可変範囲は－80.0dB から－5.0dB に なります。初期設定値（＋16.5dB）では、最大音量まで出力します。
可変範囲：－30.0dB ～＋15.0dB、**＋16.5dB**
可変ステップ：5.0dB

ご注意

- AUTO SETUP の測定中は、「MAX VOL.」の設定に関わらず音量は自動的に0 dB に調節されます。
- 「MAX VOL.」の設定は「INIT. VOL.」の設定よりも優先されます。

音量の初期値　INIT. VOL.

本機の電源をオンにしたときの音量を設定します。
選択項目：**OFF**、MUTE、－80.0dB ～＋16.5dB
可変ステップ：0.5dB

ご注意

「INIT. VOL.」の設定よりも「MAX VOL.」の設定が優先されます。

3 SOUND MENU（音の設定）

音声に関するさまざまな設定を手動で変更します。

■　イコライザー　A)EQUALIZER

パラメトリックイコライザーやグラフィックイコライザーを使って、音質や音色を調節します。

イコライザーの選択　EQ TYPE

イコライザーの種類を選びます。

選択項目	説明
AUTO PEQ	AUTO SETUP で設定したパラメトリックイコライザーを使います。
GEQ	「GEQ EDIT」で設定したイコライザーを使います。
OFF	イコライザーを使いません。

ご注意

「AUTO PEQ」は AUTO SETUP を実施している場合にのみ選べます。

グラフィックイコライザー　GEQ EDIT

各スピーカーの音質を調節します。
スピーカー：フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、プレゼンス左、プレゼンス右、サブウーファー
周波数帯域：63Hz、160Hz、400Hz、1kHz、2.5kHz、6.3kHz、16kHz
可変範囲：－6.0dB ～＋6.0dB
可変ステップ：0.5dB



音質を調整しているときにテストトーンを出力するには、「TEST」を「ON」に設定してください。

ご注意

- 「EQ TYPE」を「GEQ」に設定しているときにグラフィックイコライザーを調節できます。
- 調節できるスピーカーは、「CONFIG」の設定により変化します。
- 「SUR.B L/R SP」を「LRG x1」、または「SMLx1」に設定している場合、「SB L」、および「SB R」の代わりに「SB」と表示されます。

パラメトリックイコライザー　PEQ SELECT

AUTO SETUP で適用するパラメトリックイコライザーの種類を設定します。

選択項目	説明
NATURAL	すべてのスピーカーの音質を、高域特性を下げた状態にそろえます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。
FLAT	各スピーカーの特性を均一（フラット）にします。すべてのスピーカーの品質が同じ場合に設定してください。
FRONT	フロント L/R スピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。フロントスピーカーの品質が他のスピーカーよりも大幅に優れている場合に設定してください。

ご注意

「EQ TYPE」を「AUTO PEQ」に設定しているときに「PEQ SELECT」を設定できます。

■　低域効果音の音量 B)LFE LEVEL

LFE（低域効果音）チャンネルの音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。LFE とは、映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。
可変範囲：－20.0 ～ **0.0**dB
可変ステップ：1.0dB

スピーカー用　SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ヘッドホン用　HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合の LFE の音量を調節します。

ご注意

「LFE/BASS OUT」（68 ページ）の設定により、SUBWOOFER PRE OUT 端子から信号が出力されない場合があります。

■　ダイナミックレンジ　C)DYNAMIC RANGE

ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジを調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に設定できます。

スピーカー用　SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

ヘッドホン用　HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを調節します。

選択項目	説明
MIN/AUTO	・MIN：ドルビー TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジです。 ・AUTO：ドルビー TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを自動的に調節します。
STD	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。ドルビー TrueHD 信号再生時も、入力信号の情報に関わらず常にダイナミックレンジは基準値に保たれます。
MAX	入力された信号を補正せず、そのまま再生するダイナミックレンジです。

■　音声と映像のずれ補正　D)LIPSYNC

HDMI 自動判定　HDMI AUTO

リップシンクの自動補正機能に対応しているモニターと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。音声出力を遅らせる時間を設定します。

選択項目	説明
OFF	モニターが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選びます。「MANUAL DELAY」で補正時間を設定してください。
ON	モニターが自動補正機能に対応している場合に選びます。「AUTO DELAY」で補正時間を微調節してください。

自動補正　AUTO DELAY

「HDMI AUTO」を「ON」に設定している場合に、補正時間を微調節します。
可変範囲：**0** ～ 240ms
可変ステップ：1ms



「offset」は、自動補正機能によって調節された時間と、「AUTO」によって微調節された時間の差を表しています。本機はこの「offset」の値を記憶して、自動補正機能を持つ別のモニターにも同じ値を適用します。

手動補正　MANUAL DELAY

「HDMI AUTO」を「OFF」に設定している場合に、補正時間を手動で微調整します。
可変範囲：**0** ～ 240ms
可変ステップ：1ms

■ その他の音声設定　E)AUDIO SET

トーンバイパス　TONE BYPASS

「BASS」および「TREBLE」を 0dB に設定している場合に（49 ページ）、トーンコントロール回路をバイパスするかしないかを設定します。

選択項目	説明
AUTO	「BASS」、および「TREBLE」を 0dB に設定している場合にトーンコントロール回路を自動的にバイパスします。
OFF	トーンコントロール回路をバイパスしません。

HDMI 音声　HDMI AUDIO

HDMI 音声信号を本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した他の HDMI 機器で再生するかを選びます。

選択項目	説明
AMP	本機でデコードできる音声信号を出力します。
AMP+TV	本機の HDMI OUT 端子に接続したモニターがデコードできる音声信号を出力します。

ご注意

モニターが対応している音声／映像信号は機器により異なります。モニターや音声機器の取扱説明書をご覧ください。

多重モノラル音声　DUAL MONO

BS ／地上波デジタル放送などで使われている AAC モノラル二重音声入力時に、出力する音声を設定します。

選択項目	説明
MAIN	主音声をフロント左／右スピーカーから出力します。
SUB	副音声をフロント左／右スピーカーから出力します。
ALL	主音声と副音声をフロント左／右スピーカーから同時に出力します。PCM 信号入力時のフロント左／右チャンネルへの振り分けは、BS デジタルチューナーの設定により異なります。詳しくは BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- モノラルでない二重音声出力は BS デジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタルの二重音声（デュアルモノ）信号、および AAC の音声多重（マルチモノ）信号受信時のみ設定が有効になります。
- 地上波放送などのアナログや PCM 信号での二重音声出力はチューナーやビデオデッキ側で設定してください。

■ ピュアダイレクト　F)PURE DIRECT

ピュアダイレクトモードで再生しているときの映像信号出力を設定します。

選択項目	説明
AUDIO	映像信号を出力しません。
AUDIO+VIDEO	映像信号を出力します。音質を良くするため、最小限の映像機能が動作します。

ご注意

「PURE DIRECT」を「AUDIO+VIDEO」に設定しても、モニター画面にメニューを表示できません。

4 VIDEO MENU（映像の設定）

映像出力に関する設定を変更します。



アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」（92 ページ）で、すべての「VIDEO MENU」の項目を初期設定に戻せます。

ビデオコンバージョンの設定　VIDEO CONV.

本機のアナログ入力端子に入力した信号を、別の種類の信号に変換して出力します。

選択項目	説明
ON	信号の種類を変換します。コンポジットビデオ、S ビデオ、コンポーネントビデオ、D5 ビデオ端子から入力した映像信号の種類を変換し、HDMI を含むすべての端子から出力します。
OFF	映像信号の種類を変換しません。入力した信号は、入力端子と同じ種類の出力端子からのみ出力します。

ご注意

- 480p、1080i、720p 信号は S VIDEO MONITOR OUT、または VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されません。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類のビデオ接続を行ってください。
- ビデオデッキを本機に接続している場合、コンポジットビデオ信号または S ビデオ信号をコンポーネント信号に変換すると、ビデオデッキの種類によっては画質が劣化する場合があります。
- 特殊な映像信号を出力する機器（ゲーム機など）と接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、「ON」に設定しても入力信号が変換されなかったりする場合があります。このような場合は、「OFF」に設定してください。

コンポーネント I ／ P 変換　COMPONENT I/P

コンポジット端子、S ビデオ端子、コンポーネントビデオ／ D5 ビデオ端子から入力されたアナログ映像入力信号をコンポーネント端子から出力するときに、480i 信号を 480p 信号に変換するか変換しないかを設定します。

選択項目	説明
ON	I/P 変換します。
OFF	I/P 変換しません。

ご注意

- 「VIDEO CONV.」を「ON」に設定しているときに表示されます。
- モニターが 480p アナログ映像信号に対応していない場合、「COMPONENT I/P」を「ON」に設定するとモニターにセットメニューが表示されなくなります。

HDMI 解像度設定　HDMI RES.

アナログ映像入力信号をビデオコンバージョン機能によって HDMI 信号に変換するときに、HDMI OUT 端子から出力する HDMI 信号の解像度を変換します。
以下のように映像信号を変換します。

- 480i → 480p、1080i、720p、1080p
- 480p → 1080i、720p、1080p

選択項目	説明
THROUGH	解像度を変換しません。
480p 、720p、1080i、1080p	選んだ解像度に変換します。

ご注意

- 「VIDEO CONV.」を「ON」に設定しているときのみ表示されます。
- 本機は自動的にモニターが対応している解像度を検出します。対応している解像度に「＊」（アスタリスク）が表示されます。解像度を本機が検出できない場合は、アドバンストセットアップメニュー「MONITOR CHECK」を「SKIP」に設定してください（92 ページ）。

HDMI アスペクト比設定　HDMI ASPECT

HDMI OUT 端子から出力するアナログ映像信号の縦横比（アスペクト比）を設定します。

選択項目	説明
THRGH	縦横比を変換せずに元の比率で出力します。
16:9	モニター画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のモニターで最適な映像になるように出力します。
SMART	4：3 の映像の左右を引き伸ばして、16：9 のモニターで最適な映像になるように出力します。

ご注意

- 「HDMI RES.」が「THROUGH」以外のときに設定できます。
- アスペクト比が４：３以外の映像信号が入力された場合、「HDMI ASPECT」の設定は無効になります。
- 「HDMI ASPECT」を「SMART」に設定した場合、映像の左右両端を引き伸ばしてモニター画面に表示します。

5 INPUT MENU（入力の設定）

入力ソースに関するさまざまな設定を変更します。

入力ソース	選択項目
A)TUNER	INPUT RENAME VOL. TRIM BGV
B)MULTI CH	INPUT RENAME VOL. TRIM BGV INPUT CH FRONT
C)PHONO D)CD E)TV F)MD/CD-R	I/O ASSIGNMENT INPUT RENAME VOL. TRIM DECODER MODE BGV
G)BD/HD DVD H)DVD I)CBL/SAT J)DVR K)VCR L)V-AUX	I/O ASSIGNMENT INPUT RENAME VOL. TRIM DECODER MODE
M)DOCK	INPUT RENAME VOL. TRIM STANDBY CHARGE
N)BLUETOOTH	INPUT RENAME VOL. TRIM BGV START PAIRING
O)USB	INPUT RENAME VOL.TRIM BGV

入出力端子の割り当て I/O ASSIGNMENT

本機が装備している入出力端子は、それぞれに接続する外部機器が初期設定で割り当てられています。初期設定とは異なる機器を接続した場合に、接続した端子の割り当てを変更してください。割り当てを変更すれば、入力選択時に表示される機器名と、実際に選ばれる機器を一致させられます。



- 端子に機器が割り当てられていない場合はモニター画面に「NONE」と表示されます。
- 同じ種類の端子には、１つの機器を１回のみ割り当てられます。
- 現在の設定を変更すると、端子名の右側にアスタリスク（＊）が表示されます。
- 端子を選ぶと、現在その端子に割り当てられている機器がモニター画面の「Current」欄に表示されます。

入力ソース名の変更　INPUT RENAME

モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名（９文字以内）を変更します。

- 編集する文字の位置を移動するには ⑧◁ / ▷ キーを押します。
- 文字を選ぶには ⑧△ / ▽ キーを押します。
- 編集が終わったら ⑧**ENTER** キーを押します。
- 前の画面に戻るには、⑨**RETURN** キーを押します。



⑧▽ キーを押すと順番どおりに、⑧△ キーを押すと順番とは逆に文字が表示されます。A ～ Z、0～9、a ～ z、記号（#、*、－、＋など）、スペース

音量差の補正　VOL. TRIM

入力ソース間の音量差を補正することで、入力を切り替えたときの急な音量の変化を防げます。
可変範囲：－6.0dB ～ ＋6.0dB
可変ステップ：0.5dB
初期設定：0.0dB

デコーダーモード選択　DECODER MODE

入力するデジタル音声信号を選びます。

選択項目	説明
AUTO	自動的に音声入力信号を選びます。
DTS	DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC	AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

応用操作

ご注意

「DECODER MODE」は、再生する機器が HDMI、光／同軸デジタル端子に割り当てられているときのみ有効です。

バックグラウンドビデオ設定　BGV

音声を再生しているときに組み合わせて楽しむ映像系入力ソースを選びます。

選択項目	説明
BD/HD DVD、DVD、CBL/SAT、DVR、VCR、V-AUX、DOCK	選んだ映像系入力ソースを再生します。
OFF	バックグラウンドビデオ機能を使いません。

iPod 充電モード設定　STANDBY CHARGE

本機の電源がスタンバイのときに、本機に接続したヤマハ製 iPod 用ドック（別売 YDS-11 など）にセットした iPod の充電モードを設定します。

選択項目	説明
AUTO	iPod を充電します。
OFF	本機の電源がスタンバイのときは iPod を充電しません。

ペアリング開始　START PAIRING

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）のペアリングを開始します。ペアリングについて詳しくは、「Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする」をご覧ください（55 ページ）。

> セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1　⑧ENTER キーを押して、ペアリングを開始する。

ヤマハ製 Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器をサーチします。モニター画面に「Searching...」と表示されます。

2　Bluetooth機器がBluetoothレシーバーを認識していることを確認する。

詳しくは Bluetooth 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3　Bluetooth レシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合は「BT Connected」と表示されます。



ペアリングを中止するには ⑨RETURN キーを押してください。

4　⑨RETURN キーを押して、「START PAIRING」の設定を終了する。

ご注意

- Bluetooth レシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合は「Not found」と表示されます。
- Bluetooth レシーバーが本機に接続されていない場合は「No BT receiver」と表示されます。

チャンネル数選択　INPUT CH

MULTI CH INPUT 端子に入力した音声を再生するとき（27 ページ）に入力するチャンネル数を設定します。ここでは、LFE0.1 チャンネルも 1 チャンネルとして数えます。

選択項目	説明
6ch	5.1 チャンネル音声を入力します。
8ch	7.1 チャンネル音声を入力します。下記の「FRONT」を設定してください。

フロント用入力端子選択　FRONT

「INPUT CH」を「8ch」に設定した場合に、フロントチャンネル用として使うアナログ音声入力端子を選びます。

選択項目：CD、TV、MD/CD-R、**BD/HD DVD**、DVD、CBL/SAT、DVR、VCR、V-AUX

ご注意

「FRONT」は、「INPUT CH」を「8ch」に設定したときのみ表示されます。

6 OPTION MENU（その他の設定）

その他のさまざまな設定を変更します。

■ 表示の設定　A)DISPLAY SET

ご注意

アドバンストセットアップメニュー「INITIALIZE」の「VIDEO」で、「OSD SHIFT」、および「GRAY BACK」を初期設定に戻せます（92 ページ）。

ディスプレイの明るさ　DIMMER

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。
可変範囲：－4～**0**
可変ステップ：1
- 表示を暗くするには、⑧◁ キーを押してください。
- 表示を明るくするには、⑧▷ キーを押してください。

表示画面の位置調節　OSD SHIFT

モニター画面表示の上下位置を調節します。
可変範囲：－５（下方）～+5（上方）
可変ステップ：1
初期設定：0
- 下に移動するには、⑧◁ キーを押してください。
- 上に移動するには、⑧▷ キーを押してください。

背景の設定　GRAY BACK

映像信号が入力されていないときに灰色の背景をモニターに表示します。

選択項目	説明
AUTO	灰色の背景を表示します。
OFF	背景を表示しません。

ご注意

入力している映像信号やモニターの設定により、モニター画面に表示される文字が正常に映らない場合があります。そのような場合は、「OFF」に設定してください。

ショートメッセージ表示　SHORT MESSAGE

本機を操作したときにテレビ画面に表示される、ショートメッセージを設定します。

選択項目	説明
ON	ショートメッセージを表示します。
OFF	ショートメッセージを表示しません。

ご注意

以下の場合はショートメッセージは表示されません。
－480p、720p、1080i、1080p 映像信号を入力している
－HDMI 映像信号を入力している

画面表示時間設定　ON SCREEN

iPod や USB メニューを操作しているときのモニター画面の表示時間を設定します。

選択項目	説明
ALWAYS	メニュー画面を継続して表示します。
10S	メニュー画面を 10 秒間表示します。
30S	メニュー画面を 30 秒間表示します。

スクロール表示　FL SCROLL

iPod や USB メニュー（曲の名前など）をフロントパネルディスプレイに表示するときの表示方法を設定します。

選択項目	説明
CONT	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
ONCE	すべての文字を 1 度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

応用操作

■ 設定の保護 B)MEMORY GUARD

誤操作による設定値の変更を防止します。

選択項目	説明
OFF	設定を保護しません。
ON	以下の設定を保護します。セットメニュー画面の右上に「G」が表示されます。 －音場パラメーターの設定 －AUTO SETUP の設定 －スピーカーの音量設定 －MANUAL SETUP の設定

ご注意

- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しても、以下の項目は変更できます。
  －「INPUT MENU」の「DECODER MODE」（75 ページ）
  －「MEMORY GUARD」
  －音場パラメーター「SUR.」（65 ページ）
  －「SOUND MENU」の「TONE BYPASS」（73 ページ）

■ 電源オン時の設定 C)INIT. CONFIG

本機の電源をオンにしたときに適用する入力モードやデコーダーモード、6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダーを設定します。

入力モード初期値 AUDIO SELECT

本機の電源をオンにしたときに適用する入力モード（39 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、入力モードを決定します。
LAST	前回選んでいた入力モードの設定を適用します。

デコーダーモード初期値 DECODER MODE

本機の電源をオンにしたときに適用するデコーダーモード（75 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーモードを決定します。
LAST	前回選んでいたデコーダーモードの設定を適用します。

6.1 ／ 7.1 チャンネルデコーダー設定 EXTD SUR.

本機の電源をオンにしたときに適用する 6.1 ／ 7.1 チャンネル再生時のデコーダー（60 ページ）を設定します。

選択項目	説明
AUTO	自動的に入力信号の種類を判別し、デコーダーを決定します。
LAST	前回選んでいたデコーダーの設定を適用します。

本機の設定を呼び出す・保存する（SYSTEM MEMORY）

６種類までの設定を保存し、必要に応じて簡単に呼び出せます。以下の設定を保存できます。

設定	ページ
SPEAKER MENU（TEST TONE 以外）	68
VOLUME MENU（INIT. VOL. 以外）	70
SOUND MENU*	71
VIDEO MENU	74
DISPLAY SET（SHORT MESSAGE 以外）	77
選んでいる音場プログラム（またはピュアダイレクトモード）	42
音場パラメーター	60
トーンコントロール *	49

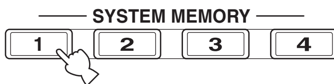
* ヘッドホン用の「DYNAMIC RANGE」、「LFE LEVEL」、およびトーンコントロールの設定は保存されません。

現在の設定を保存する

■ ⑥SYSTEM MEMORY キーを使って保存する

⑥**SYSTEM MEMORY** キーを押して MEMORY1 ～ MEMORY4 に設定を保存します。

設定を保存する ⑥SYSTEM MEMORY キーを約４秒間押し続ける。
フロントパネルディスプレイに「MEMORY1 SAVE Done」（例）と表示され、選んだメモリー番号に現在の設定を保存します。





選んだメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。

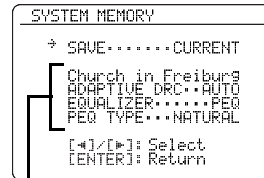
■ セットメニューを使って保存する

セットメニュー「SYSTEM MEMORY」を使えば、MEMORY1 から MEMORY6 までの 6 通りの設定を保存できます。

1 操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑱MENU キーを押す。
モニターに SET MENU 画面が表示されます。

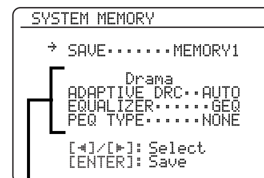
2 ⑧∇ キーを押して「SYSTEM MEMORY」を選び、⑧ENTER キーを押す。
SYSTEM MEMORY メニューが表示されます。

3 ⑧∇ キーを押して「SAVE」を選び、⑧ENTER キーを押す。
現在の設定が表示されます。



現在の設定

4 ⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押してメモリー番号（MEMORY1 ～ MEMORY6）を選ぶ。
選んだメモリー番号に現在保存されている設定が表示されます。設定が保存されていない場合は「EMPTY」と表示されます。



選んだメモリー番号に保存されている設定



- 選んだメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。
- ⑥SYSTEM MEMORY キーで設定を呼び出すには、MEMORY1 ～ MEMORY4 キーを押してください。

5 ⑧ENTER キーを押して、選んだメモリー番号に現在の設定を保存する。

応用操作

6 ⑱MENU キーを押してセットメニューを終了する。

保存した設定を呼び出す

ご注意

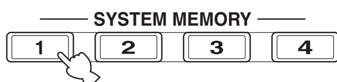
保存した設定を呼び出すと、現在の設定に上書きします。現在の設定を消去したくない場合は、設定を呼び出す前に SYSTEM MEMORY に保存してください。

■ ⑥SYSTEM MEMORY キーを使って呼び出す

⑥SYSTEM MEMORY キーを押して、MEMORY1 〜 MEMORY4 に保存した設定を呼び出します。

1 設定を呼び出すメモリー番号の ⑥SYSTEM MEMORY キーを押す。

フロントパネルディスプレイに「MEMORY1 LOAD」（例）と表示されます。





選んだメモリー番号に設定が保存されていない場合は「EMPTY」と表示されます。

2 選んだ番号の ⑥SYSTEM MEMORY キーをもう一度押して、決定する。

選んだメモリー番号に保存されている設定を呼び出します。

■ セットメニューを使って呼び出す

1 操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選び、⑱MENU キーを押す。

モニターに SET MENU 画面が表示されます。

2 ⑧▽ キーを押して「SYSTEM MEMORY」を選び、⑧ENTER キーを押す。

SYSTEM MEMORY メニューが表示されます。

3 ⑧ENTER キーを押して「LOAD」を選ぶ。

現在の設定が表示されます。

```
SYSTEM MEMORY
 → LOAD・・・・・・・CURRENT
   Church in Freiburg
   ADAPTIVE DRC・・AUTO
   EQUALIZER・・・・・・PEQ
   PEQ TYPE・・・NATURAL
   [◄]/[►]: Select
   [ENTER]: Return
```

4 ⑧◁ / ▷ キーを繰り返し押して設定が保存されているメモリー番号を選び、⑧ENTER キーを押す。

選んだ設定を呼び出します。

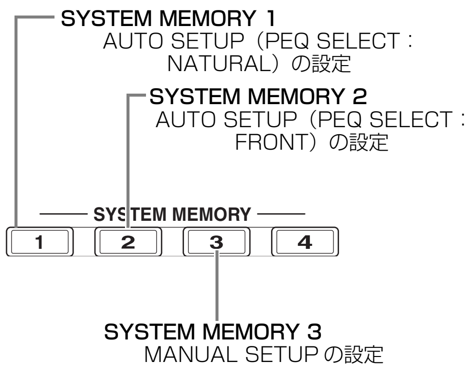
```
SYSTEM MEMORY
 → LOAD・・・・・・・MEMORY6
        Straight
   ADAPTIVE DRC・・AUTO
   EQUALIZER・・・・・・PEQ
   PEQ TYPE・・・・・・FLAT
   [◄]/[►]: Select
   [ENTER]: Load
```

5 ⑱MENU キーを押してセットメニューを終了する。

メモリー機能の使用例

■ 例1：AUTO SETUP の設定と MANUAL SETUP の設定を比較する

本機は３種類のパラメトリックイコライザーを装備しています（72 ページ）。また、MANUAL SETUP で音の設定を自由に変更することもできます（67 ページ）。⑥SYSTEM MEMORY キーを使って、AUTO SETUP の設定と MANUAL SETUP の設定を比較します。



それぞれの設定を保存する

1 AUTO SETUP を実施する（33 ページ）。

2 ⑥**SYSTEM MEMORY 1** キーを約４秒間押し続ける。
AUTO SETUP の設定（PEQ SELECT：NATURAL）を MEMORY1 に保存します。

3 「PEQ SELECT」を「FRONT」に設定する（72 ページ）。

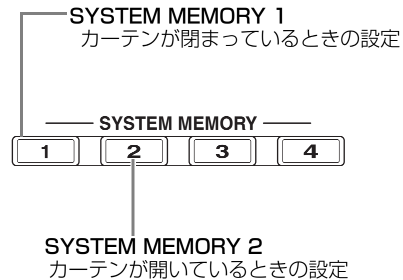
4 ⑥**SYSTEM MEMORY 2** キーを約４秒間押し続ける。
AUTO SETUP の設定（PEQ SELECT：FRONT）を MEMORY2 に保存します。

5 「SPEAKER MENU」（68 ページ）と「GEQ EDIT」（71 ページ）を手動で設定する。

6 ⑥**SYSTEM MEMORY 3** キーを約４秒間押し続ける。
手動での設定を MEMORY3 に保存します。

■ 例２：リスニングルーム環境の違いによって使い分ける

リスニングルームの音響特性はお部屋の環境によって変化します（例：カーテンの開／閉）。本機の設定を変更することで環境に適した再生を楽しめます。⑥SYSTEM MEMORY キーを使って本機の設定を切り替えます。



それぞれの設定を保存する

1 カーテンを閉めた状態でAUTO SETUPを実施する（33 ページ）。

2 ⑥**SYSTEM MEMORY 1** キーを約４秒間押し続ける。
現在のお部屋の状況（例：カーテン閉）に適した設定を MEMORY1 に保存します。

3 カーテンを開けた状態でAUTO SETUPを実施する。

4 ⑥**SYSTEM MEMORY 2** キーを約４秒間押し続ける。
現在のお部屋の状況（例：カーテン開）に適した設定を MEMORY2 に保存します。

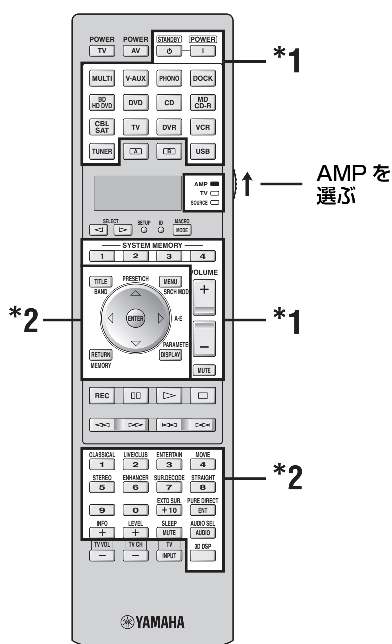
リモコンの機能を詳しく知る

他の機器のリモコンコードを設定することにより（84 ページ）、本機のリモコンで DVD プレーヤー、テレビなど、本機以外の AV 機器を操作できます。

リモコンでさまざまな機器を操作する

■ 本機を操作する

操作機器選択スイッチ（⑮）で AMP を選んでください。



ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらず本機を操作できます。

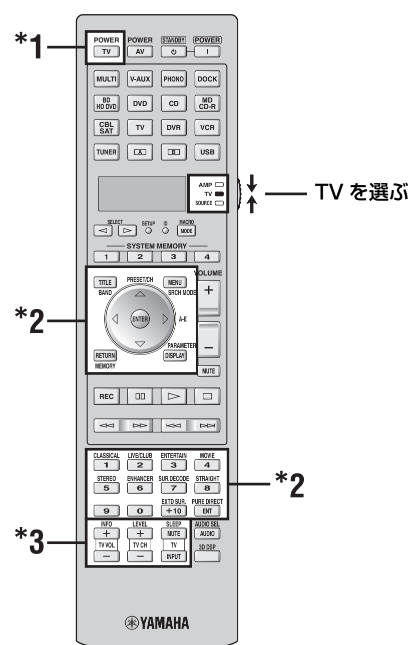
*2 操作機器選択スイッチ（⑮）を AMP にセットしたときに本機を操作できます。

■ テレビを操作する

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合は、操作機器選択スイッチ（⑮）を TV にセットします。テレビを操作するには、あらかじめ ⑮TV の位置にテレビのリモコンコードを設定してください（84 ページ）。



⑮TV の位置にテレビのリモコンコードを設定していない場合は ③TV キーに設定したテレビを操作できます。



ご注意

*1 操作機器選択スイッチの位置に関わらずテレビを操作できます。

*2 操作機器選択スイッチ（⑮）を TV にセットしたときにテレビを操作できます。詳しくは、次ページ表中の「テレビ」欄をご覧ください。

*3 操作機器選択スイッチ（⑮）を TV、または SOURCE にセットしたときに、テレビを操作できます。

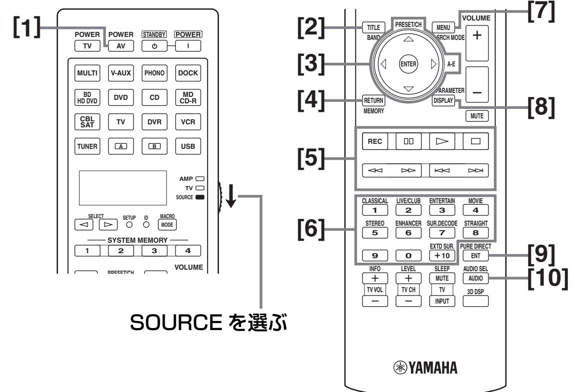
リモコンキー	テレビ
TV VOL +/ −	テレビの音量を操作します。
TV CH +/ −	テレビのチャンネルを切り替えます。
TV MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。
TV INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。

■ 他の機器を操作する

入力選択キー (③) または A、B キーで選んだ機器を操作するには、入力機器選択スイッチ (⑮) で SOURCE を選びます。各入力ソースにあらかじめリモコンコードを設定してください（84 ページ）。下表は、入力選択キー (③)、または A、B キーに割り当てられている機器を操作できる各キーの機能を表しています。



本機のリモコンは、16 台までの異なる機器を操作できるように、16 種類のコントロールエリアを装備しています。



応用操作

		BD ／ HD DVD プレーヤー／レコーダー	DVD プレーヤー	LD プレーヤー	DVD レコーダー／デジタルビデオレコーダー	ビデオデッキ	テレビ	ケーブルテレビ／衛星放送チューナー	CD プレーヤー	MD ／ CD レコーダー	テープデッキ	チューナー
[1]	AV POWER	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	DVR 電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1	電源 *1
[2]	TITLE、BAND	タイトル	タイトル		タイトル		タイトル					バンド
[3]	PRESET/CH Δ	上へ	上へ		上へ	チャンネル＋	上へ	チャンネル＋				上へ
	PRESET/CH ∇	下へ	下へ		下へ	チャンネル－	下へ	チャンネル－				下へ
	A-E ◁	左へ	左へ		左へ		左へ					左へ
	A-E ▷	右へ	右へ		右へ		右へ				面切替（A ／ B）	右へ
	ENTER	決定	決定		決定		決定					決定
[4]	RETURN、MEMORY	戻る	戻る		戻る		戻る					メモリー
[5]	REC	録音（レコーダー）	ディスクスキップ		録音／録画	録音／録画	DVR 録音／録画 *2	DVR 録音／録画 *2	ディスクスキップ	録音	録音	
	❙❙	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	DVR 一時停止 *2	DVR 一時停止 *2	一時停止	一時停止	一時停止	
	▷	再生	再生	再生	再生	再生	DVR 再生 *2	DVR 再生 *2	再生	再生	再生	
	□	停止	停止	停止	停止	停止	DVR 停止 *2	DVR 停止 *2	停止	停止	停止	
	◁◁	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	DVR 巻き戻し *2	DVR 巻き戻し *2	巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	
	▷▷	早送り	早送り	早送り	早送り	早送り	DVR 早送り *2	DVR 早送り *2	早送り	早送り	早送り	
	∣◁◁	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	スキップ（－）	DVR スキップ（－）*2	DVR スキップ（－）*2	スキップ（－）	スキップ（－）	A 面再生	
	▷▷∣	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	スキップ（＋）	DVR スキップ（＋）*2	DVR スキップ（＋）*2	スキップ（＋）	スキップ（＋）	B 面再生	
[6]	1-9、0、+10	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力	数字入力		数字入力
[7]	MENU、SRCH MODE	メニュー	メニュー		メニュー		メニュー					選局モード
[8]	DISPLAY	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示		ディスプレイ表示
[9]	ENT	インデックス表示	インデックス表示	チャプター／時間表示	インデックス表示	決定	決定	決定	インデックス表示	インデックス表示		決定
[10]	AUDIO	オーディオ	オーディオ	オーディオ	オーディオ							

ご注意

*1 機器に付属のリモコンに電源キーがある場合に機能します。
*2 ③DVR キーに DVR（DVD レコーダーなどの録画機器）のリモコンコードを設定した場合に、DVD レコーダーなどを操作できます。

■　操作する機器を切り替える

入力選択キー（③）で選んでいる入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えます。

⑤SELECT◁ / ▷ キーを繰り返し押して、操作機器を切り替える。
操作する機器名がリモコンディスプレイ（④）に表示されます。



■　オプション機器を操作する（オプションモード）

「OPTN1」、および「OPTN2」には、入力ソースに関係なくリモコンで操作したい機能を記憶できます。マクロ機能の一部として、またはリモコンコードを持たない機器の操作用として使うと便利です。

リモコンディスプレイ（④）に「OPTN1」、または「OPTN2」と表示されるまで ⑤SELECT ◁ / ▷ キーを繰り返し押す。



または



リモコンコードを設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。
下表は各操作機器の初期設定コードを表しています。

工場出荷時のリモコンコード設定

操作機器名	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
MULTI	DVD	ヤマハ	04306
V-AUX	–	–	–
PHONO	–	–	–
DOCK	SOURCE	ヤマハ	00012
BD HD DVD	–	–	–
DVD	DVD	ヤマハ	04306
CD	CD	ヤマハ	01205
MD CD-R	CD-R	ヤマハ	01405
CBL SAT	–	–	–
TV	–	–	–
DVR	DVR	ヤマハ	00707
VCR	–	–	–
TUNER	SOURCE	ヤマハ	00012
A	–	–	–
B	–	–	–
USB	SOURCE	ヤマハ	00012

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは操作できない場合があります。この場合は別のリモコンコードをお試しください。

1　設定するリモコンコードを確認する。
リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコードリスト一覧」をご覧ください。

2　操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選ぶ。
「TV」にリモコンコードを設定する場合は⑮TV を選びます。

3 ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

SETUP

ご注意

「SETUP」メニューでは、30秒以内に操作を完了してください。それ以上経過すると設定を中止します。

4 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「P-SET」を選び、⑧ENTER キーを押す。
リモコンがプリセットモードに入ります。リモコンディスプレイ（④）に、「P-SET」と現在の操作機器名が交互に表示されます。

P-SET

5 入力選択キー（③）、または ⑤SELECT ◁ / ▷ キーを繰り返し押して、操作機器を切り替える。
手順2で「TV」を選んだ場合、この手順はスキップしてください。

DVD

6 ⑧ENTER キーを押す。
現在設定されているリモコンコードが表示されます。

04306

7 数字キー（⑪）を押して5桁のリモコンコードを入力する。

8 ⑧ENTER キーを押す。
正しく設定されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。
設定に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。この場合は手順5から操作し直してください。

OK



続けて他の機器のコードを設定するには、手順5～8を操作してください。

9 ⑯SETUP ボタンをもう一度押して設定を終了する。

10 ②AV POWER キーや ⑩▷ キーを押して動作を確認する。



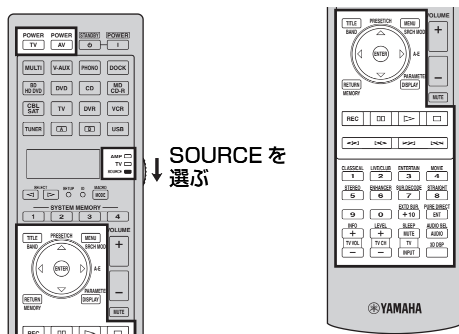
- キーを押しても機器が動作しないときは、同じメーカーの別のリモコンコードを設定してください。
- 「00012」を操作機器のリモコンコードとして設定すると、現在選んでいる本機内蔵ソース（DOCK、TUNER、USB）を操作できます。

ご注意

- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。
- 本機のリモコンは市販されているすべての AV 機器（ヤマハ AV 機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありません。お使いの機器をいずれのリモコンコードでも操作できない場合は、ラーニング（86 ページ）を設定するか、機器に付属のリモコンをお使いください。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能がリモコンコードの機能よりも優先されます。

他の機器のリモコン機能を記憶する（ラーニング）

お使いの機器のリモコン機能を本機のリモコンに記憶します。リモコンコードを設定しても操作できない機能があったり、その機器のリモコンコードがなかったりする場合に設定してください。下図の白色の部分に、お使いの機器のリモコン機能を記憶できます。また、操作機器ごとに別の機能を記憶できます。



ご注意

- リモコンから赤外線信号が送信されます。お使いの機器のリモコンも赤外線信号を使っている場合、ほぼすべての機能を記憶できますが、信号が特殊だったり、連続していたりする場合は記憶できないことがあります。
- 選んでいる入力機器やカテゴリーにより、白色の部分にあるキーを選んでいても記憶できないことがあります。

1　操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押して操作機器を選ぶ。

「TV」に記憶する場合は **⑮TV** を選びます。

ご注意

操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE、または TV を選んでいることをご確認ください。AMP を選んで記憶すると、本機を操作できなくなります。

2　ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。

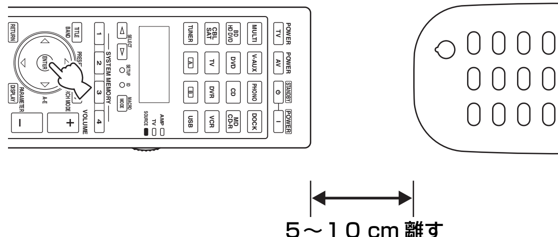
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

3　⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「LEARN」を選び、⑧ENTER キーを押す。

4　本機のリモコンと他の機器のリモコンを約５～１０ cm 離して赤外線送信部がお互いに対向するように置き、⑧ENTER キーを押す。

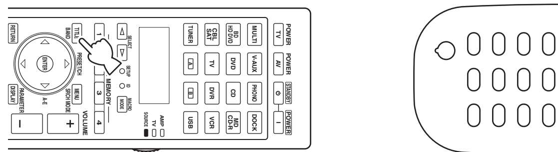
リモコンディスプレイ（④）に「L-KEY」と表示されます。

他の機器のリモコン

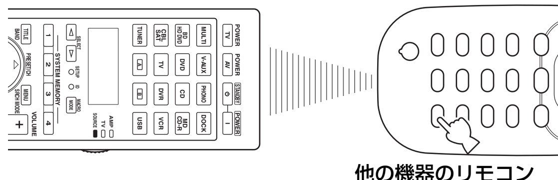


5　新しい機能を記憶させたい、本機のリモコンキーを押す。

リモコンディスプレイ（④）に「START」と表示されます。



6　リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されるまで、他の機器の記憶させたい機能のリモコンキーを押し続けます。



OK



続けて他の機能を記憶させるには、手順４～６を操作してください。

7 ⑯SETUP ボタンをもう一度押して、設定を終了する。

ご注意

- 手順で指定されたキー以外を操作したり２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。
- 本機のリモコンは２００までの機能を記憶できますが、信号によっては２００に達する前に「FULL」と表示されることがあります。この場合、記憶済みのキーから不要なものを削除してください（90 ページ）。
- 以下場合、機能を記憶できないことがあります。
  －本機、または他の機器のリモコンの乾電池が消耗している
  －リモコンに直射日光が当たっている
  －信号が特殊だったり、連続していたりする

リモコンに表示される機器の名前を変更する

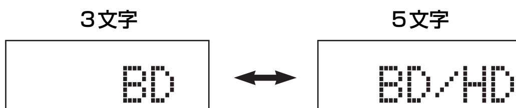
リモコンディスプレイ（④）に表示される操作機器名を変更します。

1 操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押して、名前を変更する機器を選ぶ。

2 ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

3 ⑧∆ / ∇ キーを繰り返し押して「RNAME」を選び、⑧ENTER キーを押す。

4 ⑧∆ / ∇ キーを繰り返し押して、変更する名前の文字数（３文字／５文字）を選び、⑧ENTER キーを押す。
各操作機器は、３文字または５文字で表示されます。それぞれの文字数で別々に設定できます。



5 機器名を編集する。
文字の位置を選ぶには ⑧◁ / ▷ キーを押します。
文字を選ぶには ⑧∆ / ∇ キーを押します。




⑧∆ キーを押すと順番どおりに、⑧∇ キーを押すと順番とは逆に文字が表示されます。A ～ Z、a ～ z、０～９、スペース、記号（－、＋、／、：）

6 ⑧ENTER キーを押して新しい名前を登録する。
正しく登録されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。


続けて他の機器の名前を変更するには入力選択キー（③）を押す、または ⑤SELECT◁ / ▷ キーを繰り返し押して機器を切り替えてから ⑧ENTER キーを押し、手順４～６を操作してください。

7 ⑯SETUP ボタンをもう一度押して設定を終了する。

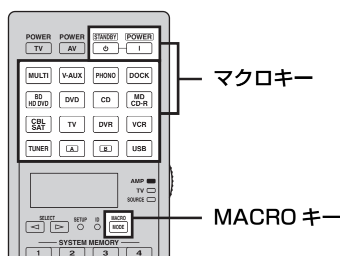
ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を 1 つのキーでできるようにする機能です。
たとえば CD を再生する場合、通常、（1）システムの電源を入れる→（2）入力ソースを CD に切り替える→（3）再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーの CD キーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます（89 ページ）。

■ 登録されているマクロで操作する



1 リモコンの ⑰MACRO キーを押す。



2 設定したいマクロキーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「M: 3文字の入力機器名」（例「M:DVD」）と表示され、設定されている操作内容が送信されます。
⑬STANDBY キー、または ⑭POWER キーを押した場合は、リモコンディスプレイ（④）に「M:STB」、または「M:PWR」と表示され、設定されている操作内容が送信されます。

3 リモコンの ⑰MACRO キーを押して設定を終了する。

ご注意

- マクロを操作している（トランスミットインジケーターが点滅している）ときは、他のキーの操作を受け付けません。
- すべてのマクロ操作が終わるまで、操作している機器にリモコンを向けたままにしてください。
- 各手順を３０秒以内に操作しなかった場合、マクロ操作は自動的に中止されます。

■ マクロ初期設定

マクロキー	マクロ操作	
	1番目	2番目
STANDBY ⏻	STANDBY ⏻	—
POWER I	POWER I	POWER TV (*1)
MULTI		MULTI
V-AUX		V-AUX
PHONO		PHONO
DOCK		DOCK
BD HD DVD		BD HD DVD
DVD		DVD
CD		CD
MD CD-R		MD CD-R
CBL SAT		CBL SAT
TV		TV
DVR		DVR
VCR		VCR
TUNER		TUNER (*2)
A		A
B		B
USB		USB (*3)

*1 あらかじめテレビのリモコンコードを設定してください（84 ページ）。
*2 本機をスタンバイにする前に受信していた放送局を選局します。
*3 最後に再生していた曲を再生します。

■ マクロを設定する

1つのキーを押すだけで、連続したキー操作ができるように設定します。マクロを設定する前にリモコンコードを設定するか、ラーニングで他のリモコンの機能を登録してください。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。したがって、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

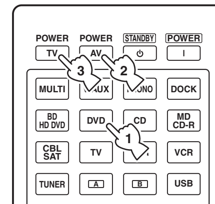
1 ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

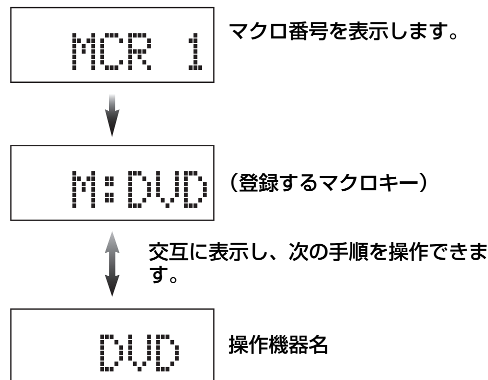
2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「MACRO」を選び、⑧ENTER キーを押す。

3 設定したいマクロキーを押してから ⑧ENTER キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「M: 3文字のマクロキー名」（例「M:DVD」）と、現在選んでいる操作機器名が交互に表示されます。
⑬**STANDBY** キー、または ⑭**POWER** キーを押した場合は、リモコンディスプレイ（④）に「M:STB」、または「M:PWR」と、現在選んでいる操作機器名が交互に表示されます。

4 リモコンキーを押してマクロの内容を設定する。

例
入力ソースを DVD に切り替える→ DVD プレーヤーの電源をオンにする→モニターの電源をオンにする
ステップ1（「MCR1」）: DVD を押す
ステップ2（「MCR2」）: AV POWER を押す
ステップ3（「MCR3」）: TV POWER を押す





ご注意

- 操作機器を変更するには ⑤**SELECT**◁ / ▷ キーを押してください。⑤**SELECT**◁ / ▷ キーは操作機器のみ変更しますが、入力選択キーを押した場合はマクロの手順に組み込まれます。
- 操作機器選択スイッチ（⑮）の位置（AMP、TV、SOURCE）により、一部のキー機能が切り替わります。**AMP**、または **TV** を選んでいるとき、入力選択キー（③）は機能しません。

5 ⑰MACRO キーを押して決定する。
最大 10 種類のキー信号を設定できます。最大まで設定すると「FULL」と表示され、自動的にマクロの設定を終了します。

6 ⑯SETUP ボタンを押して設定を終了する。

ご注意

2つ以上のキーを同時に押すと、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

リモコンを初期化する

ラーニングやマクロ、変更した操作機器名やリモコン ID を初期設定に戻します。

■ 消去モードを選んで初期化する

1 ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「CLEAR」を選び、⑧ENTER キーを押す。

3 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して消去モードを選ぶ。

消去モード	説明
L:DVD（など）	（「L: ３文字の操作機器名」）表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー (③)、または ⑤SELECT⊲ / ⊳ キーを押して、消去する入力機器を選んでください。
L:AMP	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。操作機器選択スイッチ (⑮) で **AMP** を選んでください。
L:TV	TV の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。操作機器選択スイッチ (⑮) で **TV** を選んでください。
L:ALL	入力機器にかかわらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M:DVD（など）	（「M: マクロキー名」）選んだキーのマクロの設定を消去します（89 ページ）。マクロ機能を消去したいマクロキーを選ぶ（「マクロキー名」を切り替える）には、マクロキーを押してください。
M:ALL	マクロの設定をすべて初期設定に戻します。
RNAME	変更した入力ソースの名前をすべて初期設定に戻します。
FCTRY	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を初期設定に戻します。

4 ⑧ENTER キーを約３秒間押し続ける。
正しく消去されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。

ご注意

- 消去に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、２つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

5 ⑯SETUP ボタンを押して設定を終了する。

■ ラーニングした機能を消去する

1 ボールペンなどで ⑯SETUP ボタンを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「SETUP」と表示されます。

2 ⑧△ / ▽ キーを繰り返し押して「ERASE」を選び、⑧ENTER キーを押す。

3 操作機器選択スイッチ（⑮）で SOURCE を選び、入力選択キー（③）を押す。
アンプ機能の操作キーや TV キーにラーニングした機能を消去する場合は、⑮**AMP**、または⑮**TV** を選んでください。

4 ⑧ENTER キーを押す。
リモコンディスプレイ（④）に「E-KEY」と表示されます。

5 機能を消去したいキーを約３秒間押し続ける。
正しく消去されると、リモコンディスプレイ（④）に「OK」と表示されます。



- 続けて他の機能を消去するには、手順３～５を操作してください。
- ラーニングされた機能を消去すると、キーの機能は工場出荷状態に戻ります（リモコンコードを設定している場合は、設定しているメーカーの機能に戻ります）。

6 ⑯SETUP ボタンを押して設定を終了する。

ご注意

- 消去に失敗すると、リモコンディスプレイ（④）に「NG」と表示されます。
- ２つ以上のキーを同時に押すと、リモコンディスプレイ（④）に「ERROR」と表示されます。

本機の設定を変更する（ADVANCED SETUP）

フロントパネルディスプレイに表示されるメニューを見ながらさまざまな項目を設定します。アドバンストセットアップメニューでは、本機の設定を初期設定に戻したりリモコン ID を変更したりすることができます。お好みに合わせて、設定を変更してください。各項目の初期設定は太字で記載しています。

ご注意

- アドバンストセットアップメニューの操作中は、本体の ⒶMASTER ON/OFF スイッチ、ⓄSTRAIGHT キー、ⓃPROGRAM セレクター以外は機能しません。
- アドバンストセットアップメニューの操作中は他の操作はできません。
- アドバンストセットアップメニューはフロントパネルディスプレイでのみ操作できます。

アドバンストセットアップメニューの操作手順

1 本体の ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。

2 ⓄSTRAIGHT キーを押しながらもう一度 ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押す。

本機の電源がオンになり、アドバンストセットアップメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。



押しながら



3 ⓃPROGRAM セレクターを回して、設定したいメニューを選ぶ。

4 ⓄSTRAIGHT キーを繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

5 ⒶMASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにし、変更した設定を保存する。



変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

■ リモコンセンサー設定　REMOTE SENSOR

フロントパネルのリモコンセンサーを有効にするか無効にするかを設定します。

選択項目	説明
ON	フロントパネルのリモコンセンサーを有効にします。リモコン受光部からリモコン信号を受信できます。通常はこの設定でお使いください。
OFF	フロントパネルのリモコンセンサーを無効にします。リモコン受光部からリモコン信号を受信できません。

ご注意

通常は「ON」に設定することをおすすめします。

■ RS-232C 通信設定

RS232C STANDBY

本機がスタンバイのときに、RS-232C 端子からのデータを受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目	説明
YES	RS-232C 端子からのデータを受信します。
NO	RS-232C 端子からのデータを受信しません。

■ リモコン ID 設定

REMOTE CON AMP

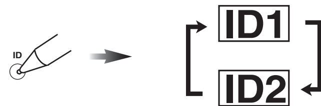
本体操作用のリモコン ID をリモコンの操作用コードに合わせて変更します。

選択項目	説明
ID1	リモコンの操作用コードを「ID1」に設定しているときに選びます。
ID2	リモコンの操作用コードを「ID2」に設定しているときに選びます。

リモコンの操作用コードを設定する

リモコンの操作用コードを設定します。複数のヤマハ製アンプをリモコンを使って操作する場合に、本機とは別のアンプが動作するのを防止します。

ボールペンなどで ⑯ID ボタンを押して ID を切り替える。
⑯ID ボタンを押すごとに、ID インジケーターが以下のように表示されます。



■ バイアンプ設定 BI-AMP

バイアンプ機能を設定します。

選択項目	説明
ON	バイアンプ機能をオンにします。
OFF	バイアンプ機能をオフにします。

ご注意

「BI-AMP」を「ON」に設定すると SURROUND BACK 端子はバイアンプ用として使われるので、サラウンドバックスピーカー接続用としては使えません。

■ 初期設定に戻す INITIALIZE

変更した設定を初期設定に戻します。初期設定に戻す項目を選んでください。

選択項目	説明
DSP PARAM	すべての音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。
VIDEO	すべての「VIDEO MENU」の設定、および「DISPLAY SET」の「OSD SHIFT」、「GRAY BACK」を初期設定に戻します。
ALL	本機のすべての設定を初期設定に戻します。
CANCEL	初期設定に戻しません。



音場プログラムごとに音場パラメーターを初期設定に戻すには、音場パラメーター「INITIALIZE」で設定してください（60 ページ）。

■ HDMI モニターチェック設定

MONITOR CHECK

本機のモニターチェック機能のオン、オフを設定します。

選択項目	説明
YES	HDMI 接続したモニターが対応している解像度の情報を自動的にチェックします。「HDMI RES.」（74 ページ）で、モニターが一対応している解像度のみ選べます。
SKIP	「HDMI RES.」（74 ページ）のすべての解像度を選べます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

■ 全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはSTANDBY/ONスイッチ（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	29
	（再度電源をオンにしたときに､「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	19
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	23～28
	入力モードを「HDMI」、または「COAX/OPT」､「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	39
	入力機器からデジタル音声信号を入力しているときに入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」、または「COAX/OPT」に設定してください。	39
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体の**Ⓒ INPUT**セレクターやリモコンの 入力選択キー（③）で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	38、39
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
	音量が小さい、または消音されている。	音量を大きくしてください。	–
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	21
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–

症状	原因	対策	参照ページ
映像が出ない	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	「VIDEO CONV.」を「ON」に設定する、または本機とモニターの接続と同じ種類の端子を使って接続してください。	74
	1080pアナログ映像信号がCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子からのみ出力されている。	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子にモニターを接続してください。	23
	480p、1080i、720p映像信号はS VIDEO、およびVIDEOMONITOR OUT端子から出力されません。	HDMI OUT、またはCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子にモニターを接続してください。	–
	HDMI OUT端子に接続したモニターが対応していない映像信号を出力している。	「INITIALIZE」で「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	92
		「MONITOR CHECK」を「YES」に設定してください。	92
	ピュアダイレクトモードで再生している。	ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	49
		「PURE DIRECT」の「MODE」を「AUDIO+VIDEO」に設定してください。	73
	特殊な信号を入力している。		–
ショートメッセージが表示されない	「SHORT MESSAGE」を「OFF」に設定している。	「ON」に設定してください。	77
	「GRAY BACK」を「OFF」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	77
	「VIDEO CONV.」を「OFF」に設定している。	「ON」に設定してください。	74
	HDMI入力端子から入力した信号がHDMI OUT端子から出力されている。		–
	プログレッシブ映像信号やHDTV映像信号が入力されている。		–
音声が突然出力されなくなる	スピーカーケーブルのショートなどにより、保護回路が働いた。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	19
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	41
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	14
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	69
センタースピーカーからしか音声が出ない	音場効果をかけてモノラル音声を再生すると、音声信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音は出ません。		–
センタースピーカーから音声が出ない	「CONFIG」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	「LARGE」または「SMALL」に設定してください。	68
プレゼンススピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードで再生している。	◎STRAIGHTキーを押してストレートデコードモードをオフにしてください。	48
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	38

症状	原因	対策	参照ページ
サラウンドスピーカーから音声が出ない	「CONFIG」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	「LARGE」または「SMALL」に設定してください。	68
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	◎STRAIGHT キーを押してストレートデコードモードをオフにしてください。	48
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	38
サブウーファーから音声が出ない	「CONFIG」の「LFE/BASS OUT」を「FRONT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	68
	「CONFIG」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRONT」に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	68
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	「CONFIG」の「SUR.B L/R SP」を「NONE」に設定している。	「SUR. L/R SP」が「SMALL」、または「LARGE」に設定されていることを確認し、「SUR.B L/R SP」を正しく設定してください。	68、69
	CINEMA DSP 3D モードで再生しているときはサラウンドバックスピーカーから音声は出ません。		–
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない（フロントパネルディスプレイの入力ソースインジケーターやデコーダーインジケーターが点灯しない）	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	39
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに不具合がある場合があります。	–
	レコードプレーヤーの GND がしっかり接続されていない。	GND の接続を確認してください。	26
レコードを再生している場合に音量が小さい	低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーで再生している。	昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して本機に接続してください。	26
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
録音／録画機器で録音／録画できない	MULTI CH INPUT 端子に接続した機器の音声を録音できない。		–
	再生している機器の入力信号は同じ機器で録音／録画できません（例：DVR IN 端子から DVR OUT 端子）。	再生機器を接続している端子とは異なる機器用の端子に録音／録画機器を接続してください。	24
	DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS 信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。	DTS-CD または DTS DVD の音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。DTS-CD の音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵の DVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。	24

症状	原因	対策	参照ページ
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	24
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–
	DOCK 端子から入力した音声信号をデジタル音声出力端子に接続した録音機器で録音している。	録音機器をアナログ音声出力端子（DVR、または VCR、MD-CD-R）に接続してください。	24
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	24
録音された音声を再生したときに、録音したときの音声と異なっている	本機の設定（音質や音量、音場プログラムなど）は録音する音声に反映されません。		–
映像が録画機器で録画できない	「VIDEO CONV.」を「ON」に設定している。	「VIDEO CONV.」を「ON」に設定すると、映像信号は MONITOR OUT 端子にのみ出力されます。録画機器で映像を録画するには「VIDEO CONV.」を「OFF」に設定し、機器どうしを同じ種類の方法で接続してください（例：VCR IN（S VIDEO）端子から VCR OUT（S VIDEO）端子）。	24、74
音場パラメーターやセットメニューの設定を変更できない	「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	78
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	19
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–
映像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–
使用中に突然電源がスタンバイになる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路により電源が切れた。	温度が下がるのを待って（1 時間程度）、電源を入れ直してください。	–

■ HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
音声や映像が出ない	制限台数を超えるHDMI機器を接続している。	接続しているHDMI機器の数を減らしてください。	–
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	–

■ FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	28
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			モノラルで受信してください。	50
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	–
	自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			手動選局、または周波数ダイレクト選局をしてください。	50
	プリセットした放送局を受信できない	本機の電源プラグを長期間コンセントから抜いていたため、メモリーが消去された。	もう一度放送局をプリセットしてください。	51
AM	自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	28
			手動で選局してください。	50
	オートプリセットができない	AM放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	51
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	28
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

■ リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、30°以内の範囲で操作してください。	31
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	9
	操作機器選択スイッチの位置が正しくない。	正しい位置にセットしてください。本機を操作するときは ⑮**AMP** にセットしてください。入力選択キーで選んだ機器を操作するときは ⑮**SOURCE** にセットしてください。テレビを操作するときは ⑮**TV** にセットしてください。	–
	リモコンコードが正しく設定されていない。	巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	129
		巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	129
	リモコンの操作用コードと本体操作用リモコンIDが一致していない。	コードまたはリモコンIDの設定を変えてください。	91
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	ラーニング機能を使って、お使いの機器のリモコン機能を本機のリモコンに記憶してください。	86
リモコンが新しい機能を記憶（ラーニング）しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	9
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください。	86
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶（ラーニング）はできません。	–
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	90

■ iPod

ご注意

フロントパネルディスプレイやモニター画面に下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（27 ページ）。

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPodとの接続を確認中です。		–
	iPodから情報を取得中です。		
Connect error	iPodとの通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製iPod用ドックを接続し直してください。	27
		iPodをヤマハ製iPod用ドックにセットし直してください。	–
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。	本機はiPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod miniに対応しています。	–
iPod Connected	iPodがヤマハ製iPod用ドックに正しく接続されました。		–
iPod Disconnected	iPodがヤマハ製iPod用ドックから取り外されました。	iPodをヤマハ製iPod用ドックに接続してください。	27
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPodに保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	–
		再生可能な曲をiPodに保存してください。	–

■ Bluetooth®

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器がペアリングしています。		–
	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングが中止されました。		
BT Connected	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器の接続が確立しました。		
BT Disconnected	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth機器の接続が切断されました。		
No BT receiver	ヤマハ製Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバーが本機のDOCK端子に接続されていません。	本機のDOCK端子にヤマハ製Bluetoothレシーバーを接続してください。	27

■ USB

症状	原因	対策	参照ページ
USBデバイスを接続しているが、「Disconnected」と表示される	本機がUSBデバイスを不正と認識している。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	29
USBデバイスの音楽ファイルやディレクトリがブラウズできない	音楽ファイルやディレクトリがFAT領域以外の場所に保存されている。	音楽ファイルやディレクトリをFAT領域に保存してください。	–
	８階層をこえるディレクトリ、または１つのディレクトリにつき５００をこえるディレクトリ／ファイルはブラウズできません。	USBデバイス内のデータ構造を変更してください。	–
USBデバイスを認識できない	USBデバイスがUSBマスストレージクラスに対応していない。	USBマスストレージクラスに対応したUSBデバイスをお使いください。USBマスストレージクラスに対応したUSBデバイスであっても、本機で再生できないものがあります。	56
	USBオーディオプレーヤーを接続している。	USBデバイスを接続してから、本機の電源をオンにしてください。	56
選んだ曲とは異なる曲が再生される	「SHUFFLE」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	57
ショートカットキーを押すと、登録していない曲が呼び出される	ショートカットを登録したときとは違うUSBデバイスを接続している。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	56
	ショートカットを登録した音楽ファイルを別の場所に移動した。	ショートカットを再登録してください。	57

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Please wait	USBデバイスにアクセスしています。	本機がUSBデバイスにアクセスできるまでお待ちください。	–
Disconnected	USBデバイスが取りはずされました。	USBデバイスが正しく接続されているか確認してください。	–
		本機の電源をオフにしてからUSBデバイスを接続し直してください。	56
		USBデバイスを再セットアップしてください。	–
Access error	USBデバイスにアクセスできません。	別のUSBデバイスをお試しください。USBデバイスを再セットアップしてください。	–
	USBデバイスとの通信に異常があります。	本機の電源をオフにしてからUSBデバイスを接続し直してください。	56
		USBデバイスを再セットアップしてください。	–
Empty Memory!	曲がショートカットに登録されていません。	ショートカットを登録してください。	57
Not found!	ショートカット先が見つかりません。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	56
		ショートカットを再登録してください。	57

■ AUTO SETUP

測定開始時の表示

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connect MIC!	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルのOPTIMIZER MIC端子に接続してください。	33
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	–
Memory Guard!	本機の設定が保護されています。	「MEMORY GUARD」を「OFF」に設定してください。	78

測定中の表示

エラーメッセージ	原因	対策	参照ページ
E-1:NO FRONT SP	フロント左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E-2:NO SUR. SP	サラウンド左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E-3:NO PRNS SP	プレゼンス左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続している場合に、R側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを１本のみ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。	18
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	–
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	–
E-6:CHECK SUR.	サラウンド左／右スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド左／右スピーカーを接続する必要があります。	17
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUPでの測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	33
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	33
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	17
		オプティマイザーマイク、またはOPTIMIZER MIC端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響サービス拠点にお問い合わせください。	–
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	33
E-10:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	33

測定開始時の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	17
W-2:OVER 24m (80ft)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が24mよりも離れているため、正確に補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	–

W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	–
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。	17
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	–
		サブウーファーの音量を調節してください。	33

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから AUTO SETUP をやり直してください。
- 「W-2」、または「W-3」が表示された場合、補正はされますが、最適ではありません。
- スピーカーの種類により、スピーカーが正しく接続されていても「W-1」が表示されることがあります。
- 「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場パラメーター、プリセットした FM ／ AM 放送局などをすべて初期設定に戻します。

ご注意

- セットメニューを含む本機のすべての設定が初期化されます。
- 変更した設定は、次回電源を入れたときから有効になります。

初期化操作を中止するにはフロントパネルの Ⓐ MASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにしてください。

1 Ⓐ MASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。

2 Ⓞ STRAIGHTキーを押しながらⒶ MASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオンにする。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイにアドバンストセットアップメニューが表示されます。



3 Ⓝ PROGRAM セレクターを回して「INITIALIZE」を選ぶ。

```
INITIALIZE
        CANCEL
```

4 Ⓞ STRAIGHT キーを繰り返し押して「ALL」を選ぶ。

```
INITIALIZE
         ALL
```

初期設定に戻さない場合は「CANCEL」を選んでください。

5 Ⓐ MASTER ON/OFF スイッチを押して本機の電源をオフにする。

すべての設定が初期設定に戻ります。

用語／技術解説

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の３系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、またはＤ端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号を１つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ ディープカラー

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の８ビットに対して10／12／16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左／右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ４チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1／7.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスクやデジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート6Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックの技術です。2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード（2チャンネル信号入力時のみ）、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

■ ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用、HD DVDでは標準採用され、96kHz／24bit時には最大８チャンネル、192kHz／24bit時には最大６チャンネルのディスクリート音声信号を最大転送レート18Mbpsで収録可能です。従来のドルビーデジタルと互換性があるため、ドルビーデジタル対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

■ リップシンク（Lip sync）

HDMI 1.3がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D端子

AV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

■ DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SA-CD（スーパーオーディオCD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数2822.4kHzで記録することにより、CDなどで使われているPCMよりも高音質で再生できます。周波数は100kHz以上、ダイナミックレンジは120dBです。

■ DTS 96／24

DTS 96／24はDVDビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来のDTSデコーダーとも互換性があるため、DTS 96／24に対応していない機器では、通常のDTSサラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の96kHz（従来の48kHzから倍増）、「24」は量子化ビット数24ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVDビデオの音楽や映画音声を5.1チャンネルで楽しむことができます。

■ DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル（フロント左／右、センター、サラウンド左／右チャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

■ DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンド左／右チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の２つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

■ DTS Express

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオ、HD DVDではサブオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

■ DTS-HDハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDでオプション採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート6Mbps、HD DVDでは最大3Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

■ DTS-HDマスターオーディオ

ブルーレイディスクやHD DVDなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクおよびHD DVDで標準採用され、96kHz／24bitで最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、ブルーレイディスクでは最大転送レート24.5Mbps、HD DVDでは最大18Mbpsで収録可能です。従来のDTSデジタルサラウンドと互換性があるため、DTSデジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DTS Neo:6

２チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた６チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の５チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号に分けて伝送する方式です。Ｓビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

■ SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生したりすることができます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。

■ MP3

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号MPEGで利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1／10に圧縮できると言われています。

■ WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

■ "x.v.Color"

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCGで高い効果が得られます。

音場プログラム解説

■ 音場を構成する要素

直接音
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音
壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50／1000秒）から80ms（80／1000秒）くらいあとに耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音
壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が一つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンド左／右スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド左／右スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント左／右スピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

■ CINEMA DSP 3D

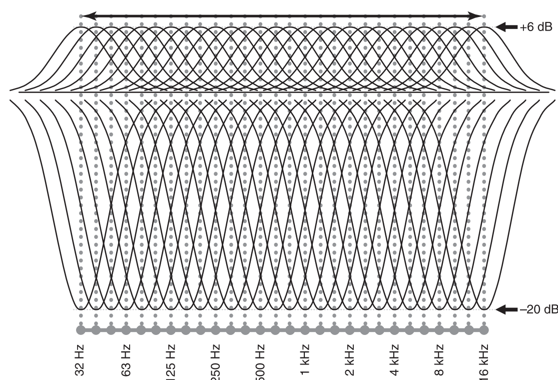
音場の高さ方向の情報を含んだ、実際に測定された音場データです。CINEMA DSP 3Dモードでは、より緻密で立体的な3D感覚の音場をリスニングルームに再現します。

パラメトリックイコライザーについて

本機に搭載の視聴環境最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room　Acoustic Optimizer）では、パラメトリックイコライザーを使用して周波数特性を補正しています。周波数、レベル、Q ファクターの３つのパラメーターを組み合わせて、より精度の高い周波数特性の補正を行っています。

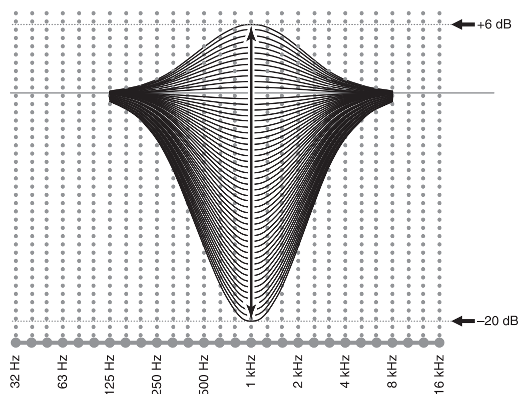
■　周波数

１／３オクターブごとに、32Hz から 16kHz のあいだで可変させられます。



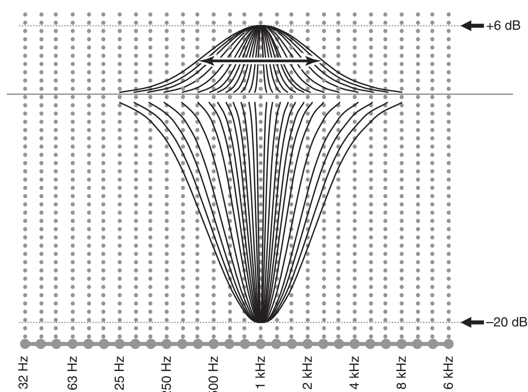
■　レベル

0.5dB ごとに、－ 20dB から＋ 6dB のあいだで可変させられます。



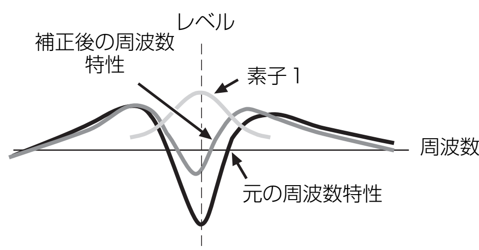
■　Q ファクター

Q ファクターとは指定された周波数帯域の帯域幅ことです。0.5 から 10 のあいだで可変させられます。

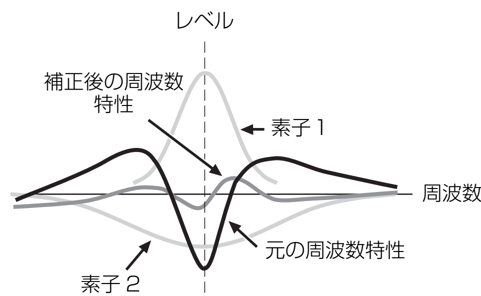


３つのパラメーター（周波数、レベル、Q ファクター）を組み合わせて設定できるイコライザー素子により、周波数特性を最適に補正します。本機はこのイコライザー素子を１チャンネルにつき７個持っています。
複数のイコライザー素子を使うことで、１個のイコライザー素子では補正しきれない周波数特性（図１）も、最適に補正できます（図２）。

（図１）



（図２）



その他の情報

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz ～ 20kHz、0.06% THD）
フロント左／右........................ 130W ＋ 130W
センター 130W
サラウンド左／右.................... 130W ＋ 130W
サラウンドバック左／右......... 130W ＋ 130W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
フロント左／右........................ 175W ＋ 175W
センター 175W
サラウンド左／右.................... 175W ＋ 175W
サラウンドバック左／右......... 175W ＋ 175W
ダンピングファクター
（20Hz ～ 20kHz、8Ω）
フロント左／右.................................... 150 以上
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
PHONO（MM）...................... 3.5mV ／ 47kΩ
CD 他..................................... 200mV ／ 47kΩ
MULTI CH INPUT .... 200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz）
PHONO（MM、0.1% THD）......... 60mV 以上
CD 他（EFFECT ON、0.5% THD）
....2.4V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
REC OUT.............................200mV ／ 900Ω
PRE OUT...................................... 1V ／ 1.2kΩ
SUBWOOFER..............................2V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
CD 他（1kHz、40mV 入力、8Ω）
....150mV ／ 100Ω
周波数特性
CD 他（フロント左／右、ピュアダイレクト、
10Hz ～ 100kHz）...........................0 ／－ 3dB
全高調波歪率
PHONO（MM、REC OUT、20Hz ～ 20kHz、
1V）...0.02% 以下
CD 他（フロント SP OUT、20Hz ～ 20kHz、
65W ／ 8Ω）.................................0.04% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
PHONO（MM、2.5mV、SP OUT）
....80dB 以上
CD 他（250mV、SP OUT）.........100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
フロント左／右、SP OUT........... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
PHONO......................60dB 以上／ 55dB 以上
CD 他（5.1kΩ）.........60dB 以上／ 45dB 以上
音量可変範囲／ステップ
.....................MUTE ／－ 80.0dB ～＋ 16.5dB ／
0.5dB ステップ

トーンコントロール特性
BASS（可変幅）.......................± 6dB ／ 50Hz
BASS（ターンオーバー周波数）.............350Hz
TREBLE（可変幅）.................± 6dB ／ 20kHz
TREBLE（ターンオーバー周波数）.........3.5kHz
フィルター特性（fc ＝ 40 ／ 60 ／ 80 ／ 90 ／
100 ／ 110 ／ 120 ／ 160 ／ 200Hz）
H.P.F（フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック　SMALL）.............. 12dB ／ oct.
L.P.F（サブウーファー）............... 24dB ／ oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式
グレーバック ....NTSC
ビデオコンバージョン......................NTSC/PAL
コンポジットビデオ信号レベル..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
Y... 1Vp-p ／ 75Ω
C....................................... 0.286Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
Y... 1Vp-p ／ 75Ω
P_B、P_R.................................... 0.7Vp-p ／ 75Ω
D5 ビデオ信号レベル
Y... 1Vp-p ／ 75Ω
P_B、P_R.................................... 0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力（VIDEO CONV. OFF）
.... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比...60dB 以上
モニターアウト周波数帯域（VIDEO CONV. OFF）
コンポーネントビデオ、D5 ビデオ
.... 5Hz ～ 100MHz、± 3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
モノ ....2.0μV（17.3dBf）
ステレオ ....25μV（39.2dBf）
実用感度（IHF）
モノ ....1μV（11.2dBf）
選択度（400kHz）... 70dB
S ／ N 比（IHF）
モノ／ステレオ .... 76dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
モノ／ステレオ .... 0.2%／ 0.3%
ステレオセパレーション................................ 42dB
周波数特性（20Hz ～ 15kHz）. ＋ 0.5 ／－ 2 dB
アンテナ入力..........................75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数..........................531kHz ～ 1611kHz
実用感度..300μV ／ m

総合

電源電圧............................AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力...400W
待機時消費電力..0.1W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
....合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
.....................................435 × 171 × 438.5mm
質量...17kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

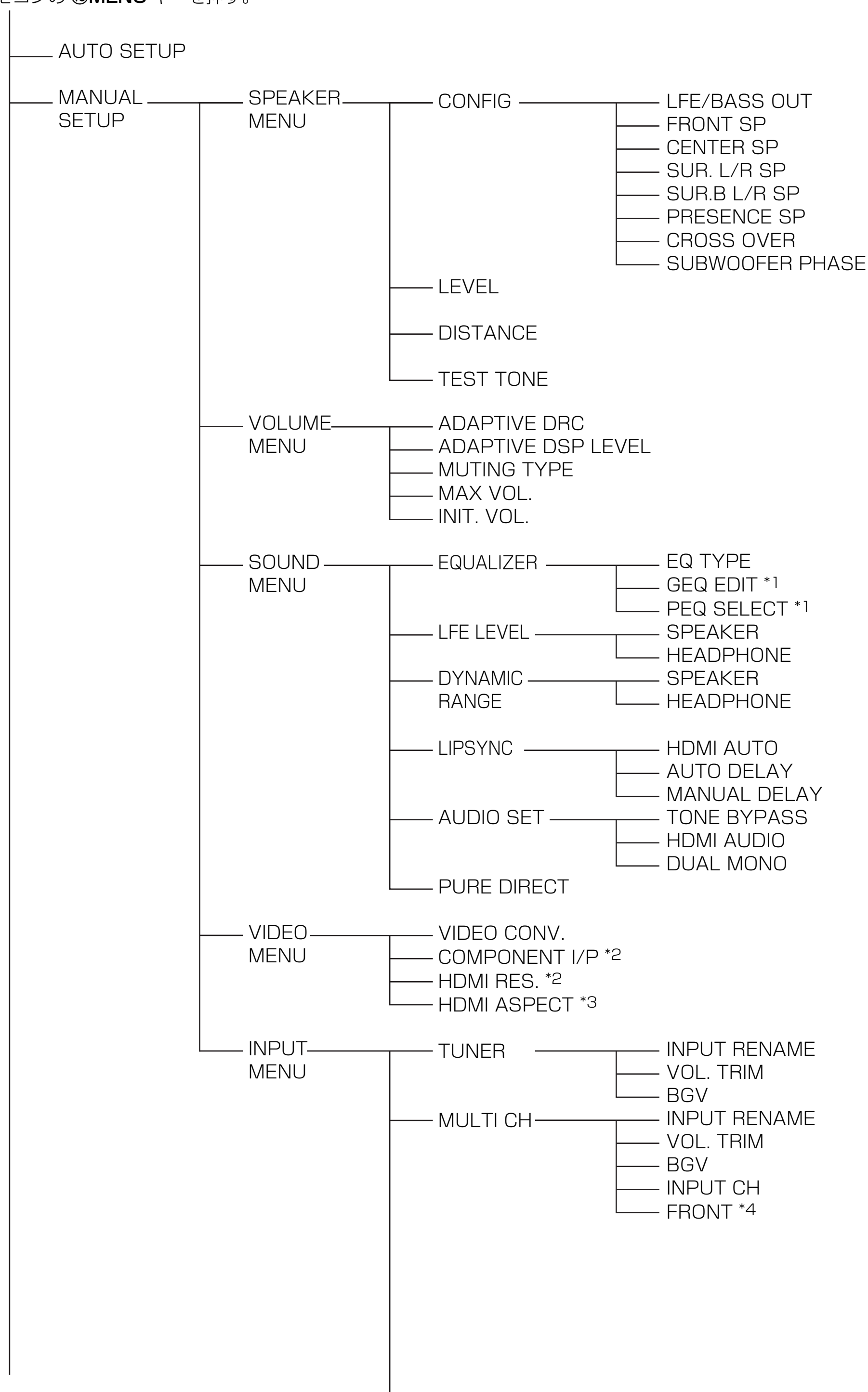
本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

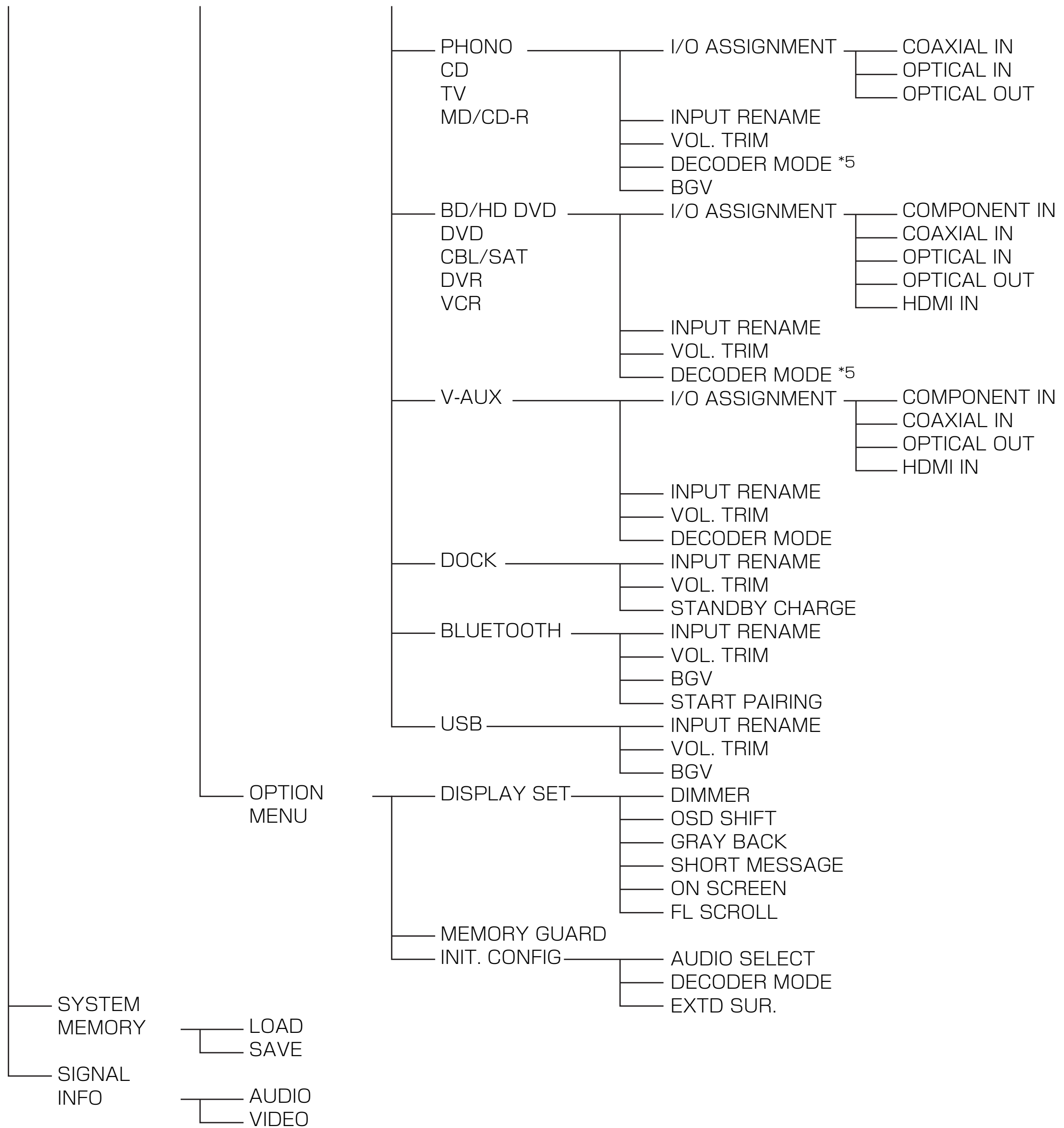


音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

リモコンの ⑱MENU キーを押す。





ご注意

*1「EQ TYPE」の設定により表示されます。
*2「VIDEO CONV.」を「ON」に設定しているときに表示されます。
*3「HDMI RES.」を「THRGH」以外に設定しているときに表示されます。
*4「INPUT CH」を「8ch」に設定しているときに設定できます。
*5「I/O ASSIGNMENT」でデジタル音声入力端子が割り当てられているときに設定できます。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A

B

付録

V

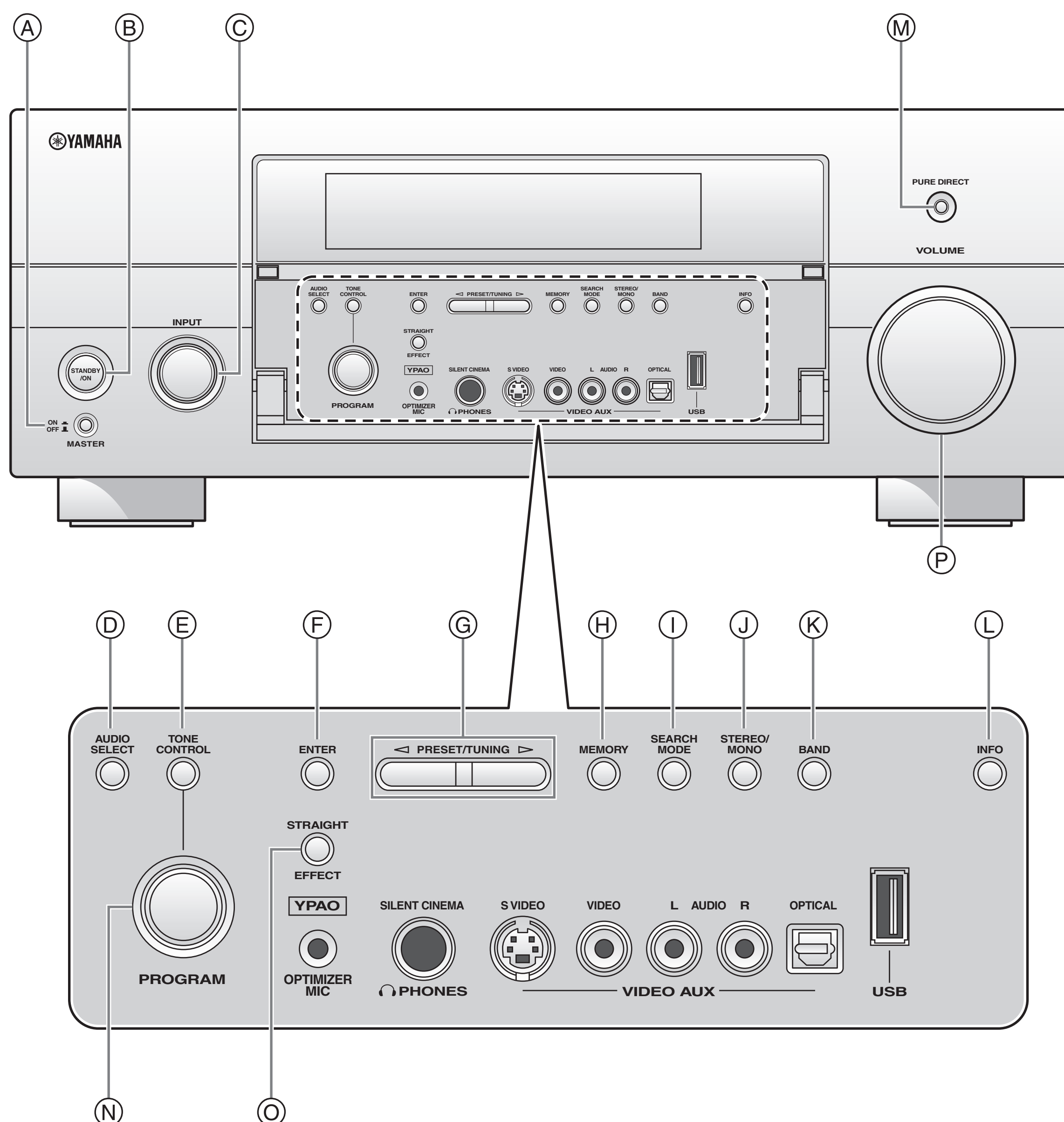
W

Y

数字

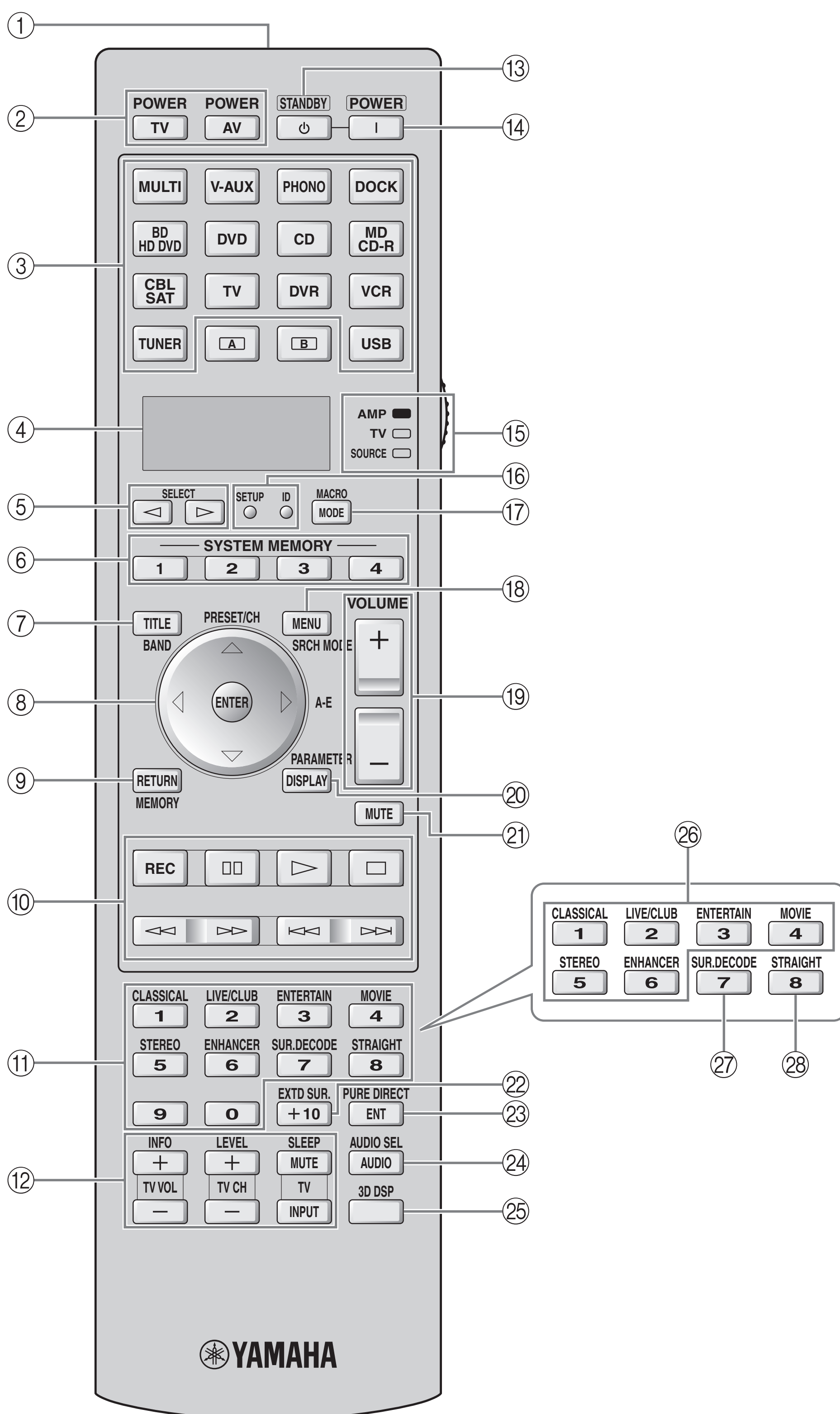
「ⒶMASTER ON ／ OFF」や「③DVD」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または本書巻末をご覧ください。

■ フロントパネル



A
B
C
M
YAMAHA
PURE DIRECT
VOLUME
INPUT
STANDBY /ON
ON
OFF
MASTER
P
D
E
F
G
H
I
J
K
L
AUDIO SELECT
TONE CONTROL
ENTER
PRESET/TUNING
MEMORY
SEARCH MODE
STEREO/ MONO
BAND
INFO
STRAIGHT
EFFECT
YPAO
SILENT CINEMA
S VIDEO
VIDEO
L AUDIO R
OPTICAL
PROGRAM
OPTIMIZER MIC
PHONES
VIDEO AUX
USB
N
O

■ リモコン



POWER
TV
POWER
AV
STANDBY
POWER
MULTI
V-AUX
PHONO
DOCK
BD
HD DVD
DVD
CD
MD
CD-R
CBL
SAT
TV
DVR
VCR
TUNER
A
B
USB
AMP
TV
SOURCE
SELECT
SETUP
ID
MACRO
MODE
SYSTEM MEMORY
1
2
3
4
VOLUME
TITLE
BAND
PRESET/CH
MENU
SRCH MODE
ENTER
A-E
PARAMETER
RETURN
MEMORY
DISPLAY
MUTE
REC
CLASSICAL
LIVE/CLUB
ENTERTAIN
MOVIE
STEREO
ENHANCER
SUR.DECODE
STRAIGHT
9
0
EXTD SUR.
+10
PURE DIRECT
ENT
INFO
LEVEL
SLEEP
MUTE
TV VOL
TV CH
TV
INPUT
AUDIO SEL
AUDIO
3D DSP
YAMAHA

付録

入力信号と再生スピーカー対応表

L フロント左スピーカー	SL サラウンド左スピーカー	SBR サラウンドバック右スピーカー
C センタースピーカー	SR サラウンド右スピーカー	PL プレゼンス左スピーカー
R フロント右スピーカー	SBL サラウンドバック左スピーカー	PR プレゼンス右スピーカー

音が出るスピーカー　　□ 音が出ないスピーカー

	スピーカー設置図 7チャンネル構成	スピーカー設置図 5チャンネル構成
①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		

*1 DD EX / DD PLⅡx / dts ES：消灯時
*2 DD EX / DD PLⅡx / dts ES：点灯時または 6.1 ／ 7.1 チャンネル信号入力時

音場プログラム	3D	入力信号 2チャンネル音声（モノラル）	入力信号 2チャンネル音声（ステレオ）	入力信号 5.1 チャンネル音声 *1	入力信号 6.1 ／ 7.1 チャンネル音声 *2
CLASSICAL Hall in Munich Hall in Vienna Hall in Amsterdam Church in Freiburg Chamber LIVE/CLUB Village Vanguard Warehouse Loft Cellar Club The Roxy Theatre The Bottom Line	ON	①	①	②	②
	OFF	①	①	②	④

音場プログラム	3D	入力信号			
		2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 チャンネル音声 *1	6.1 ／ 7.1 チャンネル音声 *2
ENTERTAINMENT Sports Action Game Roleplaying Game Music Video Recital/Opera MOVIE Standard Spectacle Sci-Fi Adventure Drama	ON	②	②	②	②
	OFF	⑦	④	②	④
MOVIE Mono Movie	ON	②	②	②	②
	OFF	③	②	②	④
STEREO 2ch Stereo	–	⑤	⑤	⑤	⑤
STEREO 7ch Stereo MUSIC ENHANCER 7ch Enhancer	–	④	④	④	④
SUR.DECODE Surround Decoder (Pro Logic) (PLII Movie) (PLII Game)	–	⑥	⑦	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLII Music)	–	⑧	⑦	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLIIx Movie) (PLIIx Game) (Neo:6 Cinema) (CSII Cinema)	–	⑥	④	⑦	④
SUR.DECODE Surround Decoder (PLIIx Music) (Neo:6 Music) (CSII Music)	–	⑧	④	⑦	④
STRAIGHT Pure Direct MUSIC ENHANCER Straight Enhancer	–	⑤	⑤	⑦	④

GPL/LGPL

本製品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License(LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL または LGPL に従い、複製、頒布および改変することができます。
当該ソースコードは以下サイトからダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/index.html

ソースコードを CD-ROM など物理媒体での提供をご希望される場合には、実費にて承ります。以下の住所までご連絡ください。

〒 430-8650 浜松市中区中沢町 10-1 ヤマハ株式会社 AV 機器事業部

ソースコードのご提供は原則として本製品のご購入の日から 3 年間とします。

■ GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software–to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation’s software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author’s protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors’ reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone’s free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The “Program”, below, refers to any such program or work, and a “work based on the Program” means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.) Each licensee is addressed as “you”.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program’s source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

   a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

   b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

   c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items–whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

■ GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software–to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages–typically libraries–of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user’s computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients’ exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the “copyright” line and a pointer to where the full notice is found.

> <one line to give the library’s name and a brief idea of what it does.>
>
> Copyright (C) <year> <name of author>
>
> This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.
>
> This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.
>
> You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a “copyright disclaimer” for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

> Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library ‘Frob’ (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.
>
> <signature of Ty Coon>, 1 April 1990
>
> Ty Coon, President of Vice

That’s all there is to it!

リモコンコード一覧

テレビ

BYDESIGN	14301、14401、14501、14601
EPSON	11001
FUJITSU	08701、10401
FUNAI	02501、02701、03701
HITACHI	00101、00301
LG	00301、00401、00901、01601、02601、09001
MITSUBISHI	00301、01301、01601、01901、02001、02601、02701、03101、03401、06701、11201、11901
NEC	00101、00301、00601、02001、02101、02401、02601、05701、06501、13201
ORION	00401、03101、04101、05801、06801
PANASONIC	00401、00601、00801、02201、03401、08301、12401
PHILIPS	00001、00301、00401、00601、00801、01201、01601、02601、04901、07001、08801、12601
PIONEER	01701、02201、02301、03801、08601、09501、11301
SAMSUNG	00101、00301、00401、00901、01101、01201、02001、02601、03701、04701、07001、07401、07801、08901、09801、10501、10701
SANYO	01401、02001、02701、02901、04301、10201
SHARP	00301、01301、08301
SONY	00001、08301、11101、11601、12701、12901
TOSHIBA	00901、02001、02101、06601、07801、08301、10901、12101、12301、13001、13201
VICTOR	00701、03401、04801、05801、08301、08401、08701
YAMAHA	00301、01801、08301、10001、11001、13501、13601、13701、13801、14001、14101、14201

ビデオデッキ

FUNAI	00002
HITACHI	00002、00402、00602、00702、02002
LG	00402、00702、00902、02902
MITSUBISHI	00602、00802、01302、01502、03502
NEC	00302、00402、00602、01102、01302、01602
ORION	01702、02602、02702、04402
PANASONIC	00302、01802、01902、03102、03702、04502
PHILIPS	00302、01502、03202、03902、04002
PIONEER	00702、01302、01502
SAMSUNG	00902、02002、02802
SANYO	01002、01602、02002
SHARP	01102、03502
SONY	00002、00102、00202、00302、03302、04102
TOSHIBA	00602、00802、00902、01302、01502、03602
VICTOR	00602、00902、01302
YAMAHA	00602

ケーブルテレビチューナー

PANASONIC	00003、00203、00403
PHILIPS	01003、01103
PIONEER	00503、01603、01903
SAMSUNG	00003、00503
SONY	02103
TOSHIBA	00003

衛星放送チューナー

HITACHI	01404、02804
HUMAX	03404、05304
MITSUBISHI	02304
PANASONIC	00904、01904、03004、06504
PHILIPS	00204、00704、01404、02004、02204、02304、03104、04104、05104、06904
PIONEER	03104
SAMSUNG	03804、04604、06004、06204
TOSHIBA	02304、02704、06904
VICTOR	02604

CD プレーヤー

DENON	01005
KENWOOD	00105、00405
MARANTZ	00205、00605
PANASONIC	00205
PHILIPS	00605
PIONEER	00305、00905
SANYO	00805
SHARP	00405
SONY	00005
VICTOR	00505
YAMAHA	01105、01205

CD レコーダー

MARANTZ	01305
YAMAHA	01405

DVD プレーヤー／レコーダー

DENON	00006
HITACHI	01106、01507、01906
KENWOOD	00006、00606
LG	02906
MARANTZ	00706
MITSUBISHI	00206
ONKYO	00106、04806
PANASONIC	00006、00007、00107、00207、01606、04206、05006
PIONEER	00406、00407、00507、00607、01006、01506、01606、05306
SAMSUNG	01106、04506
SANYO	02006
SHARP	01207、01307、01406
SONY	00506、00907、01007、01107、04006、05106
TOSHIBA	00106、00307、04606、04806、05406
VICTOR	00906、01306、01407
YAMAHA	00006、00706、00707、00806、04306、04406、04706

Blue-ray／HD DVD プレーヤー／レコーダー

ONKYO	04806
PANASONIC	05006
PIONEER	05306
SONY	05106
TOSHIBA	04806、05406

LD プレーヤー

PIONEER	00008
SONY	00208
YAMAHA	00308

MD レコーダー

KENWOOD	00109
ONKYO	00309
SHARP	00209
SONY	00009
YAMAHA	00409、00509、00609

チューナー

YAMAHA	00510、01410、03110、04810、05510、05610、05710、05810、05910、06010
YAMAHA (TUNER ID1)	04910
YAMAHA (TUNER ID2)	05010

テープデッキ

PHILIPS	00111
PIONEER	00011
SONY	00211
YAMAHA	00311、00411

その他の機器

YAMAHA (iPod)	05310

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）  0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

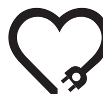
● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！


愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

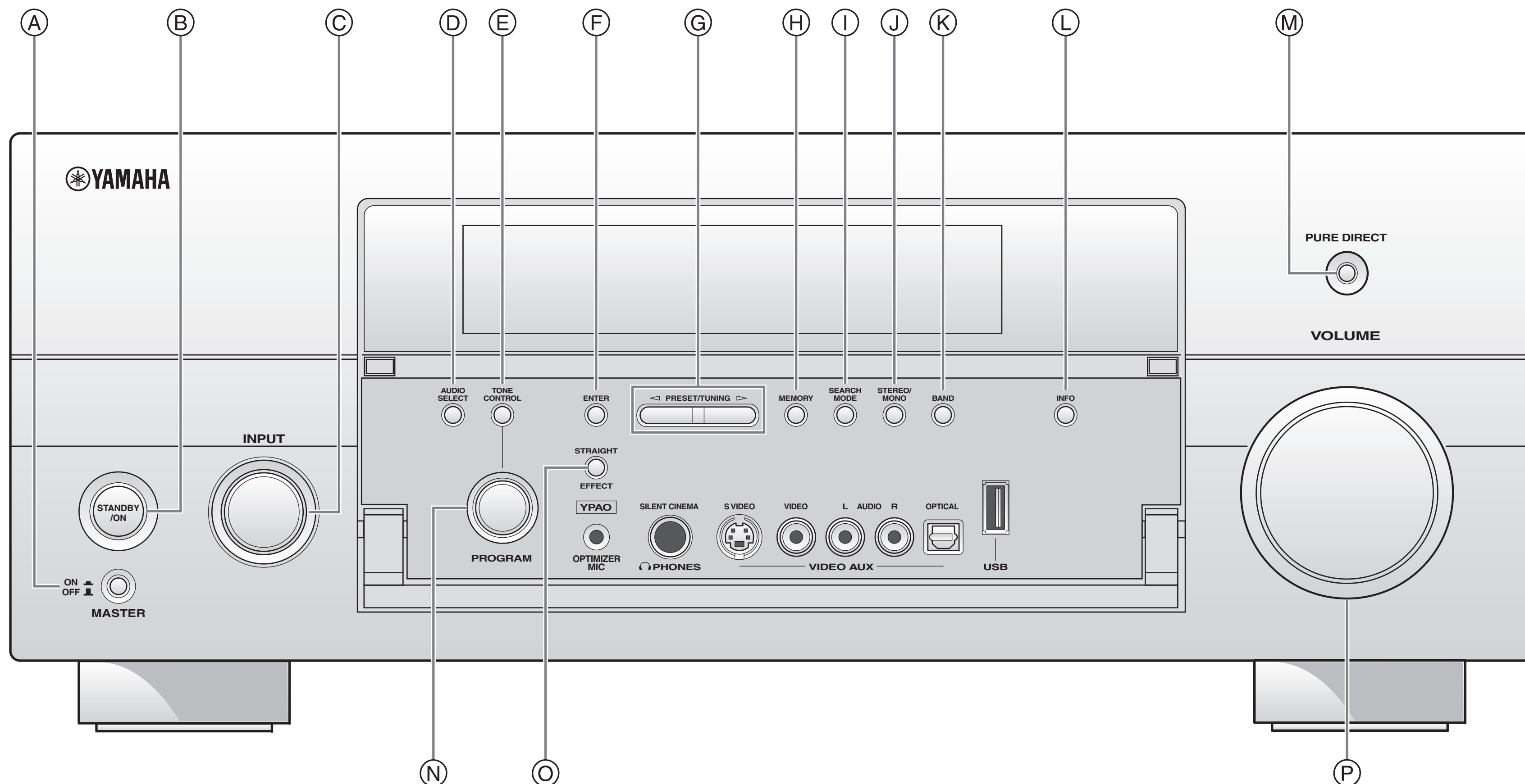


ヤマハ株式会社
Printed in Malaysia WP38580

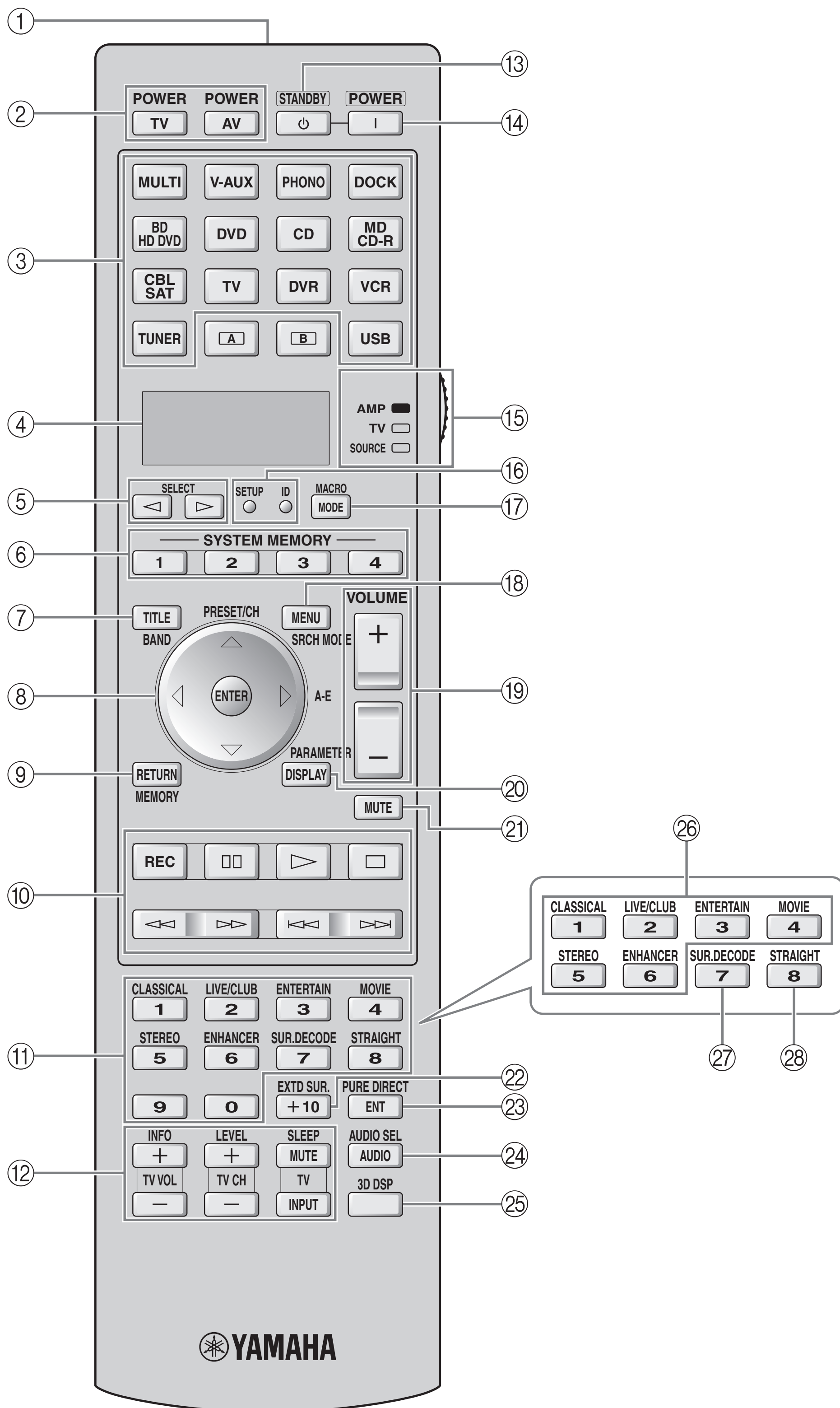
DSP-AX1900 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

■ フロントパネル



■ リモコン



YAMAHA CORPORATION
Printed in Malaysia WP38710